

すずむじ

第 108 号

1972年6月

倉敷昆虫同好会

目 次

- 倉敷昆虫同好会：岡山県の蝶 [The Butterflies of Okayama Prefecture] 1
- 黒田 祐一：音水及び坂谷国有林（兵庫県）のカミキリムシについて 63
- 近藤 光 宏：オキナワシリアゴコバチを県下で記録 78
- 平田 信 夫：岡山県のカミキリムシ（追録） 79
- 近藤 光 宏：那須敏氏採集による福島県湯の花および
南アルプスの Symphyta 広腰亜目 85
- 三宅 宗 夫：岡山県のカミキリ新記録・新分布地 87
- 山 地 治：岡山県未記録のカミキリムシ数種 88
- おとしぶみ
- 横田 正 義：オオムラサキとゴマダラチョウの自然交雑例 86
- 横田 正 義：臥牛山でヒゲナガモモボトカミキリを採集 86
-

岡山県の蝶

The Butterflies of Okayama Prefecture

倉敷昆虫同好会編

はじめに

近ごろ、蝶を自由に採集することがどうして悪いのだとか、むやみやたらに採集すべきではないとか、いろいろの意見がたたかわされて、以前にも増して、気の重いことである。

岡山県の蝶類については、われわれの知るかぎりにおいて、1700年代以来、なかならず1900年代にはいって数多くの文献に見られるように多くの人々によってそれぞれ、研究と発表がおこなわれてきている。しかし、それらの文献の多くは謄写印刷のものであり、また一般に入手しにくく、これから蝶に興味をもって研究をすすめようとしても、あるいは、県外にあって岡山県の蝶についての資料を入手しようとしても、ほとんど参照する機会に恵まれることが困難と予想される。

そこで、今までに発表された文献について、最善の努力をはらって収集につとめ、目を通し、新しい知見も含めて、現在までにいろいろの蝶について明らかにされていることを一つにまとめてみようを試みたものがこの報告である。

資料を収集整理して、まず、困った問題は分布資料となる採集データの扱いである。結局、全部を網羅して採録することは見送らざるを得なかった。従って、具体的な産地が示されていない種について、詳細を知りたい方は倉敷昆虫同好会宛に照会していただければ幸いである。

つぎの問題点は分布資料にくらべて、生態観察記録の少ないことである。一部の文献に食草を全種にわたって記載したのが見られたが手許の事実に基づいたというより、他の文献からの引用としか考えられない表現から、そのような資料は、今回の集録に採録していない。今回、とくに食草の確認について、難波通孝氏は多くの資料を提供されて寄与するところが大きい。

全般的に、いろいろな蝶の岡山県での実態について、まだまだ不明な点の多いことに気づく、これらについて、今後、その不明を埋めていく努力がなされるなら、編者の願いは大方、報われることとなる。

この報文を作成するにあたって白水隆博士からは文献の収集や一部の種の同定について、ご懇切なご指導、ご教示、ご援助をいただき感謝に耐えない。ここに記して厚くお礼申し上げる。一方、日頃から何かとご指導いただいている安江安宣博士からは、資料の提供や文献の収集について、ひとかたならぬご高配をいただき、また、重井博博士からは日頃よりこの仕事をすすめる上で何かとご指導ご援助をいただき、それぞれ、厚くお礼申し上げます。また、文献の収集について、佐藤清明氏、広瀬義躬氏、道信順氏にも大変お世話になったことを記して、それぞれ、感謝の意を表わしておきたい。

“岡山県の蝶”編さんに賛意を表わし、新しい資料を提供したものは次の通りである。(ABC順)。このうち、資料を整理し、分担して執筆にあたった者には*印を右肩につけておいた。

赤枝一弘*, 青野孝昭*, 河原正幸, 風早保男, 近藤光宏*, 三宅宗夫, 中村具見, 難波通孝, 那須 敏*, 小野 洋*, 大村 誠, 竹内 亮, 宇野弘之*, 脇本 浩*, 渡辺昭彦, 渡辺 毅, 安江安宣, 横田正義。

凡 例

1. この報文には岡山県下で記録された蝶類 124 種について、次のような内容が記述してある。

A: 分布記録, B: 分布の概説と発生経過, C: 食草(食樹, 食餌),
D: 生態その他

2. 分布記録については分布状態が県下一円に拡がっているものについては原則として、個々の採集地の採録は省略した。この報文でとりあげられた種についても、既発表の記録については既知産地のみを記し、その場所での新しい採集例について注目すべきものは()を付し Data を記入した。また、新産地での記録については右肩に*印をつけ、Data も重複するものをはぶいて最少限必要と思われるものを()内に示しておいた。その際、採集者名は、今回の資料提供者については記号で、他に倉敷昆虫館に展示されているものなどについては氏名を明記しておいた。記号と採集者の関係は次の通り。

Ak (赤枝一弘), At (青野孝昭), Km (河原正幸), Ky (風早保男),
Kt (近藤光宏), Mh (松野 宏), Mm (三宅宗夫), Nt (中村具見),
Nm (難波通孝), Ns (那須 敏), Oh (小野 洋), Om (大村 誠),
T (竹内 亮), U (宇野弘之), Wh (脇本 浩), Wa (渡辺昭彦),
Wt (渡辺 毅), Yy (安江安宣), Ym (横田正義)

3. 発生経過については、文献上の知見と、新しい知見をもとに要約して、旬単位でおよその経過を示してある。

4. 食草については、既発表のものには文献番号を右肩に示しておいた。新たに記録されるものについては*印をつけ、また、卵や幼虫が発見されても、その植物で飼育を完成させていないものについては()でくくって区別しておいた。

5. 生態その他について、既発表のものには文献番号を示しておいた。

6. 文献は著者名を基準にABC順に配列してある。編者が直接目を通すことのできなかった文献には*印をつけておいた。

7. 文献に出ているにもかかわらず、とりあげなかった種類は、次の通り 8 種になる。

アカセセリ, ヤマキチョウ, ミヤマシジミ, ギンボンヒョウモン, ヒョウモンチョウ, オオイチモンジ, オオミスジ, コヒョウモンモドキ

Family HESPERIIDAE セセリチョウ科

Subfamily PYRGINAE チャマダラセセリ亜科

Genus *Erynnis* SCHRANK, 1801 ミヤマセセリ属

1. *Erynnis montanus* (BREMER, 1861) ミヤマセセリ

B: 吉備高原以南では3月下旬から発生, 5月上旬まで成虫が見られる。北部の中国山地では4月中旬から発生, 生き残りが6月上旬に観察された例もある。初見記録は総社市の3月26日('55)。

C: (マキ)²⁴⁴, (コナラ)*

D: 松井('54)によって, 岡山市半田山では4月15日に雌成虫がマキの新芽および落葉あとの台座に1卵ずつ産卵したことが報じられている。卵は, はじめ黄白色のち黄色になるとのことである。

難波は蒜山原で'71年5月16日, 成虫がコナラに1卵を産みつけたところを観察している。

Genus *Daimio* MURRAY, 1875 ダイミョウセセリ属

2. *Daimio tethys* (MÉNÉTRIÈS, 1857)

subsp. *daiseni* RILEY, 1921 ダイミョウセセリ

A: 阿哲郡一三空*(July 16, '61, 重井 博), 荒戸山*(July 9, '61, 重井 博; Aug. 13, '61, KT), 青地, 永富, 雌山, 小坂部, 赤松*(June 2, '71, WT), 上石見・足立間; 新見市一西草間, 河本, 市倉峠, 吉川, 足立, 草間*(July 4, '65, AK; June 12, '66, AK; June 2, '71, WT), 井倉*(July 25, '62, AT), 井倉~方谷*(May 5, '62, MM; May 18, '68, MM), 満奇洞*(May 28, '61, 重井 博), 正田広瀬*(May 26, '71, WT), 千屋実*(July 14, '71, WT); 真庭郡一茅見, 神庭, 毛無山, 川上村, 高下; 苫田郡一恩原, 泉山 (May 5, '66, AK); 勝田郡一那岐山 (July 27, '63, AT); 川上郡一弥高山*(Aug. 25, '68, WA); 高梁市一玉川町 (May 14, '61, AT; May 22, '60, KT; June 17, '62, 重井 博), 臥牛山*(May 12, '70, Ns), 佐与谷, 増原*(Oct. 10, '61, 重井 博); 上房郡一井殿; 久米郡一誕生寺; 津山市一山北, 大谷, 下横野; 井原市一青野付近, 青野~黒忠; 吉備郡一昭和町, 草田, 高滝山付近, 槻*(May 12, '69, Ns); 総社市一豪溪, 井山*(Aug. 26, '71, NT); 御津郡一兵坂峠; 岡山市一金山, 竜の口, 竜の口山系, 東山公園, 奥矢津*(May 31, '64, AK)

B: 吉備高原に優勢で4月下旬から姿を見せ, 遅い例では高梁市の10月10日の観察がある。北部の山地では5月上旬から8月上旬までに成虫の観察例がある。南部ではごく稀に発見される程度で5月上旬から8月中旬の期間中に成虫が認められている。

C: (ヤマノイモ)⁸²

- D: 吉備郡昭和町で6月下旬には成虫が多く発生しており、サンゴジュの花への訪花、ヤマノイモ葉上に1齢幼虫が巣をつくっていることが青野('57)によって観察されている⁸²⁾。

Subfamily COELIADINAE アオバセセリ亜科

Genus *Choaspes* MOORE, [1881] アオバセセリ属

3. *Choaspes benjaminii* GUÉRIN

subsp. *japonica* (MURRAY, 1875) アオバセセリ

- A: 阿哲郡一雄山, 君山*(Aug. 18, '71, WT); 新見市一矢の峰, 阿哲峡, 羅生門, 鬼女洞前, 河本, 井倉~方谷*(May 3, '64, MM), 井倉*(May 4, '69, NT), 正田広瀬*(Sep. 4, '71, WT); 真庭郡一勝山町, 神庭の滝, 久世町摺鉢山, 川上村, 野土路*(May 24, '64, KT); 苫田郡一泉山 (May 22, '60, 富松), 上加茂, 大高下, 奥津川山, 鏡野町, 大神宮原; 勝田郡一那岐山 (July 26, 27, '63, AT); 高梁市一勘場*(Apr. 29, '66, ネギに訪花, Ns), 上神崎*(May 10, '63, ダイコンに訪花中, Ns), 玉, 佐与谷, 臥牛山*(May 12, '70, Ns); 上房郡一鐘乳穴 (Aug. 12, '70, 佐田野敏); 久米郡一福渡; 津山市一上横野, 一宮; 吉備郡一高滝山付近; 総社市一豪溪; 岡山市一金山, 金甲山*(Sep. 23, '68, WA), 西大寺; 都窪郡一清音軽部
- B: 吉備高原から, 北部の中国山地にかけて分布の中心があるが, 瀬戸内沿岸部からもわずかながら発見されている。4月下旬から5月下旬までと7月下旬から9月上旬までの2期に成虫の出現期が明瞭にわかれている点, この蝶の発生回数は年2回とみなしてよいだろう。
- D: 5月中旬に神庭の滝⁸³⁾で, 5月下旬には昭和町高滝山⁸²⁾で成虫がウツギの花にきていたことが観察されている。高梁市の勘場ではネギの花に, また上神崎ではダイコンの花に成虫がきていたところを観察している。

Genus *Bibasis* MOORE, [1881] キバネセセリ属

4. *Bibasis aquilina* SPEYER, 1879

subsp. *chrysaeglia* (BUTLER, 1881) キバネセセリ

- A: 真庭郡一毛無山, 蒜山高原鳥取大学農学部演習林*(Aug. 14, '71, T)
- B: 8月上, 中旬の記録があるだけで, 個体数も少ないものと思われる。
- D: 安東('58)によると毛無山では1957年8月4日にサンゴジュの花上に成虫がきていたそうである⁵⁹⁾。

Subfamily HESPERIINAE アカセセリ亜科

Genus *Leptalina* MABILLE, 1904 ギンイチモンジセセリ属

5. *Leptalina unicolor* (BREMER et GREY, 1853) ギンイチモンジセセリ

- A: 阿哲郡一雌山, 市倉峠; 真庭郡一星山, 毛無山, 蒜山麓平原, 蒜山高原鳥取大学

農学部演習林*(Aug. 14, '71, T), 新庄村, 中和村, 川上村, 八束村; 苫田郡一大ヶ山, 大高下, 黒岩, 恩原, 石越*(May 19, '69, Ak; May 21, '69, Ns), 上齋原村; 英田郡一後山, 東粟倉村

- B: 北部の中国山地に分布し, 春型は5月上旬から下旬にかけて, また夏型は7月下旬から8月下旬にかけて認められている.
- D: 日当りのよい山地草原を弱々しく飛んでいる姿がよく観察される.

Genus *Aeromachus* de NICÉVILLE, 1890 ホシチャバネセセリ属

6. *Aeromachus inachus* (MÉNÉTRÈS, 1859) ホシチャバネセセリ

- A: 阿哲郡一雌山; 新見市一矢の峰, 西草間, 草間*(June 21, '64, M; July 4, '71, Ns), 正田広瀬*(July 2, '71, WT); 真庭郡一茅見, 星山, 毛無山, 蒜山原, 犬狹峠*(Aug. 27, '67, MH), 八束村, 新庄村; 苫田郡一小林, 平作原, 恩原 (July 31, '60, 富松勇喬), 大神宮原, 上齋原村; 勝田郡一那岐山; 高梁市一玉川町 (June 18, '61, KT)
- B: 北部の中国山地と吉備高原の一部から発見されている. 玉川町では6月中旬と8月下旬の2回しか記録されていない. また, 北部の山地では星山での6月10日の記録の他は, 7月中旬~8月下旬に記録が集中している. 年2回発生は間違いないであろう.
- D: 草間では成虫がオカトラノオとヒメジヨオンの花にきていたのを観察している.

Genus *Thoressa* SWINHOE, 1913 コチャバネセセリ属

7. *Thoressa varia* (MURRAY, 1875) コチャバネセセリ

- B: 広く分布しているが南部の丘陵地帯では他より個体数が少ない. 春型は4月下旬より発生, 北部では生き残りが6月下旬までみられる. 夏型は7月上旬から出現, 北部になるほど発生がおくれる. 南部に近い総社市岩屋では9月17日が成虫の最終確認日となっている.
- D: 難波 ('63) は成虫が群をつくって吸水することを報じている²⁸⁷⁾.

Genus *Isoteinon* C. et R. FELDER, 1862 ホソバセセリ属

8. *Isoteinon lamprospilus* C. et R. FELDER, 1862 ホソバセセリ

- B: 広く分布しているが低山帯に分布が片寄っているようである. 6月中旬から出現するが南部の丘陵地帯では9月下旬という報告があり^{338) 341)}, 年2回発生の可能性が大きい. 北部では7月中旬~8月上旬に成虫が確認されているだけである.

Genus *Thymelicus* HÜBNER, [1819] スジグロチャバネセセリ属

9. *Thymelicus leoninus* (BUTLER, 1878) スジグロチャバネセセリ

- A: 新見市一足立, 市倉峠, 草間 (June 21, '64, MM); 真庭郡一茅見, 毛無山, 星山, 湯原, 勝山町; 苫田郡一恩原, 大神宮原, 奥津町; 津山市一小田中

B: 北部の脊陵山地に分布しているが、吉備高原の一部、草間台地にも分布が確認されて注目される。古い記録に和気郡閑谷³⁷³⁾、赤磐郡軽部村³⁷²⁾をあげてあるものが見られるが恐らく同定の間違いであろう。成虫は6月下旬から出現、8月上旬まで認められている。

D: 草間では成虫がヒメジョオンの花にきているのを観察している。

10. *Thymelicus sylvaticus* (BREMER, 1861) ヘリグロチャバネセセリ

A: 新見一草間 (July 3, '66, Ns; 15, '62, Mm), 井倉 (July 25, '62, At), 矢の峰; 真庭郡一毛無山, 湯原, 神庭, 蒜山原; 苫田郡一寺ヶ谷, 泉源~上齋原, 上齋原, 泉山, 百々峠; 英田郡一林野; 津山市一小田中; 高梁市一臥牛山, 上神崎*(June 16, '63, Mm), 玉*(July 1, '66, Nt), 広瀬*(July 6, '69, Ak); 吉備郡一昭和町; 総社市一豪溪, 湛井; 岡山市一西大寺竜ノ口, 竜ノ口山系, 金甲山*(June 23, '57, 安東); 赤磐郡一吉井山; 児島郡一タコラ山

B: 広く分布しているが局地的な傾向があり、とくに南部にその感が強い。南部の丘陵地や吉備高原では6月中旬から成虫が出現している。北部の中国山地では7月上旬に成虫が現われ、8月下旬まで確認されている。

Genus *Ochlodes* SCUDDER, 1872 コキマダラセセリ属

11. *Ochlodes venata*, (BREMER et GREY, 1853)

subsp. *herculea* (BUTLER, 1881) コキマダラセセリ

A: 阿哲郡一雌山; 真庭郡一三木ヶ原; 苫田郡一辰巳峠, 恩原, 泉山, 至孝野, 阿波村, 上齋原村; 津山市一鶴山城跡, 下横野; 勝田郡一那岐山

B: 中国山地で局地的にみつかっており記録も7月中旬から8月上旬までに集中しているが、津山盆地に近い下横野では成虫が9月下旬に確認されていて注目される²⁴⁹⁾。また、津山盆地の鶴山城跡での6月下旬の記録も早い例として注目される¹⁹⁷⁾。

12. *Ochlodes ochracea* (BREMER, 1861)

subsp. *rikuchina* (BUTLER, 1878) ヒメキマダラセセリ

A: 阿哲郡一三室, 大佐山, 山奥落合; 新見市一市倉峠, 草間*(May 29, '71, Nt; June 19, '66, Ns; June 23, '71, Wt; July 30, '63, Ns), 井倉*(June 19, '68, Mm), 正田広瀬*(May 15, '71, Wt), 唐松位田*(July 13, '71, Wt), 満奇洞*(May 28, '61, 重井博), 西川流域; 真庭郡一月田, 毛無山付近, 神庭 (June 8, '47, Oh), 芋ヶ谷*(June 28, '64, 重井博); 苫田郡一辰巳峠, 恩原, 泉山*(May 5, '66, Ak), 福見*(July 4, '60, 富松勇喬), 阿波村*(Aug. 3, '57, Yy); 勝田郡一那岐山 (June 19, 26, '71, Om); 川上郡一井戸*(May 26, '71, Wt), 羽山溪*(June 10, '62, 重井博; Aug. 4, '63, At); 高梁市一今津, 臥牛山*(Sep. 4, '67, Nt), 玉*(May 18, '63, Wh; June 6, '65, Nt; Sep. 12, '65, Nt), 上神崎*(June 17, '64, Mm), 鍋坂*(Aug. 3, '70, Nt), 鶏足山*(May 15, '60, Wh); 吉備郡一高滝山付近, 下倉, 槻*(June 19, '60, At); 総社市一新本*(June 18, '61, 重井博); 御津郡一兵坂

峠；井原市一青野～黒忠；岡山市一高松付近

- B：吉備高原から中国山地にかけて広く分布している。吉備高原では成虫の出現期間が5月中旬より9月中旬にわたっているが、7月には唐松における採集例が1例あるにすぎない。中国山地では5月上旬に早い記録があり、6月が最盛期、最終確認記録は8月上旬である。

Genus *Potanthus* SCUDDER, 1872 キマダラセセリ属

13. *Potanthus flavum* (MURRAY, 1875) キマダラセセリ

- B：南部では6月上旬～下旬と8月下旬～9月中旬の2期にわたって成虫が出現、北部山地では7月上旬から8月上旬の間に成虫が認められている。

Genus *Polytremsis* MABILLE, 1904 オオチャバネセセリ属

14. *Polytremsis pellucida* (MURRAY, 1875) オオチャバネセセリ

- B：南部の平地や吉備高原では通常6～7月と8～9月の2回にわたって成虫が出現している。中国山地では6月中旬から8月上旬までの年1回の発生が常態のようである。
- D：成虫がニラの花にくることが報告されている¹³¹⁾。また、室内にとび込む習性²¹⁾や、尾部より体液をだしては、自ら再び吸収する習性³⁸⁾も報告されている。

Genus *Pelopidas* WALKER, 1870 チャバネセセリ属

15. *Pelopidas mathias* (FABRICIUS, 1798)

subsp. *oberthüri* EVANS, 1937 チャバネセセリ

- A：阿哲郡一惣原*(Aug. 18, '71, WT)；新見市一正田広瀬*(June 13, '71, WT)；苫田郡一瀬戸；津山市一大谷，下高倉；川上郡一井川*(Sep. 21, '69, WH)；高梁市一津川*(May 7, '65, WH)；吉備郡一竜王山；総社市一井手，長良，三輪*(Aug. 24, '68, NT)；井原市一青野付近；浅口郡一柳井原；都窪郡一清音*(Sep. 26, '65, WH)，日差山，黒田；倉敷市一田ノ上，連島弁才天*(Sep. 2, 9, '62, MM)；連島*(Aug. 22, '61, KT；Sep. 19, '69, KT)；岡山市一西大寺金山*(Aug. 10, '53, AK)，西大寺芥子山*(June 14, '66, Ns)，西大寺。
- B：南部の平地から吉備高原，津山盆地にかけて分布しているようだ。早いものは4月中旬から，遅くは晩秋の11月下旬まで成虫の姿が認められている。
- D：広瀬('53)によって燈火飛来が報告されている¹⁴⁷⁾。

16. *Pelopidas jansonis* (BUTLER, 1878) ミヤマチャバネセセリ

- A：阿哲郡一雌山，小坂部；新見市一市倉峠，正田広瀬*(July 11, '71, WT)；真庭郡一神庭，蒜山高原鳥取大学農学部演習林*(Aug. 14, '71, T)，川上村；苫田郡一奥横野，奥津山川，泉山，上斎原村，羽出村，苫田村；津山市一福岡，上横野；御津郡一田東*(May 24, '70, YM)；吉備郡一高滝山付近

- B: 中国山地から吉備高原に分布しているようである。個体数は少ないようで、吉備高原では5月中旬から6月上旬の間にわずかな確認例があるのみ。中国山地では6月上旬から8月中旬まで成虫が姿を見せている。

Genus *Parnara* MOORE, [1881] イチモンジセセリ属

17. *Parnara guttata* (BEMER et GREY, 1853) イチモンジセセリ

- B: 吉備高原や瀬戸内沿岸部では、5月下旬～6月中旬と8、9月の2回にわたって成虫出現のピークがある。中国山地では6月にはいつてから成虫が出現し、観察例は9月下旬までである。

- D: 燈火飛来の報告が多く、広瀬('53)は燈火によく飛来することについて、本種が午前中より夕方頃まで飛翔活発で、午前中は主に訪花、夕刻には交尾産卵がおこなわれ、その姿が日没前まで見られることと関係があるだろうと指摘している¹³⁹⁾。また室内に飛び込むことについては赤枝('58)の報告があり、友野('56)は岡山市街地で飛翔速度が約20km/時であったことを報じている。倉敷市老松町では成虫がシオカラトンボ雌に捕えられ、食べられていた観察例²⁰⁷⁾がある。

わたりの習性については、それらしい動きが岡山市門田で観察され広瀬('52)によって報告されている¹²³⁾。

ニラの花にくることが倉敷で観察されている。

Family PAPILIONIDAE アゲハチョウ科

Subfamily PARNASSIINAE ウスバシロチョウ亜科

Tribe Parnassiini ウスバシロチョウ族

Genus *Parnassius* LATREILE, 1804 ウスバシロチョウ属

18. *Parnassius glacialis* BUTLER, 1866 ウスバシロチョウ

- A: 新見市一林、布原、草間大原*(June 2, '71); 阿哲郡一大佐山; 真庭郡一神庭、明連溪、野土路*(June 2, '68, MM), 田浪*(May 18, '69, MM); 苫田郡一泉山、石越、市場、河井、奥津川山、越畑、富村、阿波村、羽出村、苫田村; 勝田郡一那岐山; 英田郡一林野、西粟倉村; 久米郡一大井西

- B: 中国山地に発生地が多く、津山盆地や草間台地にも一部発生地を見るといったところである。

津山盆地の林野では4月下旬より発生し、5月上旬が最盛期、中国山地の泉山方面ではふもとで5月中、下旬、中腹で6月上、中旬に成虫の姿が見られる。

Tribe Zerynthiini ギフチョウ族

Genus *Luehdorfia* CRÜGER, 1878 ギフチョウ属

19. *Luehdorfia japonica* LEECH, 1889 ギフチョウ

- A: 真庭郡一蒜山原, 川上村, 中和村*(Apr. 22, '62, AT), 湯本, 神庭, 下真賀, 真賀, 真賀~星山, 見尾, 勝山町; 苫田郡一女原, 井坂, 奥津町, 富村; 勝田郡一那岐山
- B: 分布が中国山地の一部に限られており, 4月中旬から下旬の短期間に発生する. 最も早い記録としては, 苫田郡富村での4月7日('54)というのがある²⁴⁶⁾.
- C: (ミヤコアオイ)²¹⁹⁾.
- D: 古屋野('51)はミヤコアオイに卵, 幼虫がついていたことを報告し, 小野, 青野も神庭でミヤコアオイより6月8日('47)に終齢幼虫をえている.
訪花植物としてスマレが報告されている⁶³⁾が, 那須は1967年4月23日湯原でヤマザクラに訪花していたのを観察している.

Subfamily PAPILIONINAE アゲハチョウ亜科

Tribe Troidini ジャコウアゲハ族

Genus *Byasa* MOORE, 1882 ジャコウアゲハ属

20. *Byasa alcinous* (KLUG, 1836) ジャコウアゲハ

- A: 阿哲郡一大佐町; 新見市一足見*(June. 2, '71, WT); 真庭郡一落合町, 八束村, 苫田郡一鏡野町; 英田郡一作東町; 津山市一小田中, 上横野; 高梁市一津川町, 玉川町; 上房郡一賀陽町*(Aug. 27, '62, WH); 御津郡一字甘, 御津町, 下加茂*(Apr. 19, '64, 蛹多数, AT); 久米郡一西川; 赤磐郡一赤坂町*; 小田郡一矢掛町; 笠岡市*; 井原市一青野; 吉備郡一昭和町; 総社市一豪溪; 都窪郡一三須; 倉敷市一带江, 連島, 旭町, 西阿知*(Apr. 19, '61; July. 1, '62, MM), 福島山; 児島郡一迫川*(June. 11, '61, 蛹, AT), 赤崎; 岡山市一西大寺, 旧福田村, 妹尾崎, 高松町
- B: 吉備高原から北部の中国山地にかけては4月下旬~5月下旬と8月上旬~下旬の観察例が多い. 県南部の倉敷市では4月下旬~5月中旬, 6月下旬~7月中旬, 8月~10月上旬(1954)の3回発生していることが確認されている.
- C: ウマノスズクサ¹⁶⁸⁾.
- D: ミカン, ヤブカラシに訪花した例がある.
小野は, 1948年10月27日倉敷市帯江でウマノスズクサから幼虫採集, Nov. 2 (前蛹3)→Nov. 3 (前蛹3)→Nov. 5 (蛹化4) Nov. 21 (蛹化2), →Apr. 9, '49, (羽化1)→Apr. 16 (羽化2)→Apr. 21 (羽化3)→Apr. 24 (羽化2)→Apr. 27 (羽化1)の経過で成虫を羽化させている.
佐田野は笠岡市において1971年6月13日幼虫多数採集, 6月29日羽化させている. 高梁市玉川町で前翅外縁中央部がくびれた異常型がえられたことが報告されている³⁴⁾.

Tribe Graphinini アオスジアゲハ族

Genus *Graphium* SCOPOLI, 1777 アオスジアゲハ属

21. *Graphium sarpedon* (LINNAEUS, 1758)

Subsp. *nipponum* (FRUHSTORFER, 1903) アオスジアゲハ

B: 広く分布しており、県南部では4月下旬から春型が発生し、6月下旬に第1化の夏型が発生、以後連続的に発生しているが、8月と10月にピークがあるようである。中北部での記録は5月から6月上旬にかけて最も多いが以後10月中旬まで連続的に観察されている。

C: クスノキ²⁶⁴⁾ 266) 150)

D: 春型はネギに夏型はヤブカラシに好んで集まる。その他、シロツメクサ、ヒメジョオンに訪花するのが観察されている。又、打ち水や水たまりに、小きざみに翅をふるわせながら吸水する姿をよくみかける。広瀬('51)によって本種♂の地域占有2型(樹上空間占有、樹陰占有)が報告されており¹⁵³⁾、又、同氏によりクモが幼虫の主要な天敵になることが観察されている¹⁶¹⁾。

総社市における水野('52)の飼育例によると、

July. 23, '52 クスの葉裏に産卵→July. 26 (孵化)→July. 29 (脱皮)→Aug. 3 (脱皮)→Aug. 12 (前蛹)→Aug. 13 (蛹化)→Aug. 24 (羽化)

興味ある例として広瀬('53)によると、6月1日('52)蛹化した個体がそのまま夏型とならず翌年5月24日羽化したことが報告されている¹⁵⁰⁾。

Tribe Papilioninae アゲハチョウ族

Genus *Papilio* LINNAEUS, 1758 アゲハチョウ属

22. *Papilio machaon* LINNAEUS, 1758

subsp. *hippocrates* C. et R. FELDER, 1864 キアゲハ

B: 広く分布しており春型は4月中旬から5月中旬に、第1化の夏型は6月中旬に発生し、以後、7月下旬から8月上旬、9月下旬に発生ピークがみられ、倉敷地方では10月中旬まで成虫が野外で観察されている。最も早い記録としては、総社市長良での3月27日('60)というのがある²³⁶⁾。

C: (ポウフウ)¹⁶⁴⁾、(ウド)¹⁰⁴⁾、セリ¹⁰⁴⁾ 205)、(ナツミカン)¹⁶⁴⁾、ヤブジラミ*

D: 丘陵地山地に多く、特に本種は山頂に集まる習性があり、1例として広瀬('51)は倉敷市福山山頂でこれを観察している。近藤('52)は5月27日('52)倉敷市老松町で幼虫を「セリ」より採集、5月31日蛹化に至らしたが蛹の色は環境に左右されなかったことを報告している。又異状長期の蛹の例として船越は6月12日神庭でウドより採集した1齢幼虫がセリで飼育したのち、7月上旬蛹化し約2ヶ月後の9月2日羽化したことを報告している。変わった飼育例として広瀬はポウフウで採集した幼虫を夏ミカンで飼育、2頭羽化させているが斑紋には変化がみられなかったという。アザミへの訪花を観察している。

23. *Papilio xuthus* LINNAEUS, 1767 アゲハチョウ

B: 発生期は南中北部ともあまり大差はないと思われる。本種には初見日についての資料もあり、平均すると大体3月下旬であるが春型の本格的な発生は4月中旬頃となる。第1化の夏型は6月中旬頃あらわれ、7月下旬から8月上旬にピークがあり、県南の倉敷地方では10月下旬までみられることが観察されている。

C: カラタチ*, (サンショウ)*, (ミカン)*, (フユザンショウ)*

D: 広瀬は倉敷市田之上において7月2日('53)午後11時に本種が燈火に飛来したことを報告している¹⁴⁹⁾。前田('62)は湿度と蛹の関係について実験を行ったが好結果は得られなかったとしている。又アゲハヒメバチが出たことを確認している²³⁷⁾。

春型がネギ、アブラナに、夏型がヤブカラシ、ザクロの花に集まることを観察している。また、吸水に来ている姿も見ている。難波は川上郡成羽町黒鳥で9月19日('71)にフユザンショウより1卵、また岡山市北長瀬で10月22日('71)にサンショウより幼虫をえている。小野は倉敷市で10月17日('48)カラタチから幼虫をえている。青野は倉敷市で春型雌がカラタチに産卵するところを観察、カラタチで幼虫を羽化させている('48)。また、'71年には倉敷市でサンショウに卵、幼虫を確認、蛹化に至る前に何ものかによってつぎつぎと姿を消していくありさまを観察している。'69年にはミカンでも同様のことを見ている。

24. *Papilio macilentus* JANSON, 1877 オナガアゲハ

A: 阿哲郡一上市、布瀬、大佐町; 新見市一矢の峰、阿哲峽、西川流域、市倉峠、新見、井倉、大柏、足立; 真庭郡一毛無山、湯原町; 苫田郡一辰巳峠、恩原、横野奥、鏡野町、奥津町; 勝田郡一那岐山; 英田郡一福本*; 津山市一小田中、下高倉、黒沢山; 川上郡一羽山溪、井川; 高梁市一下神崎、佐与谷、今津、玉川町; 上房郡一井殿; 井原市一青野、黒忠; 吉備郡一昭和町; 総社市一豪溪; 倉敷市一福山、西坂、上東*(Aug. 上旬, '66, WA); 児島郡一金甲山; 岡山市一西大寺門前山、岡山、金甲山; 玉野市一金甲山*(May 24, '70, KM); 都窪郡一黒田

B: 吉備高原から中国山地にかけては広く分布しており、南部では一般に個体数は少ないようであるが、金甲山にはやや多く産するといわれる。中北部では春型は4月下旬から6月中旬まで夏型は7月下旬から8月中旬までと出現期が明瞭にわかれている。

C: カラタチ*, (コクサギ)*

D: ヤマユリ、クサギの花に好んで集まる。小野は倉敷市浅原のカラタチより幼虫を採集、飼育羽化させている。難波は高梁市広瀬で8月29日('63)、コクサギより幼虫を1頭えている。

25. *Papilio protenor* CRAMER, 1775

subsp. *demetrius* CRAMER, 1782 クロアゲハ

B: 吉備高原から南部での春型の発生は4月中旬から6月にかけて、北部では4月に記録された例はなく、5月に入って発生が見られる。夏型の発生は7月上旬頃からと

思われ以後連続的に観察され、倉敷地方では10月上旬まで成虫が見られる。

C: カラタチ*, ナツミカン*, (コクサギ)⁸²⁾

D: ナノハナ, タンポポ, ツツジ, ユリ, ミカン, ザクロ, クサギへの訪花が観察されており、又吸水にくる習性がある。水野('52)による発生の遅い例として、12月('52)カラタチで前蛹を発見したことが報告されている。青野('57)によれば♀がコクサギの地上50cm位の枝を好んで産卵するのが観察されている。

赤枝は岡山市津島及び高梁市玉川でカラタチより幼虫を採集飼育羽化させている。

又小野は倉敷市鶴形山で8月30日('49)カラタチから卵採集⇒9月2日('49)孵化を観察している。

那須は1963年、岡山市西大寺でナツミカンより幼虫を発見し、飼育を続けて夏型成虫を羽化させている。

好本('42)は岡山市金山より、無尾型1♂をえて報告している⁴¹⁴⁾。

26. *Papilio memnon* LINNAEUS, 1758

subsp. *thunbergii* von SIEBOLD, 1824 ナガサキアゲハ

A: 倉敷市一連島町宮之浦 (Aug. 10, '62, 1♂, 三宅宗夫採)²¹⁶⁾、連島町 (July 23, '70; July 4, 13, 19, '71; Aug. 18, '71, いずれも西島真也)、中央 (sep. 18, '51, 1♀, アサガオに訪花中を目撃, 山川東平)⁴¹⁵⁾、岡山市津島福居*(May 11, '70, 1♂, 新鮮飛翔中を目撃, YM)

以上が岡山県での記録のすべてであるが、最近、倉敷市連島の丘陵地にあるミカン園の周辺からかなり目撃されており、今後、冬期の蛹の発見など、越冬の事実についての調査がのぞまれる。

27. *Papilio helenus* LINNAEUS, 1758

subsp. *nicconicolens* BUTLER, 1881 モンキアゲハ

B: 各地からの分布報告例が多いが、南部では一般に個体数は多くない。成虫出現期は北部山地と南部とでほとんど差が認められず、春型の早いものは4月下旬から、本格的には5月中旬から6月中旬まで発生がみられる。夏型は7月下旬から8月下旬までみられるが、南部と中部地方で少数9月下旬の記録がある。所によっては年3回発生しているのかもしれない。越冬蛹は全く確認されていない。

D: 広瀬('57)によってクサギに訪花すること及び水たまりに集ることが観察されている¹⁷²⁾。

28. *Papilio bianor* CRAMER, 1777

subsp. *dehaanii* C. et R. FELDER, 1864 カラスアゲハ

B: 広く分布するが、南部では個体数が少ないようである。吉備高原から南では春型は4月下旬から発生、北部の中国山地では、5月に入ってから発生となる。6月下旬一時姿を消し、新鮮な夏型が現われるのは南中部においては7月上旬から、県北では7月中旬以降発生しているようである。遅い記録としては上斎原での9月11日

(‘55) というのがある²⁴⁹⁾。

C: カラタチ*, サンショウ*, (コクサギ)*

D: 春型はツツジ, キリシマ, 夏型はクサギを特に好んで訪花する。そのほかネギ, ヒガンバナに訪花した例があり, 吸水に来ている姿もよくみかける。若林(‘56)によると, 5月3日阿哲峡でウシの糞に集まっていたのが観察されている³⁹⁸⁾。

飼育例としては, 赤枝は8月27日(‘63)高梁市玉川でカラタチより終齢幼虫を採集し, 8月31日(‘63)蛹化, その後, 4月20日(‘64)に羽化させている。

小野は倉敷市鶴形山において8月30日(‘49)カラタチで産卵を確認, 7卵採集→9月3日(‘49)孵化させている。又難波は高梁市広瀬において8月29日(‘63)コクサギより幼虫10頭を採集している。

青野は倉敷市浅原でサンショウより幼虫をえて, サンショウで飼育, 成虫を羽化させている。

29. *Papilio maackii* MÉNÉTRIÈS, 1859

subsp. *tutanus* FENTON, 1881 ミヤマカラスアゲハ

A: 阿哲郡一神郷町, 神代, 雌山, 山奥落合, 定藤, 伏谷*, 大井野, 大佐町; 新見市一井倉; 真庭郡一新庄村, 毛無山, 湯原; 苫田郡一辰巳峠, 恩原, 泉山, 寺ヶ谷, 越畑, 鏡野町, 阿波村, 羽出, 奥津町, 石越, 上齋原村, 勝田郡一那岐山; 英田郡一後山, 西粟倉; 津山市一田邑, 黒沢山; 高梁市一玉川町, 臥牛山, 奥万田, 佐与谷, 今津, 津川町; 総社市一門田, 倉敷市一上東*(Sep. 17, ‘69, WA); 岡山市一金甲山*(Sep. 23, ‘68, WA), 玉野市一常山*(Apr. 26, ‘70, KM)

B: 瀬戸内沿岸部での採集例は少ないが4月下旬と, 9月中・下旬に少数記録されている。中部の吉備高原では4月下旬から中国山地では5月から春型が現われ6月上旬まで見られる。夏型は7月下旬から9月上旬まで観察される。

D: 春型は比較的数量が多く, ツツジに好んで訪花する。

広瀬(‘59)は, 阿哲郡大佐町にて, 吸水群集を観察している¹⁷³⁾。

Family PIERIDAE シロチョウ科

Subfamily PIERINAE シロチョウ亜科

Tribe Coliadini モンキチョウ族

Genus *Eurema* HÜBNER, [1819] キチョウ属

30. *Eurema hecabe* (LINNAEUS, 1758)

subsp. *mandarina* (de l' ORZA, 1869) キチョウ

B: 越冬した母蝶から生まれる第1化の夏型は5月下旬に発生し以後連続して11月下旬まで成虫がみられることが倉敷地方で観察されている。越冬個体が1月や2月などに野外で見られた例がある。1例をあげると岡山市下石井において1月27日(‘57)

というのがありこの日の最高気温は16.2°Cであったことが報告されている³⁹⁰⁾。

C: ニセアカシア*, ネムノキ*, ハギの一種*

D: 本種は吸水に集まる習性をもっているが、難波は井原市において多数吸水に集まっているのを観察している。河原正幸は玉野市常山にて9月14日('71) ネムノキより多数の幼虫を採集しており、難波も、岡山市金山にて6月10日('71) ネムノキより5卵及び幼虫を採集飼育羽化させている。

赤枝は岡山市西大寺の自宅でハギの一種から幼虫が育って成虫になっていく過程を観察している。

31. *Eurema laeta* (BOISDUVAL, 1836)

subsp. *bethesba* (JANSON, 1878) ツマグロキチョウ

B: 広く分布しているが、前種に比べ個体数は少ないようである。越冬した成虫は県北では6月に入っても見られ、夏型の記録は7月下旬と8月下旬などわずかしかなかく、発生状況は確かでない。しかし、秋発生するものは個体数も多いらしく、9月中旬以降かなり観察されている。

D: 飛翔中のものを見ることが多く、花上に集るのを観察された記録はまだ報告されていない。

Genus *Conepteryx* LEACH, [1815] ヤマキチョウ属

32. *Gonepteryx mahaguru* (GISTEL, 1857)

subsp. *niphonica* VERITY, 1909 スジボソヤマキチョウ

A: 河哲郡一矢神, 幸田*(June. 18, '71, WT), 荒戸山 (Sep. 20, '59, AK), 哲多町, 油野, 吉田*(Sep. 25, '71, WT), 神郷町, 大佐山*(Aug. 27, '71, WT); 新見市一足立, 吉川, 花見*(July 16, '67, AT), 草間, 井倉, 正田*(June. 18, '71, WT), 真庭郡一湯原町, 勝山町, 毛無山; 苫田郡一奥横野, 杉, 女原, 奥津町; 英田郡一福本*, 林野高校, 作東; 津山市一大谷, 黒沢山; 川上郡一羽山溪, 井川*(Sep. 28, '63, AT); 高梁市一大成, 笠根, 神崎, 玉川町, 今津, 佐与谷, 津川町; 上房郡一井殿; 御津郡一下加茂*(Oct. 18, '71, 風早保男) 兵坂峠, 御津町; 久米郡一二上山; 吉備郡一昭和町; 後月郡一明治, 岡山市一金山

B: 中部の吉備高原から中国山地にかけて広く分布しているが、南部の瀬戸内沿岸部ではみつかっていない。越冬した個体は4月下旬まで見られ、新鮮な個体が現われるのは中、北部とも6月中旬頃からである。年1回の発生。

C: (キビノクロウメモドキ)²²⁴⁾。

D: クリ, アザミ, ヒメジョオン等の花に集まったり、湿地に吸水にも来ることを観察している。

本種が驚くとぐんぐん上昇することが観察されている⁸³⁾。また道信('58)は越冬した成虫が谷間の日当りのよいところに集まり、追うと枯葉の中に体を横にし、寝たかっこうでとまると報告している²⁵¹⁾。岡山の昆虫('68)には渡部太郎氏によって撮影されたキビノクロウメモドキ葉上の幼虫の写真がある。

Genus *Colias* FABRICIUS, 1807 モンキチョウ属33. *Colias erate* ESPER, 1803subsp. *poliographus* MOTSHULSKY, 1860 モンキチョウ

B: 広く分布しており、春型が発生するのは南部では3月中旬から4月下旬まで中・北部では3月下旬から4月下旬までで、第1化の夏型は5月下旬から発生しているようである。以後連続して発生し、県北では10月には成虫が見られなくなるが、南部の倉敷市での観察では11月中旬まで見られるようである。最も早い記録としては岡山市旧福田村での3月9日('60)というのがある²³⁸⁾。

C: カラスノエンドウ、レンゲ*, ミヤコグサ*, シロツメクサ*, (ムラサキツメクサ)*

D: タンポポ, アザミ, ヒメジョオンへの訪花をみているが、ニラ¹³¹⁾, コスモス¹⁶²⁾に訪花することが報告されている。

青野は本種がシオカラトンボに食われた例をあげている⁶¹⁾。異常型が2例あげられており、広瀬は倉敷市老松にて、5月14日春型♀で前翅端より外縁にかけての黄斑が連続した個体¹¹³⁾および倉敷市酒津にて、6月15日左後翅の翅脈にそい数条の雄斑が走っていて左前翅前縁部等にも少量の雄斑紋をよそおい表面が大体左雌、右雄の個体(交尾器は雌)¹⁵⁸⁾を得て報告している。

難波は総社市中原で4月19日('71)にムラサキツメクサより6卵をえている。また、同じ総社市中原で5月15日('71)にはミヤコグサへの産卵をみ、3個体をその後の飼育で成虫を羽化させ、6月13日('71)には高梁市広瀬でシロツメクサへの産卵を観察して7卵を持ち帰り、やはり飼育後、成虫を羽化させている。

赤枝は岡山市西大寺でレンゲに幼虫がいるのを発見、またレンゲに卵を産ませて、飼育を続け成虫を羽化させたこともある。

Tribe *Euchloini* ツマキチョウ族Genus *Anthocaris* BOISDUVAL, RAMBUR et GRASLIN, [1833]

ツマキチョウ属

34. *Anthocaris scolymus* (BUTLER, 1866) ツマキチョウ

B: 南部と北部での発生期には大差はないようで、3月下旬から羽化しはじめて4月中旬が最盛期と思われる。県北では5月下旬まで生き残りがみられる。

D: ダイコン, アブラナへの訪花を観察している。小野('52)は岡山市津島にて4月18日タンポポに訪花した例をあげている³²⁷⁾。

Tribe *Pierini* シロチョウ族Genus *Pieris* SCHRANK, 1801 モンシロチョウ属35. *Pieris rapae* (LINNAEUS, 1758)subsp. *crucivora* BOISDUVAL, 1836 モンシロチョウ

B: 分布は広いがどちらかというと低地に個体数が多い。成虫の出現期については春型の早いものは2月中旬の記録もあるが、本格的には3月中旬以降のようである。夏

型は6月上旬に発生しているようで以後連続的に11月下旬まで発生が見られる。遅い記録としては、岡山市内での12月1日¹⁴²⁾、津山市内での12月2日²⁴⁹⁾というのがある。

C: (イヌガラシ)*, ジャクシナ*, ダイコン*, ハボタン*, キャベツ*

D: 訪花例として小野 ('52)³³²⁾はセンダングサを 広瀬 ('52)¹³¹⁾はニラの花をあげている。

青野は倉敷市にて7月8日('47)本種が燈火に飛来したことを報告している⁶⁰⁾。中塚('51)によれば幼虫がアオムシサムライコマユ (*Apanteles glomeratus* L.) によってへい死したことが観察されている。又、越冬中の蛹に2通りあるとしており、即ち休眠の浅いものは25°Cの恒温器に入れると8~10日で羽化をみる。休眠の深いものは50~60日経過してもいっこうその羽化を見ないとしている。なお蛹化後10日目に58°Cという高温接触にたえたもので25°C恒温器に収容後4日目に羽化した例をあげ休眠からの覚醒に高温刺激が一契機になることを指摘している²⁸³⁾。

難波による飼育例として岡山市北長瀬において5月30日('71)ジャクシナへ産卵を確認ののち飼育羽化させている。又、同氏は吉備郡昭和町にて6月13日('71)イヌガラシへの産卵を確認、終齢幼虫1頭を得ている。

小野は倉敷市旭町にて12月30日('47)幼虫採集、1月10日('48)蛹化を確認している。

松本 ('55)²⁴⁶⁾は倉敷市の岡大農生研で成虫の温度反応を研究、興味深い結果をえている。それに従うと、時期的には第1化期と第3化期のものが用いられているがそれらの間および、雌雄間の方に顕著な差は認められず、すべて同一母集団に属するものとして表に示すような各活動段階の温度範囲が推定されている。そしてこのことから、比較的低温適応性の昆虫であることを指摘し、さらに本種が世界的に年平均気温24°C以上の地域に分布していないことも述べて、十字花科植物の分布につながりをもちながらも、本種の分布が強く温度的環境条件に支配されているものと考察している。

モンシロチョウ成虫の各活動段階の温度範囲

活動段階	温度範囲 (信頼度95%)
歩行開始	7.7~14.5°C
飛翔開始	16.8~20.1
興奮	36.5~38.9
横転	42.9~44.7
仮死	45.0~45.6

36. *Pieris melete* MÉNÉTRIÈS, 1857 スジグロシロチョウ

B: 広く分布しているが、県南部での個体数は前種に比べあまり多くないようである。地域的な発生期の差異はほとんど認められないように思われる。春型は3月下旬から本格的には4月中旬以後発生がみられ、夏型は6月に入ってから発生と思われる。以後連続して発生し、遅いものは11月まで見られる。

D: アザミ、ヒメジョオンへの訪花を観察している。

37. *Pieris napi* (LINNAEUS, 1758)

subsp. *japonica* SHIRÔZU, 1952 エゾスジグロチョウ

- A: 新見市一足立⁴¹²⁾, 井倉*(May 5, '68, 2♂2♀; May 4, '69, 2♂3♀; Apr. 6, '71, 11♂4♀ いずれも NT), 草間*(June 16, '68, 10♂2♀; June 15, '69, 7♂1♀; June 22, '69, 1♂1♀; May 30, '71, 1♂; June 7, '71, 1♂, いずれも NT); 真庭郡一湯本*(Apr. 21, '68, 1♂, NT); 川上郡一大賀*(Aug. 16, '68, 1♂2♀, NT); 高梁市一臥牛山*(Aug. 12, '66, 1♂, NT)
- C: 春型は4月中旬から, 夏型は6月中旬と7月下旬~8月中旬に採集されている。
- D: 前種と混棲している場合が多く, 近年中村具見氏らが調査研究した結果, 本種が岡山県にも分布していることが確認された。

Genus *Pontia* FABRICIUS, 1807 チョウセンシロチョウ属

38. *Pontia daplidice* LINNAEUS, 1758

subsp. *orientalis* (KARDAKOFF, 1928) チョウセンシロチョウ

倉敷市酒津, Apr. 25, '40, 1♀ という記録が白水('59)によってとりあげられ, この記録は日浦('69)も引用している。小坂和彦氏が採集したといわれ, 広瀬義躬氏から資料が提供されているが, 標本は確認していない。

Family LYCAENIDAE シジミチョウ科

Genus *Narathura* MOORE, [1879] ムラサキシジミ属

39. *Narathura japonica* (MURRAY, 1875) ムラサキシジミ

- B: 中国山地の高所をのぞいて広く分布する。成虫越冬するが, 10月と2月の観察例はない。
- C: (アラカシ)*
- D: 小野は倉敷市小黑田で4月14日('48)にアラカシへの産卵を観察, 4月16日に孵化したところまでを見ている。
難波と青野は高梁市下神崎でアラカシの新芽に産みつけられた6卵を5月9日('71)に観察しているが孵化は確認していない。
岡山市では12月下旬に新鮮な成虫が発見され, 成虫が冬期でも暖い日には活動している例が安江('57)によって報告されている⁴¹⁰⁾。総社市では1月上旬の採集例がある²³⁶⁾。

40. *Narathura bazalus* (HEWITSON, 1862)

subsp. *turbata* (BUTLER, 1881) ムラサキツバメ

- A: 総社市一豪溪 (Oct. 20, '63, NM; Aug. 28, '71, WH; Sep. 4, '51,²⁶²⁾; Aug. 5, 16, '56⁷⁷⁾; Sep. 中旬, '40³⁵⁷⁾); 倉敷市一連島町宮之浦 (Oct. 22, '60³⁵¹⁾), 浅原

(Sep. 28, '62³⁵⁷), 鶴形*(Nov. 25, '64, 重井 博)

- B: 高梁川流域の総社市と倉敷市で8月上旬から11月下旬までに成虫の姿が観察されているが、個体数は記録的なものである。
- D: 記録の多い総社市豪溪にシリブカガシの群落があることが難波('63)によって報告され、本種とシリブカガシに深い関係のありそうなことが示唆されている。

Genus *Artopoetes* CHAPMAN, 1909 ウラゴマダランジミ属

41. *Artopoetes pryeri* (MURRAY, 1873) ウラゴマダランジミ

- A: 阿哲郡一上油野; 新見市一草間 (June 16, '57, 安東瑞夫); 真庭郡一蒜山, 川上村; 苫田郡一真加野, 泉山, 杉; 英田郡一作東; 津山市一福岡, 大谷; 高梁市一大成, 津川町きつね谷, 今津, 玉 (June 23, '60, WH), 神崎, 玉川町; 御津郡一兵坂峠, 本宮山; 備前市一三石; 吉備郡一高滝山, 下倉, 槻*(June 2, '57, AT) 総社市一長良, 湛井*(June 22, '65, NT); 都窪郡一黒田, 浅原峠, 大覚寺付近; 倉敷市一福田町坪井; 岡山市一金山, 半田山, 竜ノ口山系玉井, 稻荷山, 西大寺芥子山*(June 14, '62, Ns)
- B: 広く分布しているが、あまり多くはない。成虫が確認されているのは、5月下旬から7月上旬である。
- C: (イボタ)*
- D: 難波は1月5日('64)に岡山市金山で、2月28日('71)に高梁市玉川町でそれぞれ、イボタより最高20個の卵群と5卵を、また、5月15日('71)に高梁市玉川町でイボタより終齢幼虫 2exs をえている。また、難波は自然状態での孵化が他種より早いこと、即ち3月3日には孵化する例のあることを観察している。

Genus *Ussuriana* TUTT, [1907] ウラキンソジミ属

42. *Ussuriana stygiana* (BUTLER, 1881) ウラキンソジミ

- A: 新見市一足立 (July 23, '58, 河辺誠一郎); 真庭郡一蒜山, 八束村; 苫田郡一泉山; 勝田郡一那岐山; 英田郡一後山, 東粟倉村; 久米郡一誕生寺; 赤磐郡一吉井山; 和气郡一苦木*(June 14, '59, KT); 総社市一豪溪, 南奏, 門田, 湛井*(June 22, '65, NT), 井山*(June 5, '69, NT; June 14, '67, NT; June 23, '66, NT); 岡山市一金山, 竜ノ口山系, 稻荷山, 西大寺芥子山 (June 9, '63, Ns; June 13, '62, Ns; June 22, '65, Ns); 備前市一三石。
- B: 広く分布しているが、個体数は多くない。成虫の出現期は、6月上旬から8月上旬になっているが、南部は6月上旬から6月下旬、中部は6月中旬から7月下旬、北部では6月下旬から8月上旬と北部へ行くほど出現期もおそくなっている。
- C: ヤマトアオダモ*
- D: 難波は、2月14日('71)に金山のヤマトアオダモで、5卵を採集し、アオダモを与えて飼育、成虫を羽化させている。青野('56)は稻荷山で成虫がクリに訪花していたことを観察し、報告している⁷⁵⁾。

Genus *Japonica* TUTT, [1907] アカシジミ属43. *Japonica lutea* (HEWITSON, 1865) アカシジミ

B: 広く分布しているが、ウラナミアカシジより個体数は少ないようである。成虫の出現期は5月下旬から7月下旬となっているが、北部の津山市小田中での採集例¹⁹⁷⁾は、5月上旬で、これは南部の5月下旬の記録より、はるかに早い記録である。

C: アベマキ²⁸¹⁾, (コナラ)*, (ナラガシワ)*

D: 難波(63)は岡山市東山・金山のアベマキで、それぞれ1卵を採集し、成虫を羽化させている。IV-8孵化⇨V-6蛹化⇨V-19羽化。

その後、難波は、2卵を都窪郡山手村のコナラから1月11日(64)に、1卵を都窪郡清音村黒田のナラガシワから2月8日(71)にえている。

また、河原は、5月7日(71)に玉野市麦飯山のアベマキから幼虫1ex.をえて飼育し、同月17日羽化させている。

訪花について、6月3日(51)に清音村黒田のジャガイモ、クリの花に来ていたことが報告されている¹²¹⁾。

天敵については、6月15日(52)に児島郡タコラ山で入手した蛹から、キアンプトコバチの発生したことが、報告されている²⁴³⁾。

44. *Japonica saepestriata* (HEWITSON, 1865) ウラナミアカシジミ

B: 分布が広く、群棲の傾向が強い。成虫は5月下旬から8月中旬に出現しているが、津山市小田中では5月10日の記録がある¹⁹⁷⁾。

C: (ナラガシワ)*; アベマキ*

D: 難波は2月11日(71)に赤磐郡塩木のナラガシワ*から2卵をえている。また河原は5月7日(71)に玉野市麦飯山のアベマキ*から幼虫5ex.をえて、アベマキで飼育。同月23日、2♂を羽化させている。

Genus *Araragi* SIBATANI et ITO, 1942 オナガシジミ属45. *Araragi enthea* (JANSON, 1877) オナガシジミ

A: 新見市一足立: 真庭郡一中福田北奥の方面、八束村; 苫田郡一上斎原村中バス停留所川向い、上斎原村上の寺、落合*(Apr. 25, '71, 卵, 幼虫, NM), 阿波村

B: 7月上旬から8月中旬に脊梁山地で記録されているが、分布確認地は少ない。

C: オニグルミ*

D: 難波は落合で4月25日にオニグルミより26卵と1齢幼虫15頭をえて、飼育をつづけ成虫を羽化させている

Genus *Antigius* SIBATANI et ITO, 1942 ミズイロオナガシジミ属46. *Antigius attilia* (BREMER, 1861) ミズイロオナガシジミ

B: 成虫は、5月下旬から7月中旬に発生し、北部の中国山地では8月中旬まで記録されている。

C: アベマキ²⁸⁶、ナラガシワ²⁸⁶、(コナラ)*、(ミズナラ)*、(イボタ)*、(ヤマトアオダモ)*

D: 難波('63)は、岡山市東山、金山および都窪郡黒田、山手村のアベマキ、ナラガシワより採卵し、成虫を羽化させている。IV-16孵化⇨V-8蛹化⇨V-28羽化。その後、難波は2月8日('71)に高梁市広瀬のナラガシワより1卵、3月21日('71)には都窪郡山手村のコナラより3卵、4月11日('71)には苫田郡中津河のミズナラより1卵をそれぞれ確認している。他にイボタノキ、ヤマトアオダモより、それぞれ1卵を得たが発育しなかった。

河原は5月7日('71)に玉野市麦飯山のアベマキから幼虫 21exs をえている。

47. *Antigius butleri* (FENTON, 1881) ウスイロオナガシジミ

A: 阿哲郡一花木*(June 29, '71, WT); 新見市一草間 (June 7, '64, Ns; June 19, '66, Ak) 真庭郡一土用、川上村; 苫田郡一恩原、恩原池付近、羽出、泉山、上斎原; 勝田郡一那岐山; 英田郡一江見; 川上郡一布賀*(June 16, '63, 重井 博); 高梁市一大成、尾原、神崎 (June 7, '64, Mm), 玉*(June 18, '61, Kt), 笠根*(June 16, '63, Mm); 都窪郡一黒田; 岡山市一金甲山;

B: 産地が限定される傾向があるが、とくに瀬戸内沿岸地方では金甲山と黒田から記録されているだけである。成虫は6月上旬から8月上旬にかけて出現している。

C: ナラガシワ*

D: 難波は高梁市下切へ3月14日('71)に行き、ナラガシワから38卵をえて飼育、成虫を羽化させている。

Genus *Wagimo* SIBATANI et ITO, 1942 ウラミスジシジミ属

48. *Wagimo signata* (BUTLER, 1881)

f. *quercivora* (STAUDINGER, 1887) ウラミスジシジミ

A: 新見市一草間 (June 7, '64, Ns; June 15, '69, NT; June 21, '64, Mm; July 7, '63, Mm), 谷合*(July 25, '62, AT); 真庭郡一蒜山、大挾峠*(July 11, '71, T), 川上村; 苫田郡一恩原、上斎原村; 勝田郡一那岐山; 高梁市一臥牛山

B: 中国山地と高梁川流域の一部に局地的に生きのびている感がある。成虫の出現期は、6月上旬から8月上旬である。

C: コナラ*

D: 難波は3月7日('71)に新見市草間のコナラの芽より1卵を得て飼育し、成虫を羽化させている。

Genus *Iratsume* SIBATANI et ITO, 1942 ウラクロシジミ属

49. *Iratsume orsedice* (BUTLER, 1881) ウラクロシジミ

A: 真庭郡一野土路峠; 苫田郡一平作原、恩原*(Mar. 27, '71, 卵Nm), 泉源、倉見

B: 脊梁山地の一部から見つかっているが、野土路峠では、発生を確認した地点はその

後、樹木が伐採されて見る影もない。成虫は、6月下旬から7月中旬に記録されている。

C: アテツマンサク*

D: 難波は恩原のアテツマンサクより3月27日に13卵をえて、アテツマンサクで幼虫を飼育、成虫を羽化させている。

竹内('64)は成虫が午後3時ごろから活発に活動すると報告している³⁸⁴⁾。

Genus *Neozephyrus* SIBATANI et ITO, 1942 ミドリシジミ属

50. *Neozephyrus taxila* (BREMER, 1864)

subsp. *japonicus* (MURRAY, 1875) ミドリシジミ

A: 真庭郡一八束村大挾峠*~中和村別所*(July 11, '71, T); 苫田郡一泉源, 小林; 勝田郡一那岐山; 久米郡一誕生寺, 久米弓削; 吉備郡一竜王山; 総社市一三須, 三須中林, 井山*(June 5, '69, NT; June 14, '67, NT; June 23, '66, NT; July 23, '69, NT); 都窪郡一黒田, 福山, 片山 (June 22, '59, KT), 軽部*(June 2, '63, MM), 峠*(June 13 '68, NT; June 30, '69, NT), 清音; 倉敷市一福田町坪井, 日差山*(June 27, '71, WA); 児島郡一タコラ山, 彦崎 (June 18, '61, MM); 岡山市一高松, 金甲山

B: 南部での採集例は多いが, 中部の吉備高原からの記録は, ほとんど見当たらない。成虫の出現期は, 6月上旬から8月上旬にわたっている。

C: ハンノキ²⁸⁶⁾, ヤマハンノキ*

D: 難波('63)は2月17日('63)に黒田のハンノキで採卵し, 成虫を羽化させている。Ⅲ-21孵化⇨V-10蛹化⇨V-27羽化。

その後, 難波は, 2月21日('71)に都窪郡山手村のハンノキより21卵, 3月27日('71)には, 苫田郡上斎原村恩原のヤマハンノキより16卵を採卵し, それぞれ成虫を羽化させている。

広瀬('51)はクリの花へ成虫が飛来していたことを報じている¹²¹⁾。

Genus *Chrysozephyrus* SHIRÔZU et YAMAMOTO, 1956

メスアカミドリシジミ属

51. *Chrysozephyrus smaragdinus* (BREMER, 1864) メスアカミドリシジミ

A: 真庭郡一蒜山, 神庭, 月田, 土用*(June 28, 70, MM); 苫田郡一泉源, 泉山 (Mar. 28, '71, 卵殻, NM; Apr. 11, '71, 幼虫, NM), 倉見, 中津川; 勝田郡一那岐山

B: 脊梁山地で6月中旬から7月中旬に記録されているが, 個体数は多くない。

C: エドヒガン*

D: 難波は泉山のエドヒガンから脱出ずみの3個の卵殻(3月28日)と若齢幼虫10頭(4月11日)をえて, 飼育をつづけ成虫を羽化させている。

52. *Chrysozephyrus aurorinus* (OBERTHÜR, 1880) アイノミドリシジミ

A: 真庭郡一蒜山²⁰⁰⁾, 八束村¹⁹⁷⁾; 英田郡一日名倉山^{197) 249)}, 後山⁴⁰⁶⁾

B: 日名倉山は1943年7月20日(片山, '59)と1943年6月26日(井上他, '68)という2つの採集報告例をもっている。八束村は1951年8月4日(片山, '59)と示されている。蒜山からは具体的な Data は示されていないが京浜昆虫同好会('71)は溪谷地帯に多産としている。

後山では1964年7月11日に2♂が採集されたことが示されていて、この報告が一番くわしい。

Genus *Quercusia* VERITY, 1943 フジミドリシジミ属

53. *Quercusia fujisana* (MATSUMURA, 1910) フジミドリシジミ

A: 苫田郡一泉山²⁴⁹⁾, 上斎原村¹⁹⁰⁾, 羽出(旧羽出村)¹⁹⁰⁾, 奥津町(旧苫田村)¹⁹⁰⁾; 勝田郡一那岐山⁵¹⁾ 294); 英田郡一後山¹⁹⁷⁾

B: 正確な記録が少ない。後山では1950年6月24日に片山豊八氏が採集したというのが唯一のもの。泉山では1959年6月28日と1957年6月30日という報告がある。他からは具体的な Data は示されていない。6月下旬から7月にかけて発生しているものと思われる。

Genus *Favonius* SIBATANI et ITO, 1942 オオミドリシジミ属

54. *Favonius saphirinus* (STAUDINGER, 1887) ウラジロミドリシジミ

A: 阿哲郡一永富; 新見市一豊永*(June 30, '57, 安東瑞夫), 草間 (June 7, '64, Ns; June 16, '68, NT; July 30, '63, Ns); 真庭郡一神庭, 勝山町; 勝田郡一那岐山*(July 20, '70, OM); 英田郡一藤生, 林野幕谷, 東粟倉村, 作東町; 津山市一下高倉; 高梁市一今津, 尾原, 下切*(Feb. 28, '71, 卵, NM), 巨瀬 (June 22, '69, WH; July 7, '62, WH), 玉 (June 17, '62, 重井 博), 大成, 笠根*(June 16, '63, MM), 神崎*(June 16, '63, MM; July 7, '63, WH); 総社市一井山*(June 8, '71, NT); 都窪郡一黒田 (June 21, '52, 水野弘造); 倉敷市一北部丘陵; 児島郡一彦崎*(June 10, '62, MM); 岡山市一金甲山; 赤磐郡一塩木*(Feb. 11, '71, 卵, NM)

B: 6月上旬から8月上旬。広く分布するが局地的である。

C: ナラガシワ²⁸⁵⁾, (アベマキ)*

D: 難波 ('63) は2月24日 ('63) に都窪郡黒田でナラガシワより卵をえて幼虫をナラガシワで飼育, 成虫を羽化させて報告している。経過は次のとおり。

IV-11孵化⇨V-8 蛹化⇨V-29羽化。

その後、難波は2月11日 ('71) に赤磐郡の塩木でナラガシワより6卵, 2月28日 ('71) に高梁市下切のナラガシワで6卵をそれぞれえて、ナラガシワで飼育, やはり成虫を羽化させている。

また、アベマキを与えても順調に発育することを確認している。成虫の生態観察では、成虫がアベマキの下の笹にひそむ習性のあることを水野 ('53) が報告している²⁷⁸⁾。

55. *Favonius orientalis* (MURRAY, 1875) オオミドリシジミ

B: 成虫の出現期は、南・中部では、5月下旬から7月上旬に、北部では、少しおくれで6月中旬から8月上旬までとなっている。南部でも都窪郡の黒田で7月22日('51)とおそい記録がある³⁷⁴⁾。分布は広いが群棲はしないようである。

C: アベマキ*, コナラ*, ナラガシワ*, (アラカシ)*

D: 難波は、1月5日('64)に岡山市金山のアベマキで5卵、2月2日('64)には岡山市東山のコナラで2卵、5月9日('71)には高梁市広瀬のコナラより5齢幼虫 2exs. をそれぞれ発見し、飼育羽化させている。また、これらアラカシでも飼育し、羽化させている。

青野は6月9日('71)に高梁市下神崎のナラガシワで終齢幼虫をえて、ナラガシワで飼育羽化させている。総社市産で前翅表面の周囲に青色の帯状紋のある♀の異状型が秋山('60)によって報告されている⁴⁴⁾。

56. *Favonius jezoensis* (MATSUMURA, 1915) エゾミドリシジミ

A: 真庭郡一蒜山溪谷地帯²⁰⁰⁾; 苫田郡一中津河*(Apr. 11, '71, ミズナラより卵*, NM), 奥津町(旧苫田村)²⁵³⁾, 上斎原村²⁴⁹⁾, 勝田郡一那岐山²⁹⁴⁾; 英田郡一後山¹⁹⁷⁾

B: 中国山地からの報告がわずかにあるだけであるが、Data が示されたものとしては、片山('59)による後山, July 25, '55 と井上ら('68)による上斎原村, July 15, '62 および道信('62)による旧苫田村, July 13, '62 の3つに過ぎない。蒜山溪谷地帯は京浜混虫同好会('71)による。那岐山では西村('51)の報告以来確認されていない。

C: (ミズナラ)*, (ナラガシワ)*

D: 難波は4月11日('71), 上斎原村中津河で、ミズナラに産付された10卵を確認し、持ち帰った後、ナラガシワを与えて飼育観察を継続し、羽化させている。

57. *Favonius ultramarinus* (FIXEN, 1887) ハヤシミドリシジミ

A: 阿哲郡一奥谷, 市倉峠, 小坂部, 大井野*(Aug. 8, '58, AT); 真庭郡一八束村, 毛無山, 星山, 神庭, 勝山町, 大挾峠*(July 11, '71, T); 苫田郡一辰巳峠, 恩原(Mar. 27, '71, カシワより卵*, NM), 上斎原村; 英田郡一日名倉山 (July 19, '70, T), 後山南麓。

B: 北部の中国山地に分布しており、成虫は、7月の中旬から8月の中旬にかけて出現する。

C: カシワ*

D: 難波は恩原でカシワに産付された35卵を確認し、これにナラガシワを与えて観察を継続し、羽化させている。

58. *Favonius latifasciatus* SHIRÔZU et HAYASHI, 1951 ヒロオビミドリシジミ

A: 阿哲郡一奥谷*(June 24, '58, AT); 新見市一草間 (June 7, '64, Ns; June 15, '69, NT; Mar. 14, '71, ナラガシワより卵*, NM), 西草間; 勝田郡一那岐山*(June

19, '71, OM; June 26, '71, OM; July 20, '70, OM); 津山市一上高倉; 高梁市一尾原, 大成, 笠根*(June 16, '63, MM), 神崎*(July 7, '63, WH), 下切*(Feb. 28, '71, ナラガシワより卵*, NM), 玉, 玉川町 (June 18, '61, KT; June 27, '61, 河辺誠一郎).

B: 吉備高原から中国山地にかけて分布している。成虫の出現期はほぼ6月中旬から下旬に集中しており, 7月の下旬頃まで活動が見られる。

C: (ナラガシワ)*

D: 難波は, 下切でナラガシワより2卵, 草間でも同じくナラガシワより1卵をえている。

59. *Favonius cognatus* (STAUDIGER 1892) ジョウザンミドリシジミ

A: 真庭郡一蒜山溪谷地帯²⁰⁰⁾; 苫田郡一上斎原村²⁴⁹⁾; 英田郡一日名倉山¹⁹⁷⁾

B: 片山 ('59) による日名倉山での採集記録, July 25, '43 と美作虫の会 ('68) による上斎原村での July 25, '62 という Data の外, 片山 章氏 ('39) の July 10, '38, 3♀という報告¹⁹²⁾もあるが, これは産地が示されていないのでどうしようもない。蒜山溪谷地帯というのは京浜混虫同好会 ('71) による。

Genus *Rapala* MOORE, [1881] トラフシジミ属

60. *Rapala arata* (BREMER, 1861) トラフシジミ

B: 広く分布していて報告例も多いが南部の瀬戸内沿岸部では個体数が少ない。春型は中部の吉備高原や南部の低地では4月下旬から, 北部では5月上旬から出現する。夏型は, 6月下旬から発生が見られ, 8月下旬頃まで活動が認められる。

D: 大野は彦崎で6月15日 ('63) に幼虫を発見し, 飼育を続けて6月25日に成虫を羽化させている。総社市では成虫がウツギ, バラの花にきていたことが観察されている。

Genus *Strymonidia* TUTT, [1908] カラスシジミ属

61. *Strymonidia w-album* KNOCH, 1782

subsp. *fentoni* (BUTLER, 1881) カラスシジミ

英田郡後山で1950年6月25日に片山豊八氏が採集したという報告^{187) 189) 249)}が三度にわたって見られるが出所は上記一つだけである。

他に岡山県最北部に少という報告²²¹⁾もあるが信ぴょう性のほどは明らかでない。

62. *Strymonidia mera* (JANSON, 1877) ミヤマカラスシジミ

A: 真庭郡一蒜山^{197) 187)}, 川上村^{250) 187)}, 中福田²⁴⁹⁾, 八束村^{300) 187)}; 英田郡一日名倉山¹⁸⁷⁾.

B: 北部の中国山地から報告されているが, 記録は少ない。日名倉山の記録は Aug., '40, 片山採集という1例, 井上 ('56) の報告だけであり, 蒜山方面の採集記録では

Aug. 5, '56, 3exs., 井上採集という道信 ('57) の報告と片山 ('59) による Aug., '57, 道信 ('62) による July, '59, 井上ら ('68) による Aug. 2, '66 という Data が示されているのみである。

Genus *Ahlbergia* BRYK, 1946 コツバメ属

63. *Ahlbergia ferrea* (BUTLER, 1868) コツバメ

B: 広く分布しており, 南部では3月下旬から出現し4月上中旬が最盛期であるが, 4月一ぱいは活動を続ける。吉備高原から中国山地とかけると, 4月上旬から発生し, 北部では5月中旬まで成虫が見られる。南部の遅い記録として玉野市常山で5月23日 ('71) というのがある。

C: ナツハゼ*

那須は5月31日 ('71), 高梁市臥牛山で, ナツハゼから終齢幼虫をえて, そのまま6月7日に蛹化を見, 現在飼育中である。また青野は4月14日 ('63), 高梁市佐与谷で成虫がキブシに訪花中を観察している。

Genus *Spindasis* WALLENGEN, 1857 キマダラルリツバメ属

64. *Spindasis takanonis* (MATSUMURA, 1906) キマダラルリツバメ

A: 阿哲郡一北部地域; 真庭郡一神庭, 勝山町; 苫田郡一泉山, 杉, 奥津町(旧苫田村), 久田村; 勝田郡一久賀, 那岐山; 英田郡一日名倉山*(July 19, '70, T), 福本*(June 19, '71, Yo), 林野町; 和気郡一三国村。

B: 岡山県の北東部を中心に分布, 阿哲郡の北部を上げた山本 ('32) の報告をあいまいさの故に除外すると山陽側での西限は真庭郡の神庭となる。北部では6月中旬から成虫の発生が見られ7月上, 中旬が最盛期のようである。

D: 6月19日 ('71), 英田郡福本でクリの花に来ていたことが山地によって観察されている。

Genus *Lycaena* FABRICIUS, 1807 ベニツジミ属

65. *Lycaena phlaeas* (LINNAEUS, 1761)

subsp. *daimio* (SEITZ, 1909) ベニツジミ

B: 広く分布している。春型は, 南部では3月中旬から, 中部以北では3月下旬から発生する。また, 夏型は南部で6月上中旬, 北部で6月中, 下旬には発生する。南部平地での終見は11月上旬。

なお, 遅い例として, 奥津町杉で12月14日 ('55) に成虫が観察されている²⁴⁹⁾。

C: スイバ*, ギンギン*, ヒメスイバ*

南部での産卵活動は4月下旬に至ると活発で(4月22日, '48, 小野), 難波は総社市豪溪で5月2日 ('71) スイバで8卵を確認, また高梁市広瀬でも5月9日 ('71) ギンギンで産卵活動を観察している。これはギンギンで飼育を継続, 羽化させている。更に北部では蒜山原で, 5月16日 ('71) に, ヒメスイバで1卵を確認してい

る。6月23日('71)には岡山市三野でヒメスイバより、1卵を確認、これはヒメスイバで飼育をし、羽化させている。青野も6月9日('71)、高梁市広瀬でスイバとギシギシに産付された卵を確認している。また冬期の幼虫について難波は、岡山市旭川堤防で1月10日('71)、スイバで若齢幼虫を確認、降霜の際は付近の落葉に静止するものがかなりいたことを観察している。

訪花植物として、ヒメジヨオン³²⁸⁾、オオフタバムグラ¹⁸¹⁾、ヨメナ¹⁸¹⁾、ニラ¹⁸¹⁾が報告されている。

また青野('52)は、早春、低温下では、成虫が僅かの振動で、枯草上から転落し、擬死現象を示すという興味深い観察をおこなっている⁷⁰⁾。

Genus *Taraka* de NICÉVILLE, 1890 ゴイシジミ属

66. *Taraka hamada* (DRUCE, 1875) ゴイシジミ

A: 阿哲郡一荒戸山*(Sep. 20, '59, AK), 布瀬*(June 1, '60, AK); 新見市一齊渡寺, 吉川, 花見*(Aug. 4, KT), 足立, 矢の峰*(July 26, '64, Ns), 草間*(June 13, '65, Ns) 真庭郡一湯原, 蒜山, 毛無山, 土用, 芋ヶ谷*(June 28, '64, 重井 博), 川上村; 苫田郡一辰巳峠, 恩原, 高清水高原, 泉山, 瀬戸, 越畑*(June 5, '66, AK; June 26, '66, AK), 羽出, 上斎原村 (May 21, '69, Ns), 阿波村*(Aug. 3, '57, YY; Aug. 16, '57, 安東瑞夫); 勝田郡一右手峠*(July 15, '66, 目撃, MH); 英田郡一後山; 津山市一上ノ町, 下高倉; 高梁市一玉 (June 26, '60 WH; June 2, '63, WH), 下切, 今津, 宇治*(June 18, '61, 重井 博), 玉川町 (Aug. 27, '63, AK), 鶏足山*(May 15, '60, WH); 小田郡一北川; 吉備郡一槻*(June 19, '60, AT); 総社市一長良, 湛井*(July 27, '65, NT); 都窪郡一黒田; 倉敷市一酒津; 岡山市一芳田, 古京町, 金山*(Sep. 8, '63, 幼虫, NM; Dec. 27, '63, 幼虫, NM; Mar. 6, '64, 幼虫, NM)

B: 県下一円に分布するが、成虫の発生確認の記録は比較的、北部で多いようである。5月中、下旬から発生し、北部では9月下旬まで見られるが、殊に6月下旬から8月上旬にかけての出現の記録が多い。また年により発生量および発生消長の違いが、かなりいちじるしいようである。

C: (タケツノアブラムシ)*

D: 難波は、岡山市金山で、9月8日('63)、12月27日('63)、3月6日('64)の3回にわたり、ササの葉裏で若齢幼虫を発見し、つねに付近にタケツノアブラムシ多数がいたことを確認している。

Genus *Niphanda* MOORE, [1875] クロシジミ属

67. *Niphanda fusca* (BREMER, 1864) クロシジミ

A: 阿哲郡一市倉峠, 小坂部; 新見市一草間 (July 7, '63, MM); 真庭郡一郷原, 大挾峠*(July 11, '71, T), 勝山町, 川上村; 苫田郡一泉山, 出羽, 恩原, 上斎原村, 大神宮原, 養野, 山乗山*(July 28, '63, 重井 博), 津黒山*(July 28, '63, 重井

博)；勝田郡一那岐山，日本原野，滝山；川上郡一日里；高梁市一笠根，神崎，春木，鍋坂*(Aug. 3, '70, NT)；久米郡一弓削町；赤磐郡一熊山 (Aug. 9, '60, WH, 軽部村)；和気郡一吉永町*(July 12, '56, 安東瑞夫)；浅口郡一金光町。

B: 吉備高原から中国山地にわたって分布している。7月上旬から8月中旬にかけて出現する。最盛期は7月下旬～8月上旬のようである。

Genus *Lampides* HÜBNER, [1819] ウラナミンジミ属

68. *Lampides boeticus* (LINNAEUS, 1767) ウラナミンジミ

B: 広く分布する。成虫の出現は7月下旬頃からで、9月が最盛期となるが、南部では10月末まで活動が続き、11月の下旬には見られなくなる。また6月に2例、5月(南部)に1例、更に早い時期の成虫出現の記録としては、倉敷市鶴形(旭町)で2月9日³⁸⁶⁾、倉敷市福田で3月18日¹⁰¹⁾というのがある。

C: (アズキ)*, (ダイズ)*

D: 早春に、極めて稀にはあるが、成虫が確認されており、また5月頃には、かなり汚損した固体が観察されている。しかし、未だ本県内で越冬することについては、決定的な調査記録はなく、疑問視されている。

青野は8月13日('61)川上郡坂本で、アズキ畠に多数集っているのを観察。また赤枝は、ダイズへの産卵とそれに各齢の幼虫がいるのを観察している。

難波は9月19日('71)、川上郡成羽町でアズキにいた終齢幼虫を確認している。

9月7日('52)に岡山市の半田山で、成虫がアキノキリンソウ、コウヤボウキの花に来ていたことが井手('52)によって観察されている¹⁷⁹⁾。

Genus *Zizeeria* CHAPMAN, 1910 ヤマトンジミ属

69. *Zizeeria maha* (KOLLAR, 1848)

subsp. *argia* (MÉNÉTRIÈS, 1857) ヤマトンジミ

B: 広く分布、春型は4月上旬頃に発生、夏型は6月上、中旬頃から発生する。成虫は10月下旬頃まで活動が見られる。なお南部では早い時期の発生もあり、3月中、下旬の記録がある。

C: カタバミ¹⁵⁶⁾, (タチカタバミ)*

河原は、倉敷市福田町古新田で5月22日('71)カタバミへの産卵活動を観察、飼育を継続し、6月下旬羽化させている。また、難波は、11月22日('63)岡山市北長瀬でカタバミにいた若齢幼虫を観察しており、赤枝はタチカタバミへの産卵活動を観察している。

広瀬('53)は8月13日、倉敷市田ノ上でカタバミに1卵を産付後葉上に静止していた1♀が、飛来したると再交尾したのを観察している。その卵は16日にふ化した。なお、その際の飛翔型式は(♂+♀→)であった。

Genus *Zizina* CHAPMAN, 1910 シルビアシジミ属70. *Zizina otis* (FABRICIUS, 1787)subsp. *emelina* (de l' ORZA, 1869) シルビアシジミ

- A: 勝田郡一真加部, 余野, 高円, 黒土, 長良, 八ヶ原池, 原, 日本原, 豊国原, 皆木; 英田郡一志越峠, 沢, 藤生, 作東町; 津山市一大谷, 小田中, 津山; 御津郡一辛川市場, 金川*(Sep. 30, '56, AK), 建部町 (Sep. 30, '56, AT); 赤磐郡一仁堀*, (Oct. 16, '57, Yy); 和気郡一閑谷*(May 21, '57, Yy); 吉備郡一妙見山, 昭和町; 総社市一桜谷, 長良, 井山*(Aug. 20, '65, NT; Sep. 27, '65, NT); 都窪郡一黒田 (July 28, '56, AT), 平山, 山田; 倉敷市一福田, 東塚, 片島*(Oct. , '63, MM; July 20, '61), 浅原*(Dec. 28, '63, ミヤコグサから幼虫, NM); 児島郡一木見森池, 尾原; 岡山市一津島, 蛸干山, 半田山*(July 20, '69, WA; Oct. 9, '66, AK); 邑久郡一福岡河原.
- B: 脊陵山地の高所を除いて広く分布しているようである. 成虫は4月下旬から発生, 南部では10月下旬まで見られる.
- C: (ミヤコグサ)³⁾

9月11日('54), 西大寺蛸干山でミヤコグサに産付されていた1卵が赤枝('54)によって観察されており, 難波は12月28日('63), 倉敷市浅原でミヤコグサにいた若齢幼虫5個体を観察している.

安江('57)は本種の日本における分布と食草の分布について詳細に調査, 検討し, ミヤコグサよりもむしろコマツナギの分布が本種の分布と略一致することを報告している⁴⁰⁾.

Genus *Maculinea* van ECKE 1915 ゴマンシジミ属71. *Maculinea teleius* BERGSTRÄSSER (1779)subsp. *daisensis* (MATSUMURA, 1926) ゴマンシジミ

- A: 阿哲郡一永富, 荒戸山*(Aug. 13, '61, 重井 博); 新見市一天銀山*(Aug. 13, '61, KT), 花見*(Aug. 4, '61, AT; Aug. 13, '61, AT); 真庭郡一大挾峠*(Aug. 4, '66, MH; Aug. 27, '67, MH), 蒜山 (Aug. 14, '71, T; Aug. 2, '71, 目撃, KY), 川上村, 八束村, 中和村, 新庄村, 美甘村; 川上郡一弥高山*(Aug. 25, '68, WA); 高梁市一春木.
- B: 中国山地から吉備高原に拡がっているが, 山陽側での東限は現在までの知見では, 真庭郡八束村の大挾峠より少し東の中和村から斜めに美甘村へ伸び, 大佐町の永富を経て高梁市の春木へ南下した線ということになる. その線以東, 以南からは分布を認めていない. 成虫は7月中旬に初発を迎え, 8月下旬まで活動しているようである.

Genus *Celastrina* TUTT, 1906 ルリシジミ属72. *Celastrina argiolus* (LINNAEUS, 1758)

subsp. *Labonides* (de l' ORZA, 1869) ルリシジミ

B: 県下一円に分布。春型成虫は、南部では3月上、中旬から、中部以北では3月下旬に発生する。夏型は南部では6月上旬には発生し、9月まで活動が見られる。

C: クララ*, フジ²⁴⁵⁾

D: 小野は4月14日('48), 倉敷市小黑田でフジの花のつぼみに多数産卵している活動を観察し、飼育を継続した。難波は5月15日('71), 総社市豪溪で、クララへの産卵を確認し、クララで羽化させた。また青野も4月29日, 倉敷市酒津でクララの新芽への産卵を確認している。松井('54)は岡山市でフジ花房に成虫が1卵ずつ産卵するところを観察、報告している²⁴⁵⁾。青野は総社市でフジ棚より成虫、卵、幼虫、蛹の経過を春季に観察している。

4月14日('63)に高梁市佐与谷で成虫がキブシの花に来ていたことが青野により観察されている。

また、青野('52)はベニシジミの場合と同ように、早春低温下では振動により容易に落下し、擬死現象を示すことを観察している⁷⁰⁾。

73. *Celastrina sugitani* (MATSUMURA, 1919) スギタニルリシジミ

A: 苫田郡一越畑²⁵⁵⁾, 加茂町²⁴⁹⁾; 勝田郡一那岐山付近²⁹⁴⁾, 滝山²⁴⁹⁾, 勝北町²⁵⁵⁾。

B: 分布地が中国山地に限られていて、現在までに確認された地点も少ない。報告された Data をひろってみると、勝北町の滝山, Apr. 29, '62, 1♂, 道信('62), 井上他('68)と鏡野町越畑, May 5, '62, 3♂, 道信('62)の2つがややくわしく、加茂町, May 8, '64, という記録と苫田郡, May 13, '62 の記録は産地の表現がややぼんやりとし、那岐山付近という報告には Data がついていない。現在わかっていることはこれだけである。成虫は4月下旬から5月中旬までに出現と見なされよう。

Genus *Everes* HÜBNER, [1819] ツバメシジミ属

74. *Everes argiades* (PALLAS, 1771)

subsp. *hellotia* (MÉNÉTRIÈS, 1857) ツバメシジミ

B: 県下一円に分布。成虫は3月中旬から発生、9月下旬まで連続的に出現する。発生回数は調べられていない。

遅い終見例として南部の倉敷市片島で10月21日('62)というのがある。

C: (カラスノエンドウ)*, (ニセアカシヤ)*, (メドハギ)*, (シロツメクサ)*, (コメツブツメクサ)*, (ツクシハギ)*, (ヤハズソウ)*

D: 小野は4月14日('48), 倉敷市小黑田でカラスノエンドウに産卵しているところを確認し、飼育観察を継続した。青野は4月29日('67), 同所でニセアカシヤの新芽に産卵しているのを確認している。

また、難波は1971年、つぎの植物への産卵を観察している。6月23日, 岡山市三野でメドハギへ2卵, シロツメクサへ1卵, コメツブツメクサへ5卵。6月26日, 岡山市北長瀬でシロツメクサへ産卵中の5卵。9月12日, 総社市豪溪でツクシハギ

へ。9月19日、川上郡備中町黒鳥でヤハズツウへ。
 そのほか青野は4月10日('66)吉備郡槻で成虫が、アブラナの花に来ていたことを観察している。

Genus *Tongeia* TUTT, [1908] クロツバメシジミ属

75. *Tongeia fischeri* (EVERSMANN, 1843) クロツバメシジミ

- A: 新見市一井倉～方谷, 草間*(June 13, '65, Ns); 津山市一城山, 上横野; 川上郡一下原*(Aug. 16, '68, NT; Aug. 3, '70, NT); 高梁市一石火矢町*(Aug. 6, '68, NT); 御津郡一下加茂*(Sep. 23, '71, KY); 総社市一豪溪; 倉敷市一鶴形山, 福山, 阿知, 中央; 都窪郡一高尾山, 妹尾崎, 吹上; 岡山市一西大寺市街地, 津島福居*(Oct. 20, '69, Ym); 邑久郡一香登町。
- B: 瀬戸内沿岸部から吉備高原へ拡がり津山盆地にも棲息が認められているが中国山地からの報告はない。内陸部での成虫確認例は4月下旬～5月上旬, 6月中旬, 8月上, 中旬, 9月下旬の4つのほぼ等しい期間をおいた周期を形づくり, 年4回発生を示唆している。瀬戸内沿岸部では採集, 目撃もかなり多く4月中旬～5月上旬, 5月下旬～7月初頭, 7月中旬～8月上旬, 8月下旬～11月上旬とやはり4つの出現帯をあらわしているが, とくに最後の出現期は長く連続してその間に2回の発生を含んでいることを想像させる。この地域での周年経過については赤枝('65)の分析があり³⁸⁾, それを次に示しておく。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
L	L	L	PA								
			E	LPA							
				E	LPA						
					E	LPA	A				
							E	LPA		
										E

C: ツメレンゲ 2) 10) 12) 14) 17) 25) 28) 38)

- D: 赤枝('54, '56, '57, '59, '65)は生活史について西大寺で継続観察をつづけられた知見を報告している。それによると, 卵は民家の屋根の上に多いツメレンゲの葉の根元のあたりに産付される。一齢幼虫は紅色, 孵化するとすぐツメレンゲに喰い込む。その後緑色を増し終齢では全く緑色, 幼虫は食欲旺盛で皮を残して内部から食べつくす, 時に茎にはいるものもある。喰べつくすと他の株に移動, 移動は夜間, 成熟すると食草または屋根のひさしの板などで蛹化, 蛹は全く緑色のものから濃黒緑色まで, 経過例として, 11月上旬成虫, 卵, 幼虫共に見られ, 12月下旬1～2齢幼虫がツメレンゲ越冬芽を摂食, 1月7日1頭脱皮, 3月になると越冬芽ものび一部幼虫は3齢に達す。3月下旬終齢, 早いものは4月5日蛹化, 4月30日, 5月1日羽化, この5月上旬に羽化した成虫より生まれたと思われる幼虫を6月9日

採, それは6月12日~22日の内に羽化というのがあり, これから春から6月末までに2回の発生を観察している. また, 最終羽化例として, 10月16日, 18日の例も報告されている.

食草について赤枝('56)はペンケイソウを与えたものは2齢をつづけ成長が順調にいかなかったと報告している.

訪花植物について白神('51)は百日草, 千日紅, 茄子, 胡瓜, 鶏頭をあげている³⁵⁷⁾.

Genus *Plebejus* KLUK, 1802 ヒメシジミ属

76. *Plebejus argus* (LINNAEUS, 1758)

subsp. *micrargus* (BUTLER, 1881) ヒメシジミ

A: 阿哲郡一市倉峠; 新見市一正田広瀬*(May 26, '71, WT), 河本ダム*(May 26, '71, WT); 真庭郡一毛無山, 土用, 芋ヶ谷*(June 28, '64, 重井 博), 大挾峠*(July 11, '71, T), 本茅部*(June 22, '68, MM; July 5, '70, MM); 苫田郡一辰巳峠, 恩原, 中津川, 赤和瀬, 越畑; 津山市一黒沢山

B: 中国山地を中心に分布しているが, まだ東部の勝田郡, 英田郡からは報告がない. 成虫の出現期は南限の正田広瀬における5月下旬の記録から遅いもので市倉峠の8月6日の記録までである. 湿原に多いようだ. 生息地の標高を報告した例はない.

Family CURETIDAE ウラギンシジミ科

Genus *Curetis* HÜBNER, [1819] ウラギンシジミ属

77. *Curetis acuta* MOORE, 1877

subsp. *paracuta* de NICÉVILLE, 1901 ウラギンシジミ

B: 広く分布. 越冬成虫は3月上旬より活動をはじめ, 4月下旬~5月上旬まで生き残りが姿をとどめる. 夏型の成虫は早いもので5月下旬より現われる. 秋型がいつ頃から出現するか, 明確に記載した報告はない. 11月上旬までの活動が認められている.

D: 白神('51)は雌のみ越冬といわれる本種の雄を'48年春倉敷市で採集したと報告³⁶⁴⁾. 古市('53)はイチジクの果汁に成虫が飛来したと報告¹⁰⁷⁾, 青野('52)は晩秋の低温のもとでは, ショックに会うと成虫は下に落下し, 偽死現象がみられると報じている⁷⁰⁾.

Family LIBYTHEIDAE テングチョウ科

Genus *Libythea* FABRICIUS, 1807 テングチョウ属

78. *Libythea celtis* (FUESSLY, 1782)subsp. *celtoides* FRUHSTORFER, 1909 テングチョウ

B: 瀬戸内沿岸部では2, 3月中にも成虫の目撃例があり, 越冬した成虫は4月いっぱい観察されている。その後, 5月下旬, 6月上旬に新しい成虫が出現しているが, それ以後の夏季に於ける目撃例は報告されていない。9月下旬から11月上旬の間の観察報告はある。吉備高原では越冬成虫は5月上旬まで姿を見せており, 5月下旬には, 新しい成虫のはしりがもう現われている。その後, 7月上旬まで継続的に観察例があり, あとは8月上旬と10月上旬の観察例がわずかに報告されているに過ぎない。中国山地では越冬ものは4月下旬まで, その後, 新成虫は6月下旬から7月上旬まで観察報告されており, あと, 8月上旬, 下旬, 10月中旬のわずかな報告例がある。

C: エノキ⁷²⁾

D: 5月下旬に高梁市臥牛山のエノキから終齢幼虫をえた報告⁷²⁾があるが, その後難波, 青野は5月5日, 9日('71)に高梁市下神崎のエノキより幼虫18頭をえて, エノキで飼育, 成虫を羽化させている。

広瀬('53)は成虫に土地占有性があると思われる例と静止時に翅を開閉する習性をもっていることを報告している¹⁴³⁾。

訪花例ではイヌノフグリという水野('52)の報告がある²⁷²⁾。青野は越冬成虫が4月14日('63), 高梁市佐用谷でキブシの花にきていたのを観察している。

Family DANAIIDAE マダラチョウ科

Subfamily DANAINAE マダラチョウ亜科

Genus *Parantica* MOORE, [1880] アサギマダラ属79. *Parantica sita* (KOLLAR, 1848)subsp. *niphonica* (MOORE, 1883) アサギマダラ

B: 広く分布。成虫は5月上旬から11月中旬まで姿を見せている。

C: (ガガイモ)²¹⁸⁾

D: 近藤('63)は倉敷市連島町宮之浦において1962年10月1日, ガガイモの周辺で産卵態勢にある雌をとらえ飼育箱内にガガイモを与えて産卵させ, その後, 飼育をつづけて結果を報告している²¹⁸⁾。経過のあらましは次の通り,

産卵数23, うち葉表8, 葉裏6, 茎3, 金網4, 竹1, 落下1。Oct. 9, 孵化, Nov. 7, 9, 19, 蛹化, Jan. 1, 3, 9, 10, 羽化。

小野悦夫('51)は10月中旬, 倉敷市の花屋でキクに訪花していたことを³⁰⁸⁾, 宇野('64)は11月上旬, 浅口郡六条院でキクの花に舞いおりたことを³⁹⁵⁾, また, 松井('54)は9月10日, 岡山津島でヒヨドリバナに訪花していたことを²⁴⁴⁾, それぞれ報告している。また, ドクトル・ザーメン [宇野] ('64)は中国山地の人形峠で5月30日に幼虫をえたことを報じている⁹⁶⁾。

Family NYMPHALIDAE タテハチョウ科

Subfamily ARGYNNINAE ヒョウモンチョウ亜科

Genus *Argyronome* HÜBNER, [1819] ウラギンスジヒョウモン属

80. *Argyronome laodice* (PALLAS, 1771)

subsp. *japonica* (MÉNÉTRIÈS, 1857) ウラギンスジヒョウモン

- B: 広く分布。吉備高原，瀬戸内沿岸部では6月中旬より，中国山地では7月上旬より成虫が出現，瀬戸内では7月中旬からは成虫が姿を消し，秋季に少数認められるのみ。中北部の山地でも8月中旬～9月上旬の間の観察例は報告されていない。
- D: 水野 ('52) は総社市桜谷より1951年6月13日に gynandromorpha をえて報告している²⁶⁹⁾。胴体の中央から左が雌，右が雄の典型的なものである。青野 ('57) はサンゴジュへの訪花を報じている⁸⁴⁾。またその後，青野は新見市花見で1967年7月16日にシナノキに訪花中の成虫を観察している。

81. *Argyronome ruslana* (MOTSCHULSKY, 1866)

supsp. *lyssipe* (JANSON, 1877) オオウラギンスジヒョウモン

- A: 阿哲郡一大井野*(Aug. 18, '71, WT), 大佐山*(Aug. 27, '71, WT), 天銀山*(Sep. 15, '71, WT), 三坂*(July 15, '62, 重井 博); 新見市一市倉峠, 天銀山*(July 15, '62, 重井 博), 矢の峰高原*(July 26, '64, Ns); 真庭郡一毛無山付近, 三木ヶ原, 星山; 苫田郡一泉山, 河井, 泉源～上斎原, 河内, 越畑*(June 5, '66, 幼虫, Ak), 岩越*(July 14, '58, Yy), 上斎原*(July 20, '70, Ak), 阿波村; 高梁市一玉川町*(Sep. 19, '65, NT), 御津郡一馬屋下
- B: 多くは中国山地で成虫が6月上旬から9月中旬までに記録されているが吉備高原に所属する馬屋下, 玉川町の2例もあり, この記録は注目される。外に岡山市京山, 1♂という報告(岡山県内生物目録)があるが疑わしいので一応除外した。
- C: スミレー種*
- D: 赤枝は越畑でスミレー種より幼虫をえて, 飼育を続け, 成虫を羽化させている。

Genus *Argynnis* FABRICIUS, 1807 ミドリヒョウモン属

82. *Argynnis paphia* (LINNAEUS, 1758)

subsp. *geisha* HEMMING, 1941 ミドリヒョウモン

- B: 広く分布。成虫は早いもので5月下旬から出現，6月中旬～7月上旬の観察例が最も多い。瀬戸内沿岸部からは6月中，下旬に姿を見せたあと，7，8月中の報告例がなく，9月上，中旬には再び観察されている。7，8月中も山地では目撃されていて，最終記録として赤枝は Sep. 30, '56 の観察例を金川町で経験している。
- C: (スミレー種)*
- D: 広瀬 ('52) は9月，倉敷でニラに訪花すると報じ¹³¹⁾，青野 ('57) は6月サンゴジュへ訪花していたことを報じている⁸⁴⁾。また高橋 ('61) はクリの花へ集まると報告

している³⁷⁸⁾。

赤枝は岡山市竜ノ口でスマイレー種から幼虫をえたことがある。

83. *Argynnis anadyomene* (C. et R. FELDER, 1862)

subsp. *mides* BUTLER, 1866 クモガタヒョウモン

B: 広く分布。最も早い出現例で高梁市狐谷, May 3, '68, 1♂, Nt という採集例がある。あと7月にはいつてからの観察は少なく、とくに南部の瀬戸内平野では7, 8月中の具体的な観察報告は全くない。秋季10月中旬まで成虫が認められている。

D: 青野 ('57) はサンゴジュへの訪花を報じている⁸⁴⁾。

Genus *Damora* NORDMANN, 1851 メスグロヒョウモン属

84. *Damora sagana* (DOUBLEDAY, 1847)

subsp. *liane* (FRUHSTORFER, 1907) メスグロヒョウモン

B: 広く分布。最も早い採集記録で高梁市上神崎, May 16, '63, 1♂, Mm というのがある。南部や中部ではふつう5月下旬より発生、北部の山地では夏季、7, 8月にも点々と目撃されているが瀬戸内沿岸部では夏季は西大寺金山, Aug. 8, '53, Ak という観察例が1つあるのみ、9月にはいると南部平地でも成虫の姿が認められている。10月下旬まで生き残りが見られる。

D: 近藤 ('52) は倉敷市タコラ山で幼虫をえて、飼育し, May 14, 蛹化, May 26, 羽化という経過を報告している²⁰⁶⁾。赤枝 ('64) は岡山市金甲山から白化型をえて報告している³⁴⁾。右前翅, 5, 6, 7室の一部, および右後翅, 2, 3室の一部が白化したものである。

広瀬 ('52) はニラへの訪花を¹³¹⁾、青野 ('57) はサンゴジュへの訪花を報じている⁸⁴⁾。赤枝は岡山市西大寺金山で成虫がアザミにくるのを観察している。

Genus *Fabriciana* REUSS, 1920 ウラギンヒョウモン属

85. *Fabriciana adippe* (LINNAEUS, 1767)

subsp. *pallescens* (BUTLER, 1873) ウラギンヒョウモン

A: 南部での採集地, 岡山市一稲荷山, 西大寺; 倉敷市一北部山地; 浅口郡一金光

B: 瀬戸内地方では採集例も少なく、主として吉備高原以北に分布。6月中旬から出現し、とくに8月中旬までは山地で連続的に成虫が観察され、以後個体数が減少するせい目撃例も少なくなっているが、津山市では10月下旬にも成虫が認められている。

D: 青野 ('57) はサンゴジュへの訪花を報じている⁸⁴⁾。

86. *Fabriciana nerippe* (C. et R. FELDER, 1862) オオウラギンヒョウモン

B: 広く分布しているが採集例はあまり多くない。中, 南部で6月中旬~7月上旬までの記録, 北部の中国山地で7月中旬~9月中旬までの採集記録がある。

Genus *Argyreus* SCOPOLI, 1777 ツマグロヒョウモン属87. *Argyreus hyperbius* (LINNAEUS, 1763) ツマグロヒョウモン

B: 広く分布, 初発記録で岡山市金甲山と倉敷市福山で4月29日というのがある。以後11月上旬まで成虫がつぎつぎと確認されているが, 北部の中国山地では7月下旬から9月中旬までの観察例しかない。

D: 広瀬('53)は雄が山頂付近を占有する習性を観察報告している¹⁵⁴⁾。倉敷市福山と岡山市金山で観察されたその報告によると, 平らになった草地や荒地, 路上で石上とか1本立ちの植物の先端部に静止する。広い地域には2~3頭の雄がいて占有場所は分割される。1頭が飛び立つと付近にいる雄が全部飛び立つ。飛翔高度は通常1.5~2m, 追飛の際には地上10mもの高さに達する。交尾がよく観察されるところから, この習性は交尾の為に有意義と判断している。雌1に雄10の割合ぐらいで競合しているようだとのこと。

Subfamily LIMENITINAE イチモンジチョウ亜科

Genus *Ladoga* MOORE, [1898] イチモンジチョウ属88. *Ladoga camilla* (LINNAEUS, 1764)

subsp. *japonica* (MÉNÉTRIÈS, 1857) イチモンジチョウ

B: 広く分布している。南部平地で5月中旬から7月下旬まで, 吉備高原で5月下旬から9月上旬まで, 北部の中国山地で6月上旬から9月下旬まで成虫の姿が認められている。

89. *Ladoga glorifica* (FRUHSTORFER, 1909) アサマイチモンジ

B: 広く分布しているが瀬戸内沿岸部では少なく, 採集例も5月中旬~6月下旬の期間のもののみ。吉備高原では5月下旬~6月中旬, 7月上旬~8月上旬, また北部の中国山地では5月下旬~6月下旬, 7月下旬~8月下旬と成虫出現期に2つの山があり, 年2回発生が推察される。

Genus *Neptis* FABRICIUS, 1807 ミスジチョウ属90. *Neptis aceris* (ESPER, 1783)

subsp. *intermedia* W. B. PRYER, 1877 コミスジ

B: 広く分布。成虫は早いもので4月中旬から出現, 瀬戸内沿岸地方では9月下旬まで姿が認められている。中国山地では8月中旬以後の確認例は報告されていない。

D: 広瀬('52)は雌成虫が5月中旬倉敷でレンゲに訪花, 吸蜜したことを報告している¹⁵⁴⁾。また, 交尾飛翔型式は(♂+♀→)という広瀬('53)の報告もある¹⁵⁷⁾。

91. *Neptis philyra* (MÉNÉTRIÈS, 1859)

subsp. *excellens* BUTLER, 1878 ミスジチョウ

- A: 阿哲郡一惣原*(June 17, '71, WT); 新見市一草間*(June 28, '70, Ns); 真庭郡一神庭*(June 23, '48, OH), 川上村; 苫田郡一寺ヶ谷, 泉源小学~坊主原・上斎原への峠, 杉地区, 倉見; 津山市一鶴山公園, 小田中; 高梁市一大成付近, 臥牛山*(May 28, '67, AT)
- B: 5月下旬から7月下旬に至る間の採集例が報告されているが, いずれの地でも個体数が少ない. 高梁市での記録は南限記録として注目される.
- D: 那須は草間で6月下旬に傷んだ♀がクリの花にきていたのを見ている.

92. *Neptis pryeri* BUTLER, 1871 ホシミスジ

- A: 阿哲郡一大佐山, 小坂部; 新見市一矢の峰, 足立, 草間*(June 13, '65, AK); 真庭郡一関, 落合, 勝山町; 英田郡一後山; 総社市一門田*(May 29, '54, 水野弘造), 窪木, 三須山, 三須中林; 和気郡一東鶴山, 苫木*(June 14, '59, KT); 浅口郡一金光; 都窪郡一福田村山田, 清音村峠*(June 14, '66, NT); 倉敷市一南町, 田ノ上, 鶴形山, 美和, 小黒田*(June 19, '48, OH), 羽島山*(June 11, '49, OH); 岡山市一浜, 上伊福, 岡山駅構内, 金山, 西大寺 (June, '63, Ns), 西大寺金山, 東山, 蛸干山; 邑久郡一長船町, 邑久町
- B: 分布が特異で, 連続的でなく, 空白な地域が意外と多い. 民家を中心とした拡がり, 矢の峰のような山中に生育地をもつものと2つの類型が見られる. 瀬戸内の平地では通常, 5月中旬に1化の成虫が出現し, 生き残りは7月中旬まで見られる. 2化の成虫は早いものは7月下旬には発生し, 9月いっぱいまでその活動が見られる. 広瀬 ('52) の調査結果¹²⁹⁾によると倉敷での周年経過は次のようである.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
L	L	L	L	LPA	LPA	A					
					EL	ELP	LPA	A			
							EL	L	L	L	L

C: ユキヤナギ¹²⁹⁾, シジミバナ¹²⁹⁾, コデマリ¹²⁹⁾

D: 生態に関して広瀬 ('51, '52, '53, '54) の継続的な観察報告^{114) 129) 135) 140) 115) 157) 166) 167)}がある. その内容はあらかし次の通り.

倉敷市田ノ上でユキヤナギに産卵したときの観察では1卵ずつが普通, 2粒ずつが2例, 3卵まとめたのは1例でまれ, 葉裏が20卵に対して葉表はただの3卵, 高さは2mのユキヤナギで地上10cmから1mの間, 他に食草として, シジミバナ, コデマリも確認. 卵は灰色. 幼虫第9, 10, 11節気門下の山脈状紋は緑色乃至黄緑色. 蛹化はつねに茎になされ, 一例として葉に蛹化したものもあったがそれも葉柄に近い中脈上であった. 蛹化時刻は午後9時~午前5時の間らしい. 蛹は突然, 腹部を急激に振動させ運動することがある. 長さは1~5分. ストップウォッチで測定したところ1分間に96回の割合. 羽化は夜間が原則, 夜明け頃が最も多いもよ

う。♂は羽化後より発香、その香気は人間が感じて快よい。♀の発香は認められない。交尾飛翔型式は(♂+♀→)。日週活動は7~8月頃は飛び始めるのが8時頃、ねぐらを探すのが5時~5時30分。倉敷市住吉町での観察例では庭の2m程のツバキの葉裏にぶら下り、翅はびたり閉じられ触角はゆるく前方にのぼしたままの姿勢になる。(5:20)。成虫は直射日光を受けた灌木の高いところに静止、時折り飛び立ってゆるやかに旋回し、また元の位置に戻って静止するという習性をもつ。成虫がモモ腐熟果に飛来し、果液を吸収していたこともある。越冬幼虫から第1化の成虫羽化に至る飼育例としては次の7例が示されている。

1952年度第1化飼育例(倉敷にて)

No.	1	2	3	4	5	6	7
前 蛹	Apr. 28	Apr. 30	May 1	May 2	May 2	May 7	May 13
蛹 化	Apr. 30	May 2	May 2	May 4	May 4	May 9	May 15
羽 化	/	May 19	May 20	May 20	May 21	May 24	May 30
蛹 期	/	17	18	16	17	15	/
採 取 日	Apr. 11	Apr. 11	Apr. 9	Apr. 27	Apr. 11	Apr. 11	Apr. 11
性	死 亡	♂	♀	♀	♀	♂	死 亡

第2化の飼育例については次の1例が示されている。July 1 産卵, July 7 孵化, July 27 蛹化, Aug. 4 羽化。

Subfamily MELITAEINAE ヒョウモンモドキ亜科

Genus *Melitaea* FABRICIUS, 1807 ヒョウモンモドキ属

93. *Melitaea diamina* (MÉNÉTRIÈS, 1859)

subsp. *regama* FRUHSTORFER, 1915 ウスイロヒョウモンモドキ

- A: 阿哲郡一足立~上石見, 野原; 新見市一三井山山麓*(July 4, '65, AT), 草間, 豊永*(July 30, '57, 安東瑞夫); 真庭郡一星山, 三木ヶ原, 蒜山原, 神庭, 犬狹峠~別所*(July 11, '71, T), 湯船*(July 28, '64, 重井 博); 苫田郡一恩原, 河内, 福見, 泉山, 阿波村, 越畑*(June 26, '66, U), 上斎原湯ノ谷*(July 4, '59, Yr); 勝田郡一那岐山; 英田郡一後山, 日名倉山*(July 19, '70, T)
- B: 6月中旬から7月下旬にかけて, 県北の中国山地の山麓草原にみられる。6月下旬から7月上旬の採集記録が多い。
- C: (オミナエシ)⁴¹¹
- D: 那須は草間で7月3日('66)に成虫がヒメジヨオンやアザミの花に来ることを観察している。1954年, 真庭郡蒜山原ではオミナエシ上から幼虫が得られ, 安江('59)によって紹介されている。

94. *Meliteea scotosia* BUTLER, 1878 ヒョウモンモドキ

- A: 新見市一草間; 真庭郡神庭, 川上村, 別所, 毛無山; 勝田郡一勝間田町, 勝央町; 久米郡一誕生寺; 赤磐郡一軽部村, 竹枝; 浅口郡一金光, 遙照山; 吉備郡一竜王山; 岡山市一足守町 (July 17, '52, 間野幹男), 稲荷山 (June 10, '49, 間野幹男)
- B: 採集例は多くはないが, 全県的に広く分布している. 備中地方では6月下旬が最盛期で新見市草間では6月25日('57)に4♂9♀⁸³⁾, 浅口郡遙照山では6月18日('39)に25♂17♀¹⁰⁹⁾が報告されている.
- 県北ではややおくれ, 真庭郡勝山町, 川上村のそれぞれ7月4日, 中和村別所の7月17日('60)の記録が残っている. 日浦('69)は吉阪コレクションから間野氏採集の足守, May 12, '40 という Data を記録しているが, 異常に早く, ラベルのつけ間違いかもしれない.
- D: 新見市西草間で6月25日('57)に4♂9♀が採集されたときは, その発生は局部的で, 飛翔は不活発, タムラソウの花を訪れ交尾中のものもあった⁸³⁾.

Subfamily NYMPHALINAE ヒオドシチョウ亜科

Genus *Araschnia* HÜBNER, [1819] サカハチチョウ属95. *Araschnia burejana* (BREMER, 1861)subsp. *strigosa* BUTLER, 1866 サカハチチョウ

- A: 阿哲郡一奥谷, 小坂部, 定藤, 三室*(July 16, '61, 重井 博), 惣原*(May 13, '71, Wt), 油野*(Sep. 25, '71, Wt); 新見市一井倉・方谷間, 河本, 市倉峠, 阿哲峠*(May 3, '56, Ak), 井倉*(May 8, '66, Nt), 足見*(June 2, '71, Wt), 正田広瀬*(June 26, '71, Wt), 谷合*(July 25, '62, 夏型, At) 草間*(July 30, '63, Wh); 真庭郡一神庭ノ滝, 神庭, 落合, 毛無山, 高下, 星山, 川上村, 湯本*(Apr 24, '66, Ak), 土用*(May 30, '71, Kt); 苫田郡一物見峠, 恩原, 寺ヶ谷, 大高下, 杉, 瀬戸, 泉山*(June 12, '66, Ak); 勝田郡一那岐山, 滝山, 立木津谷*(July 31, '66, Mh); 英田郡一後山, 若杉峠*(July 12, '64, At); 津山市一小田中, 上高倉, 黒沢山, 上横野; 川上郡一用瀬*(May 20, '62, 春型, 重井 博), 野呂*(May 20, '62, 春型, 重井 博), 吹屋*(Aug. 13, '61, 夏型, 重井 博), 坂本*(Aug. 13, '61, At), 井川*(Sep. 28, '63, At), 加合木*(Sep. 28, '63, At); 高梁市一大成, きつね谷, 神崎, 玉川*(July 5, '59, Ak; June 18, '61, At; May 5, '65, At), 玉*(May 5, '66, Nt; Apr. 29, '66, Nt), 増原*(Sep. 10, '61, 夏型, 重井 博), 上神崎*(June 18, '61, At); 井原市一黒忠~笹ノ丸~日出谷; 吉備郡一観*(Apr. 29, '62, At)

- B: 吉備高原から中国山地にかけて広く分布している.

高梁市津川町きつね谷で4月20日('64)に春型が3個体採集された記録が最もはやく. 以後毎月連続してみられ, 9月28日('63)の川上郡井川と加合木での記録が最後となる. この間, 4月終りから5月上旬にかけてと7月中旬から8月はじめにか

けてピークを示しており、それぞれ春型と夏型の年2回発生を示しているものと思われる。

- D: 青野は真庭郡神庭の滝で5月14日('57)にウツギの花に集まる春型を観察し、報告している⁸³⁾。また新見市井倉でヒメジョオンの花に、高梁市上神崎でネギの花に集まることも那須によって観察されている。

Genus *Polygonia* HÜBNER, [1819] キタテハ属

96. *Polygonia c-aureum* (LINNAEUS, 1758) キタテハ

- B: 全県的に広く分布し、低山地や平地にごく普通である。

越冬成虫は1月はじめでも、暖かいおだやかな日には姿をみせるが、3月下旬からはよく見られるようになり、4月上旬にはとくに多い。総社市門田で6月4日('55)、第一化の夏型がみられており、備南地方では5月下旬から羽化が始まるものと思われ、6月には数多く記録されている。その後、月をおって連続的に発生するが、倉敷地方では9月下旬から秋型の発生が認められている。そして12月の年の瀬を迎えるまで、キタテハの姿のみられない月はない。

- C: カナムグラ*

- D: 吉備郡高滝山、阿哲郡三室や新見市井倉などではウツギに訪花しているのが観察されており、ルリタテハやヒオドシチョウにくらべるとよく花に集まる。しかし夏、秋には花上でその姿をみることはすくない。広瀬('53)は、倉敷で、おおよそアブラナ20、タンポポ2、ダイコン1、ソラマメ1といった訪花例の比率を越冬後の個体について報告している¹⁴¹⁾。また宇野は、倉敷市の自宅のサザンカを訪花する個体を毎年観察している。

児島郡尾原では古市('53)が1953年10月下旬、イチジク果実の汁を吸っている個体を観察し報告している¹⁰⁷⁾。

97. *Polygonia c-album* (LINNAEUS, 1758)

subsp. *hamigera* (BUTLER, 1877) シータテハ

- A: 新見市一阿哲峽 (May 3, '56, 安東瑞夫); 真庭郡一杉成*(June 28, '64, 重井 博), 川上村; 苫田郡一上斎原, 越畑, 杉, 上原; 勝田郡一那岐山, 勝央町; 久米郡一中央町; 岡山市一水源地付近^{372) 373)}, 金山¹⁰⁸⁾

- B: 県下での記録はごく僅かで、越冬成虫は4月13日('07), と4月17日('38)に岡山市で、4月13日('56)に苫田郡奥津町杉でそれぞれ記録されている。その年に発生した新しい個体は6月に2例(22日湯原, 28日杉成), 8月に3例(3日上斎原, 9日越畑, 14日川上村)知られており、前例は第1化、後例は第2化の年2回の発生と思われる。

主に県北の脊梁山地から得られているが、県南の岡山市から、2例、越冬成虫が記録されているのがおもしろい。

Genus *Kaniska* MOORE, [1899] ルリタテハ属98. *Kaniska canace* (LINNAEUS, 1763)subsp. *no-japonicum* (von SIEBOLD, 1824) ルリタテハ

B: どこにでもいて、ふつう3月下旬から4月いっぱい越冬成虫がみられるが、5月にはその姿がみられなくなる。6月に入ると中旬から下旬にかけて第1化成虫がワッと出現、7月いっぱい連続してみられ、ついで8月上旬から中旬にかけて出現のピークが観察される。さらに9月下旬から10月いっぱいポロポロと採集されている。6月中旬の第1化、8月上旬の第2化は顕著である。第3化については、いちじるしくはないようであるが、10月上旬の秋型の発生が倉敷で確認されている。

C: サルトリイバラ³³⁷⁾

D: 倉敷南部丘陵では4月29日('53)、サルトリイバラに産卵していたことが小野('53)によって報告されている³³⁷⁾。また、難波は9月19日('71)に川上郡備中町黒鳥でサルトリイバラから幼虫2個体を得た。青野は倉敷市小黒田でサルトリイバラの葉上より2卵をえて、飼育をつづけ、秋型成虫を羽化させている。

10月下旬に児島郡尾原ではイチヂクの木のみわりに集まり、夢中で果実の汁を吸う観察例を古市('53)が報告している¹⁰⁷⁾。

Genus *Nymphalis* KLUG, 1802 ヒオドシチョウ属99. *Nymphalis xanthomelas* (DENIS et SCHIFFERMÜLLER, 1775)subsp. *japonica* (STICHEL, 1902) ヒオドシチョウ

B: 広く分布。3月6日('60)総社市長良で観察されたのを皮きりに、倉敷市福山では3月17日('54)に多数の越冬成虫の活動が認められるようになり、4月にはエノキの新芽に産卵する雌蝶の姿がよく見られるようになる。

6月にはいると、類しい採集例が報告されており、5月下旬から6月上旬にかけて真新しい成虫が一斉に羽化してくることがわかる。

しかし、その後は、南部の平地では殆んど見られず、7、8月の盛夏の頃は主として、北部の山地で姿がみとめられるのみであって、最も遅い採集記録としては、上斎原での9月11日という記録がある。

C: エノキ³¹⁰⁾ ³³³⁾, シダレヤナギ³³³⁾

D: 小野及び青野('48, '49)の調査によると、倉敷地方での周年経過は

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	A	A	A	AEL	LPA	PA	A	A	A	A	A	A

(A: 成虫, E: 卵, L: 幼虫, P: 蛹)

となっており、4月上、中旬にエノキの小枝の先端にかためて塊状に産卵する。天敵の *Tachina larvarum* L. ブランコヤドリバエはかなりの寄生率を示し、蛹化したての前蛹がくいちぎられていることも多い。スズメバチ科のハチが前蛹の周辺に飛んでいて、ハチが肉だんごにした疑いがつよいという。

広瀬('53)は1953年6月上旬に多数羽化させた際、飼育箱より外に出して手を近づけるとジャッシュと発音するものがあることを観察し、触角をつまむと例外なく発音することを指摘した¹⁵²⁾。また同氏によると倉敷市酒津で5月26日('53)エノキより得た蛹50匹の体長は25~31 mmで30 mmが最も多く18匹、ついで29 mmが12匹、平均は29.08 mmであった。大部分は地上50 cm~1 mの高さでエノキの幹や、周囲の竹、つる草等についていたという¹⁶⁹⁾。総社市門田では4月に菜の花に訪花吸蜜している越冬成虫を水野が報告しており²⁷²⁾、青野('58)は阿哲郡三室で6月22日ウツギに訪花していたことを報告している⁸⁶⁾。また難波は5月22日('71)に吉備郡昭和町でエノキから15個の蛹を得たが、付近に生えているオニグルミの木はかなり高い所にも蛹を見出せたという。青野は総社市で母蝶がツダレヤナギに産卵、幼虫はそのまま成長して、多数の成虫が羽化してきたことを'58年に観察している。

Genus *Vanessa* FABRICIUS, 1807 アカタテハ属

100. *Vanessa cardui* (LINNAEUS, 1758) ヒメアカタテハ

B: 県北の中国山地での記録こそあまり多くはないが、広く県下全域に分布し、ごく普通にみられる。県南の総社市豪溪で3月29日('55)に、また都窪郡山手村や福田村、津山市などでもそれぞれ4、5月に越冬成虫が採集されているが、むしろ春季にはめったにお目にかかれない。

県南の倉敷市酒津では6月15日に第一化が観察されており、6月上旬から出現。以後ひき続きみられるが、8月には全く記録がない。その後秋季に個体数を増し9月、10月、11月中旬にかけて見られる。12月から翌年2月までの記録はない。

D: 広瀬('52)は、倉敷市福山山頂で、10月15日('51)、午後3時頃から姿をみせ、黄昏せまる頃、なおよく活動すること、縄張りを占有することなどを報告している¹⁷⁶⁾。また広瀬('52)は倉敷市でニラの花を訪れることを報告¹³¹⁾。那須は岡山市西大寺で秋、ヤグルマソウを訪花することを観察している。

101. *Vanessa indica* (HERBST, 1794) アカタテハ

B: 県下にあまねく分布し、ごく普通にみられる。倉敷市堀南で2月6日('51)に観察された例や苫田郡で1月29日('57)に越冬蝶がとぶのが認められた例があるが、普通は3月に入ってからちらほら見られるようになり、4月に入るとぐんとその数を増す。4月10日('66)には吉備郡の槻でヤブマオに産卵虫の雌を観察しており、また4月24日('66)には湯原でも産卵に余念のない母蝶が観察されているなど越冬した母蝶はほぼ4月中に産卵を終えて姿を消す。第1化の成虫は5月下旬より姿を見せ、連続的に発生して秋季に及ぶ。苫田郡河内で11月18日('55)に見られたのが、最終の報告例である。

C: ヤブマオ¹⁵¹⁾、イチヂク³⁶⁷⁾、カラムシ*、(コアカソ)*

D: 白神は、倉敷市酒津で4月27日('50)、イチヂクの若芽に産卵しているところを発見し、その卵を採取してイチヂクで飼育、10数個から2匹を羽化させている³⁵⁹⁾。

そこで、広瀬は1952年イチヂクに幼虫を放したところ、僅かの食痕は残したが全部逃亡した。その為、さらに1953年5月2日と4日に、ヤブマオから卵を採取し、5月6日に孵化した5匹を7日にイチヂクにつけたところ食痕も残さず全部死亡。別にヤブマオで飼育した2令幼虫をイチヂクに移したところ、これも5月16日までに死亡したという。イチヂクはカナムグラとケヤキの間に位置し、そんなにとび離れた位置ではないことを考えると、イチヂクを食する一つの系統があるのかあるいは4月中旬からイチヂクは芽を出しヤブマオは5月上～中旬に芽を出すまでに間があるので、成熟の早い母蝶がイチヂクに産卵するのではないだろうかと考えた¹⁵¹⁾。石上などに静止しており、飛び立つと一定のコースを飛び、他の蝶やトンボがその縄張りに侵入すると激しく追飛したり、倉敷市福山山頂で10月15日午後2時頃出現し薄明時になお活動さかんな様子も広瀬('51, '52)によって報告されている^{118) 126)}。訪花について小野('51)は11月のビワをあげている³²⁵⁾。青野は新見市花見で7月16日('67)シナノキの花にきているのを観察している。また、秋コスモスやサザンカを訪れることや越冬成虫がジンチョウゲの花にくることも観察している。これとは別に古市('53)は10月下旬、イチヂクの果実の汁を吸いに成虫が集まることを報告している¹⁷⁰⁾。

広瀬('54)による睡眠の小観察もある¹⁶⁵⁾。

小野悦夫('51)は雌が倉敷で12月16日燈火に飛来したことを報じている³⁰⁷⁾。

難波は5月16日('71)に御津郡旭川ダムでカラムシから幼虫3個体、6月13日('71)に高梁市巨瀬でヤブマオから初令幼虫を得。それぞれ飼育して羽化を確認した。また9月19日('71)に川上郡成羽町でカラムシ、コアカソに産卵するところを観察している。

Genus *Precis* HÜBNER, [1819] タテハモドキ属

102. *Precis orithya* (LINNAEUS, 1758) アオタテハモドキ

A: 津山市一下高倉西⁹⁹⁾

B: 1963年8月13日、突然2♂4♀が採集され、新聞でも報道された、福田('63)によると全部で18頭を確認したとのこと⁹⁹⁾。

C: キツネノマゴ⁹⁹⁾

D: 福田('63)は発見地で9月1日、キツネノマゴより幼虫を5頭発見、キツネノマゴで飼育をつづけて成虫を羽化させている。福田の観察による生態のあらまはは次の通り。

8月13日、成虫は地面をはうように飛翔、朝夕はほとんど飛ばず、同一場所にもどる。9月1日幼虫発見、大きさは2cmと3cm計5頭、小さい1頭はすぐ脱皮、青紫色になる。9月5日1頭蛹化、9月2頭蛹化、10日残りのもの蛹化、13日その後採った幼虫もすべて蛹化。9月17日最初のもの羽化、20日2頭目羽化、9月22日2頭、24日1頭それぞれ羽化、9月29日後に採集した3頭のうち1頭が黒変、1頭は蛹のまま死亡。羽化した蝶は気温の下がる朝夕はほとんど動かず、日中は盛んに

飼育箱の中を飛翔する。

典型的な偶産種で、その後は全く見つからない。

Subfamily MARPESIINAE イシガケチョウ亜科

Genus *Cyrestis* BOISDUVAL, 1832 イシガケチョウ属

103. *Cyrestis thyodamas* (BOISDUVAL, 1836)

subsp. *mabella* FRUHSTORFER, 1898 イシガケチョウ

A: 英田郡一大原町¹⁹⁷⁾; 倉敷市一味野²²¹⁾

B: 県下からは、これまでに2例の記録が残っている。その一つは、県北の中国山地、鳥取県と兵庫県との県境近く、英田郡大原町の近くでの6月10日('58)の記録である。いま一つは、これとはるかかけ離れた、瀬戸内海に面する児島市味野('40)の記録であるが、採集月日は詳でない。

いずれにせよ、今のところ県下に確実に生息しているかどうか疑わしい。

Subfamily DICHORRAGINAE スミナガシ亜科

Genus *Dichorragia* BUTLER, [1869] スミナガシ属

104. *Dichorragia nesimachus* (BOISDUVAL, 1886)

subsp. *nesiotes* FRUHSTORFER, 1903 スミナガシ

A: 阿哲郡一雌山, 惣原*(Aug. 18, '71, WT), 御堂*(June 17, '71, WT); 新見市一羅生門, 吉川, 井倉~柏, 草間*(June 9, '63, KT); 真庭郡一川上村, 明連溪谷; 苫田郡一泉, 上原, 箱, 阿波村*(Aug. 16, '57, 安東瑞夫), 人形山*(May 21, '69, Ns); 勝田郡一滝山, 奥津川; 英田郡一西栗倉村; 津山市一上横野, 黒沢山, 高梁市一佐与谷, 方谷駅付近, 滝山*(May 17, '64, Ns), 臥牛山*(Sep. 15, '71, MM), 広瀬*(Sep. 15, '57, 安東瑞夫); 総社市一豪溪, 三須中林, 三須赤浜; 倉敷市一鶴形山; 児島郡一東疇地区。

B: ほとんどの記録は6月中~下旬と8月上~中旬に集中しており、それぞれ第1化、第2化の発生と考えられる。最も早い記録は5月10日(西栗倉村, '64; 佐与谷, '64)で、おそいのは9月15日(広瀬, '57; 臥牛山, '71)である。

C: (アワブキ)⁴⁰⁴⁾

D: 倉敷市鶴形山では8月30日('49), アベマキ樹液を吸飲している個体を小野が観察している。渡部('62)は津山市の黒沢山でアワブキに♀が産卵しているところを観察報告している⁴⁰⁴⁾。

Subfamily APATURINAE コムラサキ亜科

Genus *Apatura* FABRICIUS, 1807 コムラサキ属

105. *Apatura ilia* (DENIS et SCHIFFERMÜLLER, 1775)

subsp. *substituta* BUTLER, 1873 コムラサキ

B: 広く分布. 県南の倉敷市で5月22日('55)に第1化の成虫が得られたのを皮切に, 6月いっぱい数多くの記録が残っている. 7月と8月にもかなりの記録があるが, おそらくは第2化のものと思われる. 10月7日('52)都窪郡黒田の記録が最後となる.

C: ヤナギの一種*

D: 青野('56)は豪渓で, 8月上旬にリョウブの花上で吸蜜している成虫を⁸⁰⁾, 那須は西大寺でムクゲを訪花している成虫を, それぞれ観察している. また広瀬('52)によると, 農家の屋根の一角に陣取ったが, 縄張り内に侵入してきた同種のチョウヤトンボを猛烈に, 空高くまでも追飛するなど土地占有性が顕著で, センダン, ヒノキ, ザクロ, カキなど陽のよくあたる視界のよくきく突出端に好んで止まるといふ¹⁴⁶⁾.

難波は12月21日('63), 岡山市田中で12月29日('63), 岡山市奥田で, 1月10日('71)岡山市北長瀬で, それぞれヤナギの一種から越冬幼虫を得ている.

Genus *Hestina* WESTWOOD, [1850] ゴマダラチョウ属

106. *Hestina japonica* (C. et R. FELDER, 1862) ゴマダラチョウ

B: 広く分布. 早いもので5月中旬から姿をみせ, 8月下旬にいたるまで数多くみられる. 県南地方では年に3回発生するものと思われ(小野・広瀬), 9月に入ると苫田郡杉での15日('54)の採集例が唯一のものとなる.

C: エノキ¹⁶⁸⁾

D: 広瀬('54)の報告¹⁶⁸⁾によると9月11日('48)に倉敷市鶴形山のエノキから14.5 mmの幼虫を採集, 9月25日に脱皮して27日には19 mmに成長し, 10月17日蛹化, 10月27日羽化. 夏型斑紋をもち, 大きさはモンシロチョウぐらいで, 異常に遅い羽化例がある. 小野 洋の飼育例の紹介である.

また, 小野は8月11日('48)に吉備郡川辺で体長14 mmの幼虫を採集, 8月15日に脱皮して15 mm, 8月28日に脱皮19.5 mm, 9月11日には37 mmとなり, 9月14日蛹化, 9月21日羽化した飼育例をもっている.

難波は3月7日('71), 吉備郡昭和町のエノキの落葉から越冬幼虫12個体を得ている.

Genus *Sasakia* MOORE, [1896] オオムラサキ属

107. *Sasakia charonda* (HEWITSON, 1863) オオムラサキ

A: 阿哲郡一定藤; 新見市一吉川, 有立津, 広瀬*(June 28, '71, Wt), 井倉*(July 15, '62, Mm; July 25, '62, At), 草間*(July 23, '63, 重井 博; July 7, '63, Mm; June 20, '71, U), 豊永佐伏川*(June 23, '71, Wt), 谷合 (July 25, '62, At); 真庭郡一湯原, 星山, 川上村; 苫田郡一杉, 泉山; 勝田郡一豊並村, 那岐山*(Aug. 3, '52, Kt; July 17, '71, Om); 津山市一小田中, 黒沢山; 高梁市一臥牛山, 玉,

上神崎, 今津, 春木, 大成*(June 18, '61, AT, July 8, '62, AT), 玉川*(July 5, '57, AK), 神崎*(July 7, '63, WH); 上房郡一井殿; 御津郡一下加茂*(July 5, '71, KY); 久米郡一久米, 大井西; 吉備郡一新田*(Jan. 3, '72, 蛹抜けがら, AT) 吉備高原から, 県北の中国山地にかけて分布している。

B: 真庭郡星山で5月22日('56)に採集された記録が残っているが²⁴⁹⁾, 白水隆著“日本の蝶” pp. 176に「1957年6月8日東京都での1♂採集が日本で最も早い採集記録と思われる。」とあり, 異常に早い発生例といわねばなるまい。これについては6月16日('64)高梁市今津での記録を皮切りに8月中旬まで連続して数多く記録され, 真庭郡湯原での8月20日('57)の記録を最後に, あと姿を消す。

C: エノキ⁷²⁾

D: 青野('56)は, 5月31日('56)に高梁市臥牛山でエノキから終令幼虫を採集, 6月6日蛹化, 6月20日羽化, 1♀を得たことを報告している⁷²⁾。

また前田('61)は, 8月9日('59)に三角紙内に産卵された卵15個が9日に孵化し, 14日, 15日に脱皮, 18日には2令幼虫6個体を得たが, あと飼育に失敗, また7月20日('60)に広瀬で採集した♀から22日に約150個を産卵させ, 26日孵化, 30日に2令幼虫となったが, 8月9日に死なせてこれまた失敗, さらに7月11日広瀬で5♀採集しリシャル式によって7月17日671卵を得, 22日孵化, 8月20日僅か2個体が3令になり, 9月10日以降動かなくなって, 1月28日なお越冬中であることをみている²³⁵⁾。

難波は3月3日('71)に吉備郡昭和町でエノキの落葉から幼虫2個体を得た。上房郡井殿では8月5日('57), 1♀がアベマキ, ニレ科樹木の樹液に来ていたことが観察されている⁸⁴⁾。

Family SATYRIDAE ジャノメチョウ科

Genus *Ypthima* HÜBNER, 1818 ウラナミジャノメ属

108. *Ypthima argus* BUTLER, 1866 ヒメウラナミジャノメ

C: 広く分布。第1化の早い個体は3月27日('51)に出現し(真庭郡勝山), 4月下旬から5月上旬にかけて多く, ついで6月中旬~下旬および7月中旬~8月上旬に多いところからそれぞれその頃第2化, 第3化がみられるものと思われる。その後はすくなく, 9月に入ると21日に苫田郡竹田で1963年に採られたのが最もおそい記録である。

D: 部屋の中へもよく飛んで入ることがある。水野('52)はツツジの花に吸蜜することを報告している²⁷²⁾。

109. *Ypthima motschulskyi* (BREMER et GREY, 1853) ウラナミジャノメ

A: 新見市一矢の峰, 草間, 広瀬*(June 30, '71, WT); 真庭郡一関; 勝田郡一勝田町;

英田郡一日名倉山；高梁市一神崎，今津，玉，玉川町*(June 18, '61, AT)，笠根*(June 16, '63, MM)，広瀬*(June 18, '61, KT)，大成*(June 17, '62, AT)；浅口郡一金光町；笠岡市一北木島；総社市一門田桜谷；都窪郡一軽部山，黒田，平山；倉敷市一浅原；児島郡一彦崎*(June 10, '62, MM)；岡山市金山，竜ノ口，金甲山，タコラ山。

- B：ほとんどの記録は6月上旬から7月上旬に集中しており，あと7月中旬および下旬に各1例，8月に県北の真庭郡で2例しか知られていない。この点，県内での第2化は詳らかではなく，あるいは第一化のみにとどまるのかも知れないが，今後の課題であろう。

Genus *Minois* HÜBNER, [1819] ジャノメチョウ属

110. *Minois dryas* (SCOPOLI, 1763)

subsp. *bipunctus* (MOTSCHULSKY, 1860) ジャノメチョウ

- B：広く分布。苫田郡上原で5月25日('54)の記録²⁴⁹⁾が1例あるが，これはむしろ異常に早い例であって，普通は6月中旬から8月いっぱいにかけてたえまなく出現，9月に入ると2日('50, 真庭郡川上村)に1例，12日('71)新見市矢の峰の記録1例が最後となる。
- D：阿哲郡小坂部ではこの種の完全な優占に終わっている¹⁷³⁾，という報告が見られるように局地的に集団発生する傾向が認められる。

Genus *Lopinga* MOORE, [1893] ツマジロウラジャノメ属

111. *Lopinga achine* (SCOPOLI, 1763)

subsp. *achinoides* (BUTLER, 1878) ウラジャノメ

英田郡一後山中腹，June 24, '50, lex., 片山豊八採集¹⁹⁷⁾という記録が唯一のものであり，今後の調査が待たれる。

Genus *Harima* MOORE, [1892] ヒメキマダラヒカゲ属

112. *Harima callipteris* (BUTLER, 1877) ヒメキマダラヒカゲ

- A：阿哲郡一三室，雌山，吉田*(Sep. 25, '71, WT)；新見市一青地，矢の峰*(Sep. 12, '71, WT)；真庭郡一野土路峠，土用，新庄村*(Aug. 5, '57, 安東瑞夫)，杉成*(June 28, '64, 重井 博)，芋ヶ谷*(June 28, '64, 重井 博)；苫田郡一辰巳峠～恩原，泉山，毛無山付近，泉源，大神宮原，阿波村*(Aug. 3, '57, 安江安宣)，越畑*(June 26, '66, AK)；勝田郡一那岐山；英田郡一西栗倉村，若杉峠*(July 12, '64, AT)；津山市一上横野；川上郡一小谷*(Sep. 29, '63, 重井 博)

- B：おもに北部山地に分布している。1例だけであるが川上郡小谷の記録があり，かなり南の記録として注目される。出現期は5月中旬から9月下旬までと幅広く，盛期は6月下旬と8月上旬の2回に見られる。また，新見市青地で6月下旬にいたんだ♀が，阿哲郡雌山で8月上旬に新鮮な個体がそれぞれ採集されていることから通常

年1回発生といわれているが、年2回発生の疑いが濃い。あるいは羽化に幅があるのかも知れない。

D: 森林とか木立ちの中において明るい草地にはいない。

Genus *Lethe* HÜBNER, [1819] クロヒカゲ属

113. *Lethe diana* (BUTLER, 1866) クロヒカゲ

B: 吉備高原から北部山地にかけてきわめて普通に見られるが南部での記録は少ない。4月下旬から9月下旬までの記録があり、第1化の盛期は5月下旬から6月にかけて、第2化の盛期は7月中旬から8月上旬。9月下旬まで見られることから年3回の発生と考えられる。

D: 山地性、飛び方は敏しょうで日陰の路上を低く行き来する姿をよく見かける。日陰の岩はだや、葉上にもよく見かける。

114. *Lethe marginalis* (MOTSCHULSKY, 1860) クロヒカゲモドキ

A: 阿哲郡一足立～上石見; 新見市一草間*(June 28, '64, AT), 豊永日咩宮*(July 20, '71, WT); 真庭郡一茅見, 川上村; 津山市一大谷; 高梁市一玉～下切, 玉, 佐与谷, 春木; 上房郡一井殿; 御津郡一本宮山; 久米郡一大井西

B: 吉備高原から北部山地にかけて分布している。北部山地よりも吉備高原からの記録の方が多く、6月下旬から8月上旬まで見られる。最盛期は7月の下旬と思われる。

D: 協本は高梁市松原町春木でアカマツ林の中を飛んでいる本種多数を目撃しており、暖帯アカマツ林中に本種に適した生活環境が用意されていることを想像させる。

115. *Lethe sicelis* (HEWITSON, 1862) ヒカゲチョウ

B: 広く分布。ふつうは6月に第1化成虫が発生、8月から9月にかけて第2化成虫が発生するが、羽化期間に幅があるように思われる。協本は、1968年8月30日、吉備高原の臥牛山より老熟幼虫採集、31日早朝蛹化し、9月7日早朝羽化成虫となった飼育例を経験している。

D: 成虫は樹液に群がっていることが多い。古市('53)は児島郡郷内村で'53年8月下旬から9月上旬にかけてイチヂクの果汁を吸いに集まることを観察報告している¹⁰⁷⁾。燈火に飛来する性質のあることについて2つの報告がある^{183) 331)}。

Genus *Ninguta* MOORE, [1892] オオヒカゲ属

116. *Ninguta schrenckii* (MÉNÉTRIÈS, 1859) オオヒカゲ

A: 阿哲郡一足立～上石見, 矢神, 荒戸山付近, 三坂*(July 15, '62, 重井 博) 天銀山*(Sep. 15, '71, WT); 新見市一天銀山 (July 15, '62, 重井 博); 真庭郡一川上村, 八束村, 中和村, 犬狹峠～別所*(July 11, '71, T); 苫田郡一清水高原, 人形峠, 大神宮原, 上斎原, 恩原, 福見, 大神, 奥津町, 温泉池畔, 上斎原村, 三ヶ

上*(July 20, '70, Ak); 勝田郡一那岐山; 津山市一矢神; 英田郡一後山

B: 北部山地に分布し7月上旬から9月中旬まで見られる。盛期は7月中・下旬と思われる。

Genus *Kirinia* MOORE, [1893] キマダラモドキ属

117. *Kirinia epaminondas* (STAUDINGER, 1887) キマダラモドキ

A: 阿哲郡一雌山, 足立~上石見; 真庭郡一川上村, 中和村, 三木ヶ原, 星山; 苫田郡一辰巳峠~恩原, 奥津町, 上斎原, 恩原~赤和瀬, 泉山山麓, 大神宮原, 恩原; 英田郡一後山; 津山市一福岡

B: 北部山地に分布しているが, どこにでもいるというものではない。7月上旬から発生し, 8月下旬まで見られる。盛期は7月下旬から8月上旬にかけてと思われる。

Genus *Neope* MOORE, [1866] キマダラヒカゲ属

118. *Neope goschkevitschii* (MÉNÉTRIÈS, 1855) サトキマダラヒカゲ

A: 英田郡一河井*(June 19, '59, YΥ); 川上郡一佐原*(May 20, '62, 重井 博); 高梁市一臥牛山*(May 15, '49, Oh), (July 29, '66, Ak); 上房郡一大和山*(July 30, '61, 重井 博); 吉備郡一槻*(Apr. 25, '65, 重井 博), 日羽*(May 6, '62, Kτ); 都窪郡一黒田*(Apr. 22, '51, Aτ; Apr. 28, '59, YΥ; July 28, '56, Aτ); 倉敷市一住吉町*(July 21, '59, Kτ); 岡山市一西大寺金山*(July 22, '53 Ak)

従来, キマダラヒカゲの名で春早くから同好者に親しまれてきたが, 最近二種に分離され, 従来の記録は再検討せざるをえなくなった。

この度は, 次種との識別点については, とくに白水隆博士より懇切な指導をいただき, 編者で手許の標本について同定にあたった。学名の決定も British Museum のタイプの写真が入手され, 確定をみたとの教示をうけ, それに従った。同博士に厚く感謝の意を表します。

119. *Neope nipponica* BUTLER, 1881 ヤマキマダラヒカゲ

A: 阿哲郡一大佐山*(May 13, '61 Ak); 真庭郡一中蒜山中腹*(Aug. 2, '71, KΥ); 高梁市一臥牛山*(Aug. 2, '65 Ak; May 13, '62 Aτ), 広瀬*(May 9, '71, Ak)

B: 現在のところ, 北部の中国山地からと, 吉備高原の高梁市の一角から標本が確認されているだけで, 今後の調査がのぞまれる。

Genus *Mycalesis* HÜBNER, 1818 コジャノメ属

120. *Mycalesis gotama* MOORE, 1857

subsp. *fulginia* FRUHSTORFER, 1911 ヒメジャノメ

B: 広く分布。5月上旬から9月下旬まで見られ, 5月下旬, 6月中旬, 8月上旬, 9月上旬に多くの記録がある。

D: 樹液やカキ, イチヂク等の果実に群がる姿をよく見かける。平地の雑草の中によく

見かける。また、室内にもよく飛びこみ赤枝 ('58) は岡山市西大寺で '54 年の 9 月 3 日から 18 日の間に 20 頭が高校体育館内にとび込んだと報告している²¹⁾。また、この性質が人為的に分布の拡大を助ける例として、広瀬 ('53) が 9 月 10 日 ('53) に伯備線列車中の成虫が岡山駅まで運ばれた例を目撃、報告しているのが目につく¹⁵⁹⁾。広瀬 ('53) は倉敷市田ノ上で 8 月 3 日 ('53) と 9 月 18 日 ('53) に燈火飛来を観察し、報告している¹⁵⁵⁾。

121. *Mycalesis francisca* (CRAMER, 1782)

subsp. *perdiccas* HEWITSON, 1862 コジャノメ

広く分布するが平地では山地より個体数が少ない。

B: 4 月中旬より春型が見られ、5 月から 6 月にかけて多い。夏型は 7 月下旬から 8 月上旬にかけて発生しこの頃数多く見られる。南部で 9 月下旬の記録がある¹⁰⁵⁾。

D: 青野 ('57) は吉備郡高滝山付近で 6 月 2 日 ('57) に得られた標本の中に後翅表第 2 室に斑紋のないものがあると報告している⁸²⁾。

Genus *Coenonympha* HÜBNER, [1819] ヒメカケガ属

122. *Coenonympha oedippus* (FABRICIUS, 1787)

subsp. *arothius* OKADA et TORII, 1945 ヒメヒカゲ

A: 阿哲郡一大佐山, 小坂部; 新見市一草間 (July 7, '63, MM) 西草間; 真庭郡一神庭, 川上村, 勝山町, 八束村, 茅見, 中和村, 犬狹峠*(June 18, '67, MH), 犬狹峠~別所*(July 11, '71, T); 苫田郡一上斎原村, 花知山, 岩屋~泉山山麓, 杉, 養野, 泉山; 英田郡一後山; 和気郡一原, 観音寺山 (目撃); 浅口郡一金光町, 遙照山; 都窪郡一山手村平山; 岡山市一高松町付近

B: 局所的に記録されている。6 月中旬から 8 月中旬までの記録を見るが、北部山地では 7 月下旬が、中南部では 6 月下旬が盛期と考えられる。

Genus *Melanitis* FABRICIUS, 1807 コノマチョウ属

123. *Melanitis leda* (LINNAEUS, 1758) ウスイロコノマチョウ

倉敷市福田町東塚で 1960 年 8 月 4 日に夏型 1 頭が田村 守氏によって採集されたという報告⁹⁰⁾と、津山市東田辺 (昭和池付近) で 1963 年 8 月 15 日に福田元信氏が採集したという報告⁹⁹⁾があるだけである。

124. *Melanitis phedima* (CRAMER, 1782)

subsp. *oitensis* MATSUMURA, 1919 クロコノマチョウ

英田郡土居¹⁹⁷⁾; 津山市堀坂 (Aug. 10, '55)^{197) 250) 187)}; 総社市小寺 (Aug. 4, '66)²²⁰⁾; 倉敷市連島町宮之浦 (Aug. 30, '60)²⁰⁹⁾; 岡山市中之町 (May 27, '62, 秋型)³⁷⁶⁾という 5 つの記録例があるにすぎない。

D: 成虫は電燈に飛来することが岡山市中之町の繁華街で高原 ('62) によって観察され、報告されている³⁷⁶⁾。

岡山県の蝶をみつかった文献目録

- 1) 赤枝 一弘 (1954), 西大寺近隣の蝶 (すずむし, 4(3): 19~23)
- 2) ————・岡崎 昭 (1954), 西大寺近隣の蝶(2) (すずむし, 4(9): 45~46)
- 3) ———— (1954), 西大寺にシルビアシジミ産す (すずむし, 4(9): 46)
- 4) ———— (1955), 西大寺近隣に於ける蝶の初見日 (すずむし, 5(6): 21~22)
- 5) ———— (1955), 西大寺近隣産蝶(3) (すずむし, 5(6): 23~24)
- 6) ———— (1955), 熊山に登る (すずむし, 5(8): 33)
- 7) ———— (1955), 西大寺高に於ける蝶の人気投票 (すずむし, 5(11): 38)
- 8) ———— (1956), 西大寺のヒオドシチョウ (すずむし, 6(1): 3)
- 9) ———— (1956), クロツバメシジミの最終羽化 (すずむし, 6(1): 3)
- 10) ———— (1956), クロツバメ観察1 (すずむし, 6(2): 14~15)
- 11) ———— (1956), 岡山金山へ行く人に (すずむし, 6(2): 16)
- 12) ———— (1956), クロツバメ観察2 (すずむし, 6(3): 28)
- 13) ———— (1956), 竜の口採集記 (西大寺近隣産蝶四報) (すずむし, 6(4): 32~33)
- 14) ———— (1957), クロツバメ観察3 (すずむし, 7(1): 2~3)
- 15) ———— (1957), 西大寺地方の稀蝶のその後の記録 (すずむし, 7(1): 4)
- 16) ———— (1957), 金甲山について (すずむし, 7(1): 4)
- 17) ———— (1957), クロツバメ観察4 (すずむし, 7(3): 48~49)
- 18) ———— (1957), 竜の口でミドリヒョウモン (すずむし, 7(3): 52)
- 19) ———— (1957), 竜の口でナニワトンボとクモガタヒョウモンを採集 (すずむし, 7(3): 52)
- 20) ———— (1957), 採集メモ (すずむし, 7(3): 54)
- 21) ———— (1958), 室内に飛込む蝶について (すずむし, 8(1): 7~8)
- 22) ———— (1958), 金甲山でウラジロミドリシジミを採集 (すずむし, 8(4): 48)
- 23) ———— (1958), 阿哲峽でゴイシシジミ (すずむし, 8(4): 48)
- 24) ———— (1958), 竜の口でダイミョウセセリ (すずむし, 8(4): 48)
- 25) ———— (1959), クロツバメ観察5 (すずむし, 9(1): 9)
- 26) ———— (1959), 都窪郡福田村でクロツバメシジミ (すずむし, 9(3): 31)
- 27) ———— (1959), 西大寺近隣の蝶第五報 (すずむし, 9(4): 37~42)
- 28) ———— (1959), 岡山県におけるクロツバメシジミの生活史 (新昆虫, 12(4): 30~31)
- 29) ———— (1960), 岡山県南部の蝶, 12pp.
- 30) ———— (1961), 県下のゼフィルスの分布について (すずむし, 10(2・3・4): 10~13)
- 31) ———— (1961), 大佐町大井野, 雌山でキマダラモドキを採集 (すずむし, 10(2・3・4): 17)
- 32) ———— (1962), 岡山県南部の蝶分布資料 (すずむし, 12(2): 13)

- 33) ————— (1962), 大佐町の蝶目録 (すずむし, 12(3):22~26)
- 34) ————— (1964), 蝶の異状型2種 (すずむし, 14(1):8)
- 35) ————— (1964), アサギマダラの食草について (すずむし, 14(1):9)
- 36) ————— (1964), 竜の口山系でトンボを追うⅡ (アオヤンマを採る) (すずむし, 14(2):20)
- 37) ————— (1965), 新見市草間でスジグロチャバネセセリ (すずむし, 15(2):25)
- 38) ————— (1965), 岡山県下のクロツバメシジミの越冬と発生回数について (すずむし, 15(3):34~35)
- 39) ————— (1970), 臥牛山のミヤマカラスアゲハ (すずむし, 20(1):10)
- 40) ————— (1970), 岡山県下の蝶おぼえ書 (すずむし, 201):11)
- 41) ————— (1971), (倉昆ニュース)
- 42) 赤枝小太治 (1900), 岡山県よりの蝶報 (動物学雑誌, 12(135):38~39, 12(146):449~450)
- 43) ————— (1901), [モンキアゲハの産地] (動物学雑誌, 13(150):147)
- 44) 秋山 博志 (1960), オオミドリシジミ♀の異状型を採集 (すずむし, 10(1):5)
- 45) ————— (1960), 総社市のトラフシジミ (すずむし, 10(1):5)
- 46) ————— (1960), 豪溪の昆虫二種 (すずむし, 10(1):6)
- 47) ————— (1960), 毛無山付近採集小記 (すずむし, 11(1):3~6)
- 48) 秋山 茂 (1956), 邑久郡長船町付近の蝶類4題 (すずむし, 6(2):13~14)
- 49) ————— (1957), ウラギンシジミの好む色彩 (すずむし, 7(3):52)
- 50) 安東 瑞夫 (1952), 県北の蝶類初発日 (但し春季のみ) (すずむし, 2(1):2~3)
- 51) ————— (1952), 岡山県東北部の好採集地 (すずむし, 2(2):11~12)
- 52) ————— (1952), キマダラルリツバメの新産地 (すずむし, 2(7):68)
- 53) ————— (1952), 津山鶴山城のミスジチョウ (すずむし, 2(7):68)
- 54) ————— (1952), キマダラルリツバメの再記録 (すずむし, 2(8):86)
- 55) ————— (1953), 津山東部に於けるシルヴィアシジミに就いて (すずむし, 3(3):32~34)
- 56) ————— (1953), オオムラサキ [の産地] (すずむし, 3(3):33~34)
- 57) ————— (1953), シルヴィアシジミの新産地 (すずむし, 3(8):106)
- 58) ————— (1956), ウラナミジャノメについて (すずむし, 6(2):16)
- 59) ————— (1958), セセリチョウ科3種の新産地 (すずむし, 8(3):36)
- 60) 青野 孝昭 (1951), モンシロチョウ燈火に飛来す (すずむし, 1(1):3)
- 61) ————— (1951), シオカラトンボがモンキチョウを捕う (すずむし, 1(1):5)
- 62) ————— (1951), モンシロチョウの初発日 (すずむし, 1(3):15)
- 63) ————— (1951), 湯原にギフチョウを追って (春雪, 20~22)
- 64) ————— (1951), 倉敷産セセリチョウの一不明種 *Halpe* sp. について (すずむし, 1(4):21)
- 65) ————— (1951), アサマイチモンシシヤブにも産す (すずむし, 1(5):29)
- 66) ————— (1951), ホシミスジとコムミスジ (すずむし, 1(6):33~34)

- 67) ——— (1951), 秋の山野を行く (すずむし, 1(10): 63~64)
- 68) ——— (1951), シルヴィアシンジミの再記録 (すずむし, 1(11): 67)
- 69) ——— (1951), ホシミスジとコムシジのことなど (すずむし, 1(12): 77~79)
- 70) ——— (1952), 小黒田峠にて (すずむし, 2(4): 32~34)
- 71) ——— (1956), 新見市草間町産の蝶二・三について (すずむし, 6(1): 1~2)
- 72) ——— (1956), オオムラサキ幼虫を臥牛山で採集 (すずむし, 6(1): 3~4)
- 73) ——— (1956), 倉敷付近よりミドリシンジミの多産地を発見 (すずむし, 6(1): 4~5)
- 74) ——— (1956), 1956年度黒田のウスイロとウラジロ (すずむし, 6(1): 5)
- 75) ——— (1956), ウラキンとウラゴマダラの再記録 (すずむし, 6(1): 5)
- 76) ——— (1956), ウラナミジャノメを黒田で記録 (すずむし, 6(1): 5)
- 77) ——— (1956), ムラサキツバメを豪溪で採集 (すずむし, 6(2): 16)
- 78) ——— (1957), 岡山県にも発見されたヒロオビミドリシンジミ (すずむし, 6(3): 25~26)
- 79) ——— (1957), 蝶2題 (すずむし, 7(1): 4~5)
- 80) ——— (1957), コムラサキの訪花 (すずむし, 7(1): 5)
- 81) ——— (1957), 矢の峰とそこに棲む7月上旬の蝶 (すずむし, 7(1): 5~6)
- 82) ——— (1957), 高滝山付近採集記 (すずむし, 7(2): 33~37)
- 83) ——— (1957), 採集メモ (すずむし, 7(2): 39~40)
- 84) ——— (1957), 採集メモ (すずむし, 7(3): 55~57)
- 85) ——— (1957), 明治後期における岡山の昆虫相を知る為の一資料の紹介 (すずむし, 7(4): 72~76)
- 86) ——— (1958), 採集メモ (すずむし, 8(2): 20~24)
- 87) ——— (1958), 雌山付近採集小記 (すずむし, 8(3): 31~35)
- 88) ——— (1958), 高清水高原に登る (すずむし, 8(4): 47)
- 89) ——— (1958), 那岐山の土産品 (すずむし, 8(4): 47)
- 90) ——— (1961), ウスイロコノマ倉敷で採集される (すずむし, 10(2・3・4): 16)
- 91) ——— (1962), 岡山県蝶類分布資料の追加—1959年中の採集行から— (すずむし, 12(4): 38~39)
- 92) ——— (1962), ウラミスジシンジミを新見市で採集 (すずむし, 12(4): 41)
- 93) ——— (1964), 高梁川流域の昆虫一蝶 (高梁川, 16: 44~46)
- 94) ドクトル・ザーメン [宇野弘之] (1963), ドクトル・ザーメン 採集回顧録(1) (すずむし, 13(3): 45~47)
- 95) ——— (1964), ドクトル・ザーメン 採集回顧録(3) (すずむし, 14(1): 11~12)
- 96) ——— (1964), ドクトル・ザーメン 採集回顧録(4) (すずむし, 14(2): 21~22)
- 97) ——— (1964), ドクトル・ザーメン 採集回顧録(8) (すずむし, 15(4): 68~69)

- 98) 江崎 悌三 (1941), 昆虫の天然記念物 (兵庫県 中等学校 博物学雑誌, (7): 119~128)
- 99) 福田 元信 (1963), 津山市高倉西におけるアオタテハモドキの発生 (美作の自然, (9): 7~9)
- 100) F生 [船越俊平] (1952), 平地のアサギマダラ (すずむし, 2(11): 128)
- 101) 船越 俊平 (1952), 蝶の私の初見 (すずむし, 2(3): 24)
- 102) ——— (1953), 水島地区にシルヴィアンジミ (すずむし, 3(9): 130)
- 103) ——— (1953), 倉敷のクロツバメシジミ (すずむし, 3(9): 130)
- 104) ——— (1955), きあげはにおける異常長期の蛹 (すずむし, 5(1): 4)
- 105) ——— (1957), 倉敷市福田町産昆虫雑記(1) (すずむし, 7(3): 45~49)
- 106) 古市 景一 (1953), 児島郡のシルヴィアンジミ (すずむし, 3(10): 148~149)
- 107) ——— (1953), イチヂクの果汁に飛来する蝶 2, 3 (すずむし, 3(12): 159~160)
- 108) 平田 信夫 (1939), 岡山県蝶類目録 (虫の世界, 3(1/2): 26~27)
- 109) ——— (1939), 岡山県蝶類目録 (追加) (虫の世界, 3(5/6): 99)
- 110) 広瀬 義躬 (1951), アサギマダラ倉敷産地追加 (すずむし, 1(1): 3)
- 111) ——— (1951), モンキアゲハ倉敷に産す (すずむし, 1(1): 4)
- 112) ——— (1951), 倉敷附近ヒメアカタテハに関する分布知見 (すずむし, 1(2): 8)
- 113) ——— (1951), モンキチョウの一異常型 (すずむし, 1(2): 8)
- 114) ——— (1951), ウラジロミドリシジミ倉敷に産す (すずむし, 1(3): 14~15, 1(5): [31])
- 115) ——— (1951), 本年度アゲハチョウの初発について (すずむし, 1(5): 30)
- 116) ——— (1951), ホシミスジの産卵について (すずむし, 1(7): 37~38)
- 117) ——— (1951), テングチョウの一異状型について (すずむし, 1(8): 43)
- 118) ——— (1951), 蝶が自分の場所を占有する習性 (すずむし, 1(9): 53~54)
- 119) ——— (1951), イチモンジセセリ螢光燈に飛来 (すずむし, 1(10): 60)
- 120) ——— (1951), 鶴形山蝶類目録に一種追加 (すずむし, 1(11): 67)
- 121) ——— (1951), *Zephyrus* (特にアカシジミ) の訪花について (すずむし, 1(12): 71)
- 122) ——— (1951), 倉敷付近の蝶類について (操麗, (5): 42~44)
- 123) ——— (1952), 蝶類観察雑記(II) セセリの渡り? の観察 (すずむし, 2(1): 1~2)
- 124) ——— (1952), 1951年度蝶の初見 (すずむし, 2(2): 14)
- 125) ——— (1952), 湯原付近ギフチョウの新分布地 (すずむし, 2(3): 23)
- 126) ——— (1952), 蝶類観察雑記(III) *Vanessa* 属 2 種の日週活動に関する一習性 (すずむし, 2(4): 27~28)
- 127) ——— (1952), キマダラヒカゲの訪花資料 (すずむし, 2(5): 38)
- 128) ——— (1952), アゲハチョウの初見資料 (すずむし, 2(5): 39)

- 129) ——— (1952), 倉敷産ホシミスジの食草と周年経過について (すずむし, 2(6): 45~48)
- 130) ——— (1952), 今年の黒田産ウラジロミドリシジミとウスイロオナガシジミ (すずむし, 2(7): 70)
- 131) ——— (1952), ニラの花とヒメアカタテハ (すずむし, 2(9): 95)
- 132) ——— (1952), 1952年春のモンシロチョウの発生小録 (すずむし, 2(9): 96)
- 133) ——— (1952), 1952年春季のアゲハチョウの発生記録 (すずむし, 2(9): 101)
- 134) ——— (1952), *Neptis* 属2種の訪花資料 (すずむし, 2(10): 111)
- 135) ——— (1952), ホシミスジの蛹化部位 (すずむし, 2(10): 113)
- 136) ——— (1952), 岡山市金山より記録するダイミョウセセリ及びスジボソヤマキョウ (すずむし, 2(11): 129)
- 137) ——— (1952), 金山付近の注目すべき蝶類 (すずむし, 2(12): 133~135)
- 138) ——— (1952), 児島半島タコラ山より記録するミドリシジミ (すずむし, 2(12): 143)
- 139) ——— (1953), イチモンジセセリの燈火飛来記録 (すずむし, 3(2): 13~14)
- 140) ——— (1953), ホシミスジの成虫の一食性 (すずむし, 3(4): 38)
- 141) ——— (1953), キタテハと春の花 (すずむし, 3(4): 38)
- 142) ——— (1953), 「1952年度モンシロチョウの没姿期観察メモ」 (すずむし, 3(4): 39~40)
- 143) ——— (1953), テングチョウの習性2題 (すずむし, 3(4): 40~41)
- 144) ——— (1953), 豪溪の蝶2, 3 (すずむし, 3(5): 50~51)
- 145) ——— (1953), ホシミスジ覚え書(1) (すずむし, 3(6): 55~58)
- 146) ——— (1953), コムラサキの地域占有性観察 (すずむし, 3(6): 59)
- 147) ——— (1953), チャバネセセリ燈火に飛来 (すずむし, 3(6): 59)
- 148) ——— (1953), 蝶の初見記録 (すずむし, 3(6): 61)
- 149) ——— (1953), 蝶の燈火飛来3例 (すずむし, 3(7): 73)
- 150) ——— (1953), アオスジアゲハの一経過 (すずむし, 3(8): 107~108)
- 151) ——— (1953), イチヂクはアカタテハの食草か? (すずむし, 3(8): 110~111)
- 152) ——— (1953), ヒオドンチョウ成虫の発音 (すずむし, 3(8): 112~113)
- 153) ——— (1953), アオスジアゲハの地域占有2型 (すずむし, 3(8): 113~114)
- 154) ——— (1953), ツマグロヒョウモン山頂占有性 (すずむし, 3(8): 114~115)
- 155) ——— (1953), 蝶の訪燈数例 (すずむし, 3(8): 115)
- 156) ——— (1953), ヤマトシジミ♀の再交尾 (すずむし, 3(8): 116)
- 157) ——— (1953), ホシミスジ Memo (1) (すずむし, 3(8): 117)
- 158) ——— (1953), モンキチョウの雌雄型を採集す (すずむし, 3(8): 118)
- 159) ——— (1953), 自動車による蝶の移動の1例 (すずむし, 3(8): 120)
- 160) ——— (1953), 蝶の初見記録 (1953年前半期) 一統一 (すずむし, 3(9): 131)
- 161) ——— (1953), アオスジアゲハ幼虫の一天敵 (すずむし, 3(10): 149)
- 162) ——— (1953), 再びモンキチョウの雌雄型に接す (すずむし, 3(12): 158~

159)

- 163) ————— (1954), 岡山県の蝶相に関する文献目録及び解説(1) (すずむし, 4(1): 1~4)
- 164) ————— (1954), キアゲの食草としてのナツミカン (すずむし, 4(1): 9~10)
- 165) ————— (1954), アカタテハの睡眠小観察 (すずむし, 4(4): 27~28)
- 166) ————— (1954), ホシミスジ Memo (2) (すずむし, 4(5): 31~32)
- 167) ————— (1954), ホシミスジ Memo (すずむし, 4(6): 35)
- 168) ————— (1954), 飼育蝶の遅い羽化 (すずむし, 4(7): 39~40)
- 169) ————— (1954), ヒオドシチョウの蛹の体長の変異 (すずむし, 4(9): 47~48)
- 170) ————— (1955), 備南の蝶の初発日調査記録 (1952年度) (すずむし, 5(1): 1~2, 5(2): 6~10)
- 171) ————— (1955), 1953年初春のモンシロチョウ発生小録 (すずむし, 5(1): 3~4)
- 172) ————— (1957), 採集メモ (すずむし, 7(3): 53)
- 173) ————— (1959), 阿哲郡東部の蝶相調査報告 (すずむし, 9(2): 21~23)
- 174) 日浦 勇 (1969), 日本列島の蝶, 第1部, pp. 120
- 175) ————— (1970), 日本列島の蝶, 第2部, pp. 82
- 176) 堀〔脇本〕浩 (1959), 蝶の記録二, 三について (すずむし, 9(4): 44)
- 177) ————— (1961), アサギマダラを目撃について (すずむし, 10(2・3・4): 17)
- 178) ————— (1961), ゴイシジミを目撃について (すずむし, 10(2・3・4): 17)
- 179) ————— (1961), クロヒカゲモドキの記録 (すずむし, 10(2・3・4): 17)
- 180) 星野 拓也 (1943), ウスイロヘウモンモドキ岡山県下に多産す(Thecla, 2(3): 55)
- 181) 井手千代子 (1952), ベニシジミの訪花 (すずむし, 2(11): 128)
- 182) ————— (1952), ウラナミシジミの訪花 (すずむし, 2(11): 128)
- 183) ————— (1952), ヒカゲチョウの燈火飛来について (すずむし, 2(12): 143)
- 184) 池田 藩 (1736), 備前国備中国之内領内産物絵図帳
- 185) 池田 昭彦 (1970), 恩原採集記 (美作の自然, (2): 17~18)
- 186) 井上 立 (1955), 美作の動物 (美作の自然, (1): 10)
- 187) ————— (1956), 美作産蝶類目録 (美作の自然, (2): 5~9)
- 188) ————— (1957), 自然暦 (美作の自然, (3): 8~10)
- 189) ————— (1957), 蝶類採集覚書 (美作の自然, (3): 11~12)
- 190) ————— (1958), 奥津を中心とした蝶類相 (美作の自然, (4): 1~4)
- 191) ————— (1960), 1960年採集観察覚書 (美作の自然, (6): 40~41)
- 192) ————— (1961), 奥津町泉源地区採集記録 (美作の自然, (7): 39~40)
- 193) ————— (1963), 美作の生物観察覚書 (美作の自然, (9): 30~31)
- 194) 磐瀬 太郎 (1953), 岡山県に期待される ミドリシジミの新種 (すずむし, 3(6): 1~2)
- 195) 片山 章 (1939), 我が郷土〔岡山県〕の蝶類 (虫の世界, 3(5/6): 82~83)
- 196) 片山 豊八 (1955), 世の移り変りと津山における「アゲハ蝶」 (美作の自然(1): 6

～7)

- 197) 片山 豊八 (1959), 美作産蝶蛾目録 (岡山と昆虫: 1~60)
- 198) 風早 保男 (1957), 奥津付近の蝶類について (すずむし, 6(3): 27)
- 199) ————— (1957), 豪溪からトラフシジミ (すずむし, 7(2): 31)
- 200) 京浜昆虫同好会 (1971), 新しい昆虫採集案内(II)
- 201) 小林 一彦・鐘尾 紀昭 (1954), 辰巳峠, 恩原付近の蝶 (ヒサマツ, (2): 23~25)
- 202) ————— (1954), ホシチャバネセセリの採集 (ヒサマツ, (2): 25)
- 203) 近藤 光宏 (1951), クロヒカゲモドキを採る (すずむし, 1(9): 54)
- 204) ————— (1952), ネットかついで春の野山へ (すずむし, 2(5): 36~37)
- 205) ————— (1952), キアゲハの蛹と環境色 (すずむし, 2(7): 69)
- 206) ————— (1952), メスグロヒョウモンの触角と前翅, 後翅 (すずむし, 2(7): 74~75)
- 207) ————— (1952), トンボがセセリチョウ採る (すずむし, 2(10): 112)
- 208) ————— (1960), ナガサキアゲハを追って二年 (すずむし, 10(1): 6)
- 209) ————— (1961), 倉敷でクロコノマ採集される (すずむし, 10(2・3・4): 16)
- 210) ————— (1961), 倉敷の連島山でアサギマダラを目撃 (すずむし, 10(2・3・4): 17)
- 211) ————— (1961), トラフシジミ 鬼が岳で記録 (すずむし, 11(1): 7)
- 212) ————— (1961), トラフシジミを黒田で初記録 (すずむし, 11(1): 7)
- 213) ————— (1961), 黒田のウスイロとウラジロ (すずむし, 11(1): 7)
- 214) ————— (1961), ウラキンシジミ片上線苦木付近で記録 (すずむし, 11(1): 7~8)
- 215) ————— (1962), トラフシジミその後の記録 (すずむし, 12(2): 15)
- 216) ————— (1962), ナガサキアゲハ 倉敷でついに記録される (すずむし, 12(3): 27)
- 217) ————— (1962), 湯原にギフチョウを求めて (すずむし, 12(4): 43~44)
- 218) ————— (1963), アサギマダラの新しい食草 (ガガイモ) を発見, 県南部にも生息は可能 (すずむし, 13(1): 1~5)
- 219) ————— (1963), 井倉のスマナガシ (すずむし, 13(2): 19)
- 220) 近藤 要一 (1966), クロコノマを総社市で採る (すずむし, 16(2・3・4): 59)
- 221) 小坂 和彦 (1946), 岡山県産蝶類目録 (岡山博物同好会会報予報 其ノ1)
- 222) 古屋野 寛 (1951), ギフチョウとうすばさいしん (すずむし, 1(3): 11~12)
- 223) 倉敷昆虫同好会 (1951), 鶴形山の昆虫 (すずむし, 1(7), 別冊, 8pp.)
- 224) ————— (1968), 岡山の昆虫 225pp.
- 225) 倉敷昆虫同好会編輯部 (1952), 児島半島 タコラ山付近 採集調査記録 (すずむし, 2(12): 135~136)
- 226) 倉吉東高生物クラブ (1958), 鳥取県中部地区 (倉吉市, 東伯郡) 蝶類目録 (倉吉東高校生物クラブ報告, (1): 1~26, 分布地図4葉)
- 227) 黒田 卓也 (1963), 金山にてアサギマダラを採集 (すずむし, 13(2): 19)

- 228) 黒田 馬三 (1933), 岡山県南部地方の蝶類 (昆虫界, 1(4):435~436)
- 229) 前田喜四雄 (1960), トラフシジミを総社市長良で採集 (すずむし, 10(1):5)
- 230) ————— (1960), 美袋でゴイシジミを採集 (すずむし, 10(1):5)
- 231) ————— (1960), 5月にウラナミシジミ (すずむし, 10(1):5)
- 232) ————— (1960), 総社市のクモガタ・オオウラギンの記録(すずむし, 10(1):6)
- 233) ————— (1961), 総社市産蝶類第一回調査報告(一) (すずむし, 10(2・3・4):13, 11(1):6~7)
- 234) ————— (1961), 総社市長良にゴイシジミ産す (すずむし, 11(1):8)
- 235) ————— (1961), オオムラサキ (あすなろ, p.22~28, 47~48)
- 236) —————・秋山 博志 (1961), 総社市の蝶(1), 18pp.
- 237) ————— (1962), 湿度と蛹の関係について(第1報) (すずむし, 12(1):5)
- 238) 楨本 精二 (1960), 都窪郡福田村における蝶類の分布について (すずむし, 10(1):1~3)
- 239) 間野 幹男 (1939), 採集資料 (虫の世界, 3(5/6):26)
- *240) 松田 滋 (1939), 岡山市近郊の蝶の採集について (博物同好会々報, 2:15~24)
- 241) 松井 俊公 (1952), タコラ山での割合めずらしい蝶の採集短報 (すずむし, 2(7):68)
- 242) ————— (1952), 訪花二・三について (すずむし, 2(11):119)
- 243) ————— (1952), アカシジミ蛹の寄生バチ (すずむし, 2(11):128~129)
- 244) ————— (1954), 岡山市内でアサギマダラ目撃 (すずむし, 4(4):28)
- 245) ————— (1954), 春の山野所見 (産卵2題) (すずむし, 4(5):32)
- 246) 松本 義明 (1955), モンシロチョウの生理・生態に関する研究 第1報 (農学研究 43(3):153~159)
- 247) 松野 宏 (1965), ギフチョウの幻想 (すずむし, 15(4):67~68)
- 248) ————— (1970), 近畿北部—中国地方におけるウスバシロチョウの分布 (すずむし, 20(1):1~10)
- 249) 美作虫の会 (1968), チョウ・カミキリ・ハチ・トンボ分布資料 (美作の昆虫, (1):1~26)
- 250) 道信 順 (1957), 美作の蝶について (すずむし, 7(1):1~2)
- 251) ————— (1958), 昆虫の知見五題 (美作の自然, (4):4~7;(5):37)
- 252) ————— (1959), ムカシトンボ採集記 (すずむし, 9(4):45~46)
- 253) ————— (1962), 蝶の発生を主とした生物季節 (美作の自然, (8):18~21)
- 254) ————— (1962), ウラクロシジミ県内に産す (すずむし, 12(2):13)
- 255) ————— (1962), スギタニルリシジミ県内に産す (すずむし, 12(2):14)
- 256) ————— (1970), 美作地方で珍らしい動物 (美作の自然(2):11~17)
- 257) 宮原 玲子 (1961), 蝶を追って (あすなろ, p.69~72)
- *258) 三宅 淑 (1942), 岡山県方面のシジミテフ 数種についての考察 (科学班雑誌, 8:18~21)
- 259) 溝口 修・溝口重夫・日浦 勇 (1959), ギフチョウ属の研究(4) (昆虫科学, (10)

- : 6~8)
- 260) ————— (1960), ギフチョウ属の研究(5) (昆虫科学, (11)
: 8~12)
- 261) 水野 弘造 (1951), シルヴィアシジミ総社市にも産す (すずむし, 1(12): 74)
- 262) ————— (1951), ムラサキツバメ豪溪で発見 (すずむし, 1(12): 75)
- 263) ————— (1952), 岡山県吉備郡総社町付近に於ける蝶類 (すずむし, 2(3): 20~
22)
- 264) ————— (1952), 蝶の採集と研究(3) クロタイマイの飼育観察 [その1] (すず
むし, 2(4): 29)
- 265) ————— (1952), 福山でスジボソヤマキチョウ?を見る (すずむし, 2(4): 30)
- 266) ————— (1952), 蝶の採集と研究(4) クロタイマイの飼育観察 [その2] (すず
むし, 2(5): 41~42)
- 267) ————— (1952), 本年の蝶の初発 (すずむし, 2(6): 48~50)
- 268) ————— (1952), 総社町に於ける今春のシルヴィアシジミ (すずむし, 2(6): 54)
- 269) ————— (1952), 蝶の採集と研究(5) (クロアゲハの蛹化) (すずむし, 2(7):
59~63)
- 270) ————— (1952), ヘリグロチャバネの新産地 (すずむし, 2(7): 72)
- 271) ————— (1952), ダイミョウセセリ豪溪に産す (すずむし, 2(7): 73)
- 272) ————— (1952), 蝶の訪花二・三 (すずむし, 2(7): 73~74)
- 273) ————— (1952), ウラナミジャノメの一異常型 (すずむし, 2(7): 75)
- 274) ————— (1952), ウラナミジャノメの新産地 (すずむし, 2(8): 87)
- 275) ————— (1952), 黒田のミドリシジミ (すずむし, 2(8): 89)
- 276) ————— (1953), アサギマダラは土着しているか?—総社町付近に於ける記録—
(すずむし, 3(8): 106)
- 277) ————— (1953), 福山にミドリシジミ (すずむし, 3(8): 106~107)
- 278) ————— (1953), ウラジロミドリの一習性? (すずむし, 3(9): 131)
- 279) ————— (1953), 足守町竜泉寺付近の蝶を追って (すずむし, 3(9): 132, 136)
- 280) 中村 具見 (1966), ダイセンシジミ臥牛山に産す (すずむし, 16(2・3・4): 68)
- 281) 中島 孝文 (1963), ミスジチョウを備中広瀬にて採集 (すずむし, 13(2): 19)
- 282) ————— (1963), 金山にてウラキンシジミの終齢幼虫採集 (すずむし, 13(2):
19)
- 283) 中塚 憲次 (1951), 怪我の功名 (すずむし, 1(4): 20~21)
- 284) 難波 通孝 (1963), 総社市南秦にてウラキンシジミを採集 (すずむし, 13(2): 19)
- 285) ————— (1963), ムラサキツバメの食樹シリブカガンについて (すずむし, 13(3)
: 35~36)
- 286) ————— (1963), ゼフィルス4種飼育記録 (すずむし, 13(3): 37~39)
- 287) ————— (1963), 岡山県井原市以北蝶類採集記 (すずむし, 13(3): 44)
- 288) ————— (1965), 会員広島便り (すずむし, 15(2): 28~30)
- 289) 成富 安信 (1941), ウスイロヘウモンモドキの新産地 (昆虫界, 9(93): 791)

- 290) ————— (1941), 蝶類雑記 (*Zephyrus*, 9(2) : 112~116)
- 291) 那須 敏 (1965), 1965年のクロツバメシジミの記録 (すずむし, 15(3) : 47)
- 292) 新村 太郎 (1948), 蝶の生活, pp. 123
- 293) 西松 公夫 (1951), 関西のシータテハ (蝶と蛾, 2(2) : 12)
- 294) ————— (1951), 岡山県北部の昆虫雑感 (すずむし, 1(12) : 72~73)
- 295) ————— (1952), キマダラルリツバメの分布と習性 (新昆虫, 5(2) : 21~22)
- 296) NTK [青野孝昭] (1958), 季節の昆虫 (すずむし, 8(1) : 10~13)
- 297) 小川 大右 (1953), 物見峠採集記 (すずむし, 3(5) : 48~49)
- 298) 小川 静子 (1950), 岡山県内蝶類目録 (諏訪蝶類同好会々誌, 2(2) : 63~65)
- 299) 岡本 忠 (1960), コミスジの黒化型 (すずむし, 10(1) : 5)
- 300) 岡山県 (1930), 岡山県内生物目録
- 301) 岡山県師範学校 (1936), 郷土研究紀要 第一輯
- 302) 岡山県史蹟名勝天然記念物調査会 (1933), 岡山県郷土館備付蒐集品目録
- 303) 奥谷 禎一 (1947), 二三昆虫の分布 (採集と飼育, 9(8/9) : 167)
- 304) 大森 齊 (1962), ウラゴマダラシジミとハイイロヤハズカミキリの記録 (すずむし, 11(3) : 8)
- 305) 大森 豊彦 (1957), アオバセセリ金山にて捕獲 (すずむし, 7(2) : 31)
- 306) ————— (1957), 邑久町でモンキアゲハを目撃 (すずむし, 7(3) : 52)
- 307) 小野 悦夫 (1951), 電燈に飛来したアカタテハ (すずむし, 1(1) : 3)
- 308) ————— (1951), 花屋に飛来したアサギマダラ (すずむし, 1(2) : 8)
- 309) 小野 洋 (1948), 早春の山野をたずねて (倉工文化, 1(3) : 3~5)
- 310) —————・青野 孝昭 (1948), 倉敷地方におけるヒオドシチョウの研究(その一)
(倉工文化, 1(5) : 1~5)
- 311) —————・————— (1949), 倉敷地方におけるヒオドシチョウの研究(その二)
(倉工文化, 2(1) : 1~6)
- 312) ————— (1949), 倉敷付近の蝶についての研究(一) (倉工文化, 2(3) : 3~6)
- 313) ————— (1950), 倉敷付近の蝶についての研究(二) (倉工文化, 2(4) : 1~3)
- 314) ————— (1950), 倉敷の蝶 (Shell, (1) : 11~17)
- 315) ————— (1951), 鶴形山公園で採れたスミナガシ (すずむし, 1(1) : 3~4)
- 316) ————— (1951), 蝶 3 題 (すずむし, 1(1) : 4)
- 317) ————— (1951), ジャコウアゲハの一産地消滅 (すずむし, 1(1) : 4)
- 318) ————— (1951), 倉敷のウスイロオナガシジミ (すずむし, 1(2) : 3)
- 319) ————— (1951), アサマイチモンジ (すずむし, 1(4) : 21~22)
- 320) ————— (1951), 岡山県のギフチョウ (新昆虫, 4(7) : 39~40)
- 321) ————— (1951), ウラジロミドリを採る (すずむし, 1(6) : 35)
- 322) ————— (1951), 今年のウスイロオナガシジミ (すずむし, 1(6) : 35)
- 323) ————— (1951), シルヴィアシジミの記録 (すずむし, 1(7) : 39)
- 324) ————— (1951), ウラギンスジヒョウモンの Gynandromorph (すずむし, 1(8) : 42)

- 325) ————— (1951), ビワの花とアカタテハ (すずむし, 1(10):61)
- 326) ————— (1952), 本年のアゲハチョウの初見 (すずむし, 2(4):31)
- 327) ————— (1952), 録の訪花一題 (すずむし, 2(5):38)
- 328) ————— (1952), 蝶の訪花二題 (すずむし, 2(7):74)
- 329) ————— (1952), 倉敷産のウスイロオナガシジミとウラジロミドリシジミ (新昆虫, 5(4):38~39)
- 330) ————— (1952), 岡山県の蝶類雑感 (Entomic Investigation, 2(1):8~12)
- 331) ————— (1952), ヒカゲチョウ燈火に飛来 (すずむし, 2(10):113)
- 332) ————— (1952), 蝶の訪花二例 (すずむし, 2(12):144)
- 333) ————— ・青野 孝昭 (1953), 倉敷に於ける ヒオドシチョウの周年経過と天敵 (すずむし, 3(2):6~7)
- 334) ————— (1953), 本年のモンシロチョウの初発 (すずむし, 3(3):34)
- 335) ————— (1953), 四月の熊山採集報告 (すずむし, 3(5):45~46)
- 336) ————— (1953), 本年のクロアゲハとアオスジアゲハの初発 (すずむし, 3(6):61)
- 337) ————— (1953), 倉敷南部山脈縦走採集報告(4月)(すずむし, 3(8):120~122)
- 338) ————— ・広瀬 義躬 (1954), 倉敷付近の蝶類 (すずむし, 4(4):25~27, 4(5):29~31, 4(6):33~34)
- 339) ————— (1954), 熊山のギフチョウはのぞみうす? (すずむし, 4(5):32)
- 340) ————— (1954), モンキアゲハを目撃 (すずむし, 4(7):40)
- 341) ————— ・広瀬 義躬 (1954), 倉敷付近の蝶類 (新昆虫, 7(10):11~13)
- 342) ————— (1954), 弥高山のモンキアゲハ (すずむし, 4(9):46~47)
- 343) ————— (1955), 矢の峰のホンチャバネセセリ (すずむし, 5(6):22~23)
- 344) ————— (1955), 矢の峰採集記 (すずむし, 5(7):25~27)
- 345) ————— ・広瀬 義躬 (1955), 春生キマダラヒカゲの早期発生 (すずむし, 5(7):30)
- 346) ————— (1956), ウスイロオナガシジミとウラジロミドリシジミの分布 (すずむし, 6(2):16~17)
- 347) ————— (1961), 早春の阿哲峽から (すずむし, 10(2・3・4):18)
- 348) ————— (1962), 後山採集記 (すずむし, 12(4):44~46)
- 349) 大野 憲一 (1963), 井倉・方谷間でクロツバメシジミを採集 (すずむし, 13(2):19)
- 350) ————— (1963), 児島郡灘崎町でトラフシジミの終齢幼虫を採集羽化する (すずむし, 13(3):39)
- 351) 小野 義正 (1962), 倉敷でムラサキツバメを記録す (すずむし, 12(2):16)
- 352) 尾崎 年彦 (1957), 倉敷にゴイシジミ (すずむし, 7(2):30~31)
- 353) 佐武 [正一] (1906), 岡山の昆虫界 (博物之友, 6(34):279)
- 354) 佐藤 清明 (1953), 蒜山の生物誌 (岡山春秋, 3(1):47~54)
- 355) 石 宙 明 (1937), 内地産2個の蝶 (昆虫界, 5(36):135~136)

- 356) 柴田 晃 (1962), 大佐の自然, pp. 24
- 357) 重井 博 (1963), ムラサキツバメの雌を倉敷で採集 (すずむし, 13(1):7)
- 358) ————— (1963), オオヒカゲ天銀山に産す (すずむし, 13(1):7~8)
- 359) —————・青野孝昭・小野 洋・近藤光宏・林 憲一 (1963), 新庄村の昆虫調査報告 (その1) (すずむし, 13(2):1~12)
- 360) 清水 慶子 (1953), 那岐山採集記 (すずむし, 3(1):1~3)
- 361) 清水 卓一 (1959), 蒜山の昆虫二三について (すずむし, 9(1):10)
- 362) 篠永 哲 (1959), 中国山脈の片隅にて (松山昆虫同好会短報(16):3)
- 363) 白神 昭 (1951), アサギマダラ (すずむし, 1(1):3)
- 364) ————— (1951), ウラギンシジミの越冬 (すずむし, 1(4):21)
- 365) ————— (1951), クロツバメシジミに就いて (すずむし, 1(4):22)
- 366) ————— (1951), シルヴィアシジミ倉敷に産す (すずむし, 1(5):30)
- 367) ————— (1951), アカタテハの一食草 (すずむし, 1(5):30~31)
- 368) ————— (1951), アサマイチモンジの記録 (すずむし, 1(5):31)
- 369) ————— (1951), 倉敷の *Limenitis* (すずむし, 1(7):37)
- 370) 白水 隆 (1958), 日本蝶類分布表, 283 pp.
- 371) ————— (1959), 原色昆虫大図鑑 I (蝶蛾篇),
- 372) 鈴木 一郎・佐武 正一 (1907), 岡山県産虫報(一) (博物之友, 7(40):151~152)
- 373) ————— (1908), 岡山市付近ノ昆虫 (博物之友, 8(56):271~274)
- 374) T. A [青野孝昭] (1951), 七月下旬の黒田 (すずむし, 1(7):39)
- 375) 高原 哲夫 (1962), トラフシジミ岡山市内で採集 (すずむし, 11(3):8)
- 376) ————— (1962), クロコノマチョウを岡山市街で採集 (すずむし, 12(4):41)
- 377) ————— (1962), 岡山市内でアサギマダラを採集 (すずむし, 12(4):41)
- 378) 高橋 久夫 (1961), 大佐産の蝶について (備北科学, 1:27~31)
- 379) 竹内 亮 (1951), 中国山脈中部の蝶 (蝶と蛾, 2(2):12)
- 380) 竹内 幸夫 (1957), 久米町西部の昆虫分布(その二) (美作の自然, (3):32~33)
- 381) ————— (1959), オオチャバネセセリの奇習 (すずむし, 9(1):9~10)
- 382) ————— (1961), 昆虫の習性あれこれ (美作の自然, (7):38)
- 383) ————— (1964), メスアカミドリシジミの新産地 (すずむし, 14(2):19)
- 384) ————— (1964), ウラクロシジミの新産地 (すずむし, 14(2):19)
- 385) 友野 良一 (1951), シジミチョウの早期発生一例 (すずむし, 1(2):9)
- 386) ————— (1951), 冬のウラナミシジミ (すずむし, 1(12):74)
- 387) ————— (1956), 倉敷付近でヒメヒカゲその他 (すずむし, 6(2):15~16)
- 388) ————— (1956), 福山でアサギマダラ (すずむし, 6(4):34)
- 389) ————— (1956), イチモンジセセリの飛翔速度 (すずむし, 6(4):34)
- 390) ————— (1957), キチョウの初見 (すずむし, 7(1):4)
- 391) ————— (1957), 和気のおオウラギンヒョウモンとウラゴマダラシジミ (すずむし, 7(2):31)
- 392) ————— (1957), 採集メモ (すずむし, 7(2):37~38)

- 393) ————— (1959), 和気町でヒメヒカゲ (すずむし, 9(2):24)
- 394) 坪井 近三 (1960), 作州路行脚 (美作の自然, (6):1~3)
- 395) 宇野 弘之 (1964), アサギマダラを鴨方町で採集 (すずむし, 14(1):8)
- 396) ————— (1967), 足立方面採集報告 (倉昆ニュース(2):7)
- 397) 若林 正史 (1955), 豪溪でアオパセセリ (すずむし, 5(10):2)
- 398) ————— (1955), 黒田でウラゴマダランジミ (すずむし, 6(1):4)
- 399) ————— (1956), 阿哲峽採集記 (すずむし, 6(1):6)
- 400) ————— (1956), 豪溪でクロツバメシジミ (すずむし, 6(4):34)
- 401) ————— (1957), 昭和町日羽, 美袋間の 調査報告 及び高滝山付近の 採集品目録 (すずむし, 7(2):41)
- 402) 若林 三郎・友野 良一 (1951), クロツバメシジミの新産地 (すずむし, 1(6):35~36)
- 403) 脇本 浩 (1965), 高梁市産蝶類目録 (すずむし, 15(2):17~20)
- 404) 渡部 太郎 (1962), (津山市田辺) 黒沢山蝶類目録 (美作の自然, (8):14~17)
- 405) 山本 茂信 (1932), 再びキマダラルリツバメに就いて (*Zephyrus*, 4(4):265~267)
- 406) 山根 知之 (1967), 兵庫県下におけるハヤシミドリシジミの新産地について (蝶と蛾18(1・2):46)
- 407) 安江 安宣 (1955), 久米郡二上山 (すずむし, 5(8):31~33)
- 408) ————— (1956), 徳川中期における岡山地方の蝶と蜻蛉類 (すずむし, 6(4):29~32)
- 409) ————— (1957), シルヴィアシジミの分布とその食草について考えること (すずむし, 7(2):19~28)
- 410) ————— (1957), 冬至の日にムラサキシジミ (すずむし, 7(4):77)
- 411) ————— (1959), 山陽昆虫案内 (岡山と昆虫:70~73)
- 412) 矢田 脩 (1960), 岡山県足立のチョウ (昆虫科学, (11):12)
- 413) 横田 正義 (1965), 浅原峠のトラフシジミ (すずむし, 14(3):30)
- 414) 好本 精 (1942), クロアゲハの無尾型採集 (岡山) (昆虫界, 10:650)
- 415) Y, T. [山川東平] (1951), ナガサキアゲハ (すずむし, 1(10):60~61)

音水及び坂谷国有林（兵庫県）の カミキリムシについて

黒 田 祐 一

（岡山市中央町3の6）

扇山、氷の山を始めとして三室山、沖の山、後山等1,000 mを越える山が十以上も連なる兵庫・鳥取・岡山県の境は裏日本気候と表日本気候の推移帯に当り、複雑な地形とともに豊富な植物相を呈し、従って生物学的にも興味ある所である。その一部兵庫県側に南より音水及び坂谷国有林がある。筆者は昭和43年より両国有林のカミキリムシの観察・採集をこころみて来たが、最近の急速な開発はこの地も例外でなく、生物分布に大きな変化をもたらしつつある状態である。

扇山、氷の山のカミキリムシについては既に諸氏^{2), 5), 7)~12)}による報告が有るが、当地域については僅かに高橋^{9), 10)}、辻¹¹⁾、畑中^{3), 4)}等による音水、赤西の簡単な報告があるのみである。今後の調査で多数の追加種の出る事は予想される事であるが、一応ここにまとめておく事も無意味でないと思ひ筆をとって見た。

本文に入るに先だち何時もながら文献に、同定に貴重な時間をさいて戴いている林 匡夫博士、日頃より鞭韃御指導をたまわっている小島圭三博士・渡辺弘之博士・中村慎吾氏、兵庫県産カミキリについて文献の恵与及び質問にお答え戴いた高橋寿郎氏、植物について御教示願った大市 喬氏、及び採集に協力いただいた小野 豊氏に心より御礼申し上げる。

参考地図（五万分の一：大屋市場，坂根）

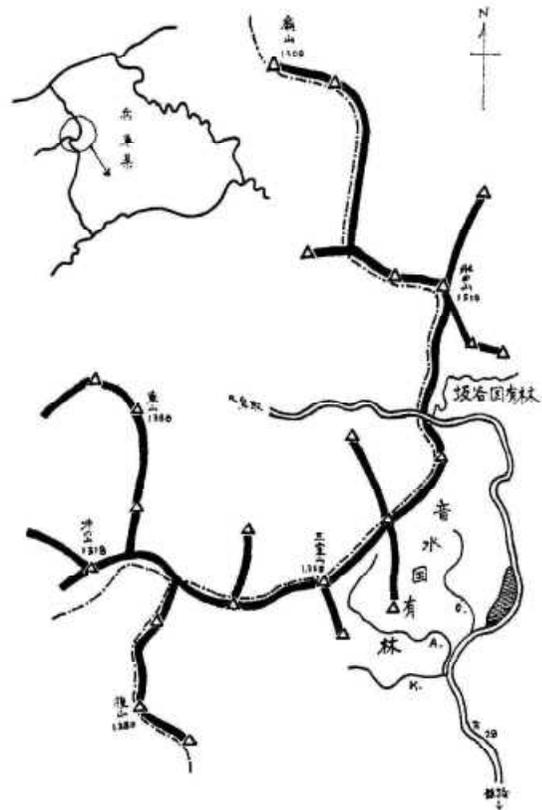
1. 赤西溪谷（海拔400～800m）

国道29号線を揖保川・引原川ぞいに北上すると引原ダムがある。その手前の西側一帯の原生林が音水国有林で、南より寒霞溪、赤西溪谷、音水溪谷と三つの谷がある。国道原より引原川を渡ると寒霞溪入口である。そこより更に川に沿って少しさかのぼると道は川と分れ左に向う、そこが赤西えの入口である。植林された杉木立の道を行くと所々につまれた薪より7・8月にはルリボン、フタオビミドリトラ、ニイジマトラ、サビカミキリの類がみられる。谷川は道の右に又左になりつつ次第に深さを増しミヤママタタビ、イヌシデ、フサザクラ、アカメガンショ、ケヤキ、ヤマモミジ、サワグルミ、ブナ、トチ、ホオ、ヌルデ等の樹木が谷を両側からおおう様に生えている。その間に7月となるとミヅキ、ノリウツギの花が咲きハナカミキリ、トラカミキリの類が飛来し、道傍のアジサイ科の花に *Pidonia* が見かけられる。国道より9.5km 入った所に赤西の山崎管林署の建物が緑にはえて建っている。始めてここを訪れた時そこから500m程入った所は鬱蒼として、道傍につまれた伐採木にオオアオ、フタオビミドリトラ、ヒゲナガゴマフ等が飛来し、傍のトチの木をゆするとクワガタの類が雨の様に落下し、更に少しく登ると炭焼小屋があり、そこ

につまれた伐木にオオヨツスジハナ、センノ、ビロウド等が見かけられたが、翌年訪れた時はその辺一帯の山は頂上迄伐採され、あれ程見かけていた昆虫類は姿を消してしまっていた。(昭和45年度より営林署から奥への入林は禁止されている。)

Ⅱ. 音水溪谷 (海拔400~800m)

国道音水口より急坂を引原川に向かって下り、すぐに橋を渡ると溪谷の入口である。数軒の民家があり、その周りでは春先にウスバシロチョウの乱舞がみられる。そこより谷川ぞいに道は登り、赤西に比べ一層谷は深くミヅナラ、フサザクラ、カツラ、トチ、クマシデ等が見られ、更に奥にすすむとカツラ、サワグルミ、ブナ、シオジの大木が生え、斜面にはイタヤカエデ、ウリハダカエデ、ミヅナラ等が見られる。入口より4.5kmの所に橋があり、その手前は谷が浅く広げ、川辺に一時は伐採木の山がありルリボシ、オオヨツスジハナ、ビロウド等が多数見られていたが最近では積み出されてしまっている。そこより奥に向かって新しい道が出来つつあり、近き将来赤西溪谷と道が連絡し、県民の歩行コースが作られるそうである。



Ⅲ. 坂谷国有林 (海拔600~1,000m)

国道29号線を更に北上、引原ダムを左に見ながら通り過ぎ、戸倉スキー場を後にして殆んど県境近く迄行くと、右手に小さな橋があり、そこに坂谷と小さい標識が立っている。国道よりわかれてそこを歩いて行くと道は狭く屈曲しつつ次第に登りとなる。ブナ、ミヅナラの鬱蒼とした谷を見おろしながら道は上へ上へと続いている。昭和45年度より始められた伐採、積み出しは急テンポで、良い採集場所を見つけても旬日を出ない内にあとかたもなくなっている状態である。海拔1,000m辺を走る山道はかなり広く、両側にはブナ、ウチワカエデ、クロモジ、ホウの大木が生え、下草はネマガリタケの茎とヤマソテツが見られる。6月頃には所々に咲いているゴトウヅルの花に *Pidonia*、ルリハナ、カタキハナが見られ、ノリウツギの花にヨツスシハナ、ヒメアカハナ、*Pidonia* が集っている。はるか足下にさき程登って来た道が見られ、南には山なみが煙り、吹いてくる風は涼しく赤西、音水とは異った景観である。現在国道より分れて8.3kmの所で行き止まりとなっている。

音水, 坂谷国有林カミキリムシ目録

CERAMBYCIDAE カミキリムシ科

I. Prioninae ノコギリカミキリ亜科

Megopidini ウスバカミキリ族

1. *Megopis (Megopis) sinica* (WHITE) ウスバカミキリ
坂谷 (1 ex. 16. VIII. '70)
立枯樹幹のくぼみにて採集。氷の山に於ても記録あり, 個体数は少ない。

Prionini ノコギリカミキリ族

2. *Prionus insularis* MOTSCHULSKY ノコギリカミキリ
赤西 (1 ex. 18. VIII. '68; 2 exs. 4. VIII. '71; 4 exs. 8. VIII. '71)
8 月上・中旬土場近くの地上にて得られる。同一山塊の氷の山, 岡山県英田郡若杉峠の記録あり広範囲に分布する。

Anacolini コバネカミキリ族

3. *Psephactus remiger* HAROLD コバネカミキリ
赤西 (1 ex. 15. VIII. '71), 音水 (1 ex. 17. VIII. '69)
8 月上・中旬にブナ伐木及び樹皮下にて得られるも個体数は少ない。氷の山の記録あり。

II. Disteniinae ホソカミキリ亜科

Disteniini ホソカミキリ族

4. *Distenia gracilis* (BLESSIG) ホソカミキリ
寒霞溪 (1 ex. 4. VIII. '71)
伐採木にて採集。氷の山, 英田郡後山でも記録あり, 個体数は少ないが分布は広い。

III. Lepturinae ハナカミキリ亜科

Toxotini カタビロハナカミキリ族

5. *Gaurotes (Paragaurotes) doris* BATES カラカネハナカミキリ
赤西 (1 ex. 23. VI. '68), 音水 (8 exs. 17. V. '70; 8 exs. 16. V. '71), 坂谷 (1 ex. 31. V. '70)
5 月中旬より 6 月下旬にかけチドリノキ (ヤマシバカエデ) の花, ヤシヤブシの葉上にて得られる。扇山, 岡山県北部山地各地よりの記録あり, 分布は広い。

1. 林博士に同定をお願いした種については説明文の後に (林氏同定) と略記した。
2. 学名の前の*印は兵庫県未記録種である。
3. 既報告の産地音水は狭意の音水溪谷として扱った。

6. *Lemula nishimurai* SEKI アカイロニセハムシハナカミキリ
音水 (3 exs. 17. V. '70; 1 ex. 16. V. '71)
5月中旬チドリノキの花にて次の三種とともに得られるが個体数は少ない。扇山、岡山
県脊梁山地の記録あり、分布は広い。
7. *Lemula rufithorax* PIC ピックニセハムシハナカミキリ
音水 (6 exs. 17. V. '70; 3 exs. 16. V. '71)
岡山県脊梁山地各地の記録あり、分布は広い。
8. *Lemula decipiens* BATES キバネニセハムシハナカミキリ
音水 (2 exs. 17. V. '70; 5 exs. 16. V. '71)
9. *Acmaeops (Dinoptera) minuta* (GEBLER) ヒナルリハナカミキリ
赤西 (1 ex. 31. V. '70), 音水 (20 exs. 17. V. '70; 20 exs. 16. V. '71), 坂谷 (1
ex. 31. V. '70)
5月中・下旬に各谷でカエデ、チドリノキの花に見られ、前種より個体数は多い。
10. *Pidonia (Mumon) debilis debilis* (KRAATZ) チャイロヒメハナカミキリ
赤西 (1 ex. 31. V. '70; 1 ex. 25. VII. '71), 坂谷 (4 exs. 20. VI. '71)
5月下旬より7月下旬にかけてゴトウヅル、ノリウツギの花上にて見られる。
11. *Pidonia (Pidonia) simillima* OHBAYASHI et HAYASHI ニセヨコモヒメハナカ
ミキリ
音水 (1 ex. 31. V. '70), 坂谷 (1 ex. 20. VI. '71)
ゴトウヅルの花上にて採集。扇山、岡山県脊梁山地の記録あり。
12. *Pidonia (Pidonia) amentata amentata* (BATES) セスジヒメハナカミキリ
赤西 (13 exs. 17. V. '70; 1 ex. 31. V. '70), 音水 (1 ex. 26. V. '68; 1 ex. 17. V.
'70; 7 exs. 16. V. '71), 坂谷 (1 ex. 31. V. '71)
5月中・中旬に各谷に広く花上にて得られる。
13. *Pidonia (Pidonia) miwai* (MATSUSHITA) ミワヒメハナカミキリ
赤西 (2 exs. 31. V. '70), 音水 (1 ex. 17. V. '70; 1 ex. 16. V. '71), 坂谷 (1 ex. 27.
VI. '71)
5月中旬より6月下旬にかけてチドリノキ、ゴトウヅルの花上に見られるが、個体数は
少ない。氷の山、岡山県脊梁山地に於ても記録あり、分布は広い。
14. **Pidonia (Pidonia) chujoi* OHBAYASHI et HAYASHI チユウジョウヒメハナカミキ
リ
坂谷 (1 ex. ♂. 20. VI. '71)
ゴトウヅルの花上にて採集。四国高地帯に分布し、本州未記録である。(林氏同定)
15. *Pidonia (Pidonia) yamato* HAYASHI et MIZUNO ヤマトヒメハナカミキリ
畑中氏が音水にて 28. V. '70 カマツカ花上にて2頭採集報告されている。
16. *Pidonia (Pidonia) signifera* (BATES) ナガバヒメハナカミキリ

- 赤西 (2 exs. 17. V. '70; 1 ex. 31. V. '70), 音水 (1 ex. 16. V. '71)
 5月上・下旬花上に見られ、氷の山より岡山県脊梁山地にかけ広範囲に分布す。
17. *Pidonia (Pidonia) mutata mutata* (BATES) ヒメハナカミキリ
 音水 (1 ex. 16. V. '71)
 チドリノキの花上にて小野氏採集。辻氏の扇山、音水の記録及び岡山県脊梁山地に於ける報告あり。(林氏同定)。
18. **Pidonia (Pidonia) maculithorax* PIC f. *typica* カクムネヒメハナカミキリ
 坂谷 (1 ex. 27. VI. '71)
 ゴトウヅルの花上にて採集。個体数は少ない。岡山県からも記録はない。(林氏同定)。
19. *Pidonia (Pidonia) muneaka muneaka* TAMANUKI ムネアカヒメハナカミキリ
 赤西 (1 ex. 31. V. '70), 音水 (4 exs. 17. V. '70; 6 exs. 16. V. '71), 坂谷 (2 exs. 20. VI. '71)
 5月中旬より6月下旬にかけ花上にてみられる。
20. *Pidonia (Pidonia) grallatrix* (BATES) オオヒメハナカミキリ
 音水 (1 ex. 31. V. '70), 坂谷 (1 ex. 27. VI. '71)
 5月下旬より6月下旬にかけ花上に見られるも個体数は少ない。氷の山、岡山県脊梁山地にも分布す。
21. *Pidonia (Omphalodera) puziloi* (SOLSKY) フタオビチビハナカミキリ
 赤西 (1 ex. 31. V. '70), 音水 (3 exs. 26. V. '68; 2 exs. 17. V. '70; 10 exs. 16. V. '71)
 チドリノキの花、ウツギの花上に多い。

Lepturini ハナカミキリ族

22. *Anoplodera (Pseudalosterna) misella* (BATES) チャボハナカミキリ
 赤西 (2 exs. 26. VII. '70; 1 ex. 11. VII. '71; 2 exs. 25. VII. '71), 坂谷 (1 ex. 26. VII. '70)
 ノリウツギの花上にて得られる。氷の山、岡山脊梁山地の記録あり。高橋氏は音水 (1 ex. 21. VI. '59) を報告されている。
23. *Anoplodera (Anoploderomorpha) cyanea* (GEBLER) ルリハナカミキリ
 坂谷 (1 ex. 27. VI. '71)
 ゴトウヅルの花上にて採集。少ない。扇山より記録あり。岡山県ではまだ報告がない。
24. *Anoplodera (Anoploderomorpha) excavata* (BATES) ミヤマクロハナカミキリ
 赤西 (3 exs. 26. VII. '70), 坂谷 (3 exs. 26. VII. '70)
 ノリウツギの花上に見られる。氷の山、岡山県北一帯に広く分布す。
25. *Anoplodera (Kanekoa) azumensis* (MATSUSHITA et TAMANUKI) ミヤマルリハナカミキリ
 音水 (2 exs. 17. V. '70)

チドリノキの花上にて採集，個体数は少ない。畑中氏は同じく音水にて5月10日に4頭採集（カエデ花上）報告されている。岡山県では苫田郡及び臥牛山の記録あり，分布は広いが少ない模様である。

26. *Brachyleptura pyrrha* (BATES) ヒメアカハナカミキリ

坂谷 (1 ex. 25. VII. '71; 1 exs. 8. VIII. '71)

ノリウツギの花上にて見られるも少ない。氷の山，岡山県脊梁山地にも記録あり。

27. *Corymbia succedanea* (LEWIS) アカハナカミキリ

赤西 (1 ex. 26. VII. '70; 1 ex. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71; 2 exs. 8. VIII. '71), 音水 (10 exs. 17. VIII. '69), 坂谷 (8 exs. 4. VIII. '71; 9 exs. 8. VIII. '71)

7月下旬より8月上旬にかけ伐木上，ノリウツギ・シシウドの花上に普通。尚音水にて花上で本種の♀とヨツスジハナ♂と雑交しているのを見かけたが，果して受精可能か疑問である。

28. *Judolia (Pachytodes) cometes* (BATES) マルガタハナカミキリ

赤西 (2 exs. 26. VII. '70; 3 exs. 25. VII. '71; 3 exs. 4. VIII. '71; 1 ex. 8. VIII. '71), 坂谷 (3 exs. 25. VII. '71; 6 exs. 4. VIII. '71; 4 exs. 8. VIII. '71)

ノリウツギの花上に普通，兵庫県中央部より北部，岡山県北東部に分布する。

29. *Japanostrangalia dentatipennis* (PIC) ヒゲジロハナカミキリ

赤西 (1 ex. 26. VII. '70; 1 ex. 25. VII. '71), 坂谷 (1 ex. 25. VII. '71)

ノリウツギの花上に見られるも少ない。氷の山，岡山脊梁山地にも記録あり，分布は広い

30. *Eustrangalis distenoides* BATES クロスジハナカミキリ

音水 (3 exs. 17. V. '70)

チドリノキの花上にて採集。畑中氏はカエデの花上にて同年5月10日音水に1頭採集され報告されている。岡山県では脊梁山地2ヶ所よりの記録あり。

31. *Parastrangalis nymphula* (BATES) ニンフハナカミキリ

赤西 (1 ex. 21. VII. '68; 4 exs. 20. VII. '69; 2 exs. 26. VII. '70; 27 exs. 25. VII. '71), 坂谷 (4 exs. 27. VI. '71; 3 exs. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71)

ノリウツギの花上に普通に見られる。

32. *Parastrangalis lesnei* (PIC) ニョウホウハナカミキリ

赤西 (3 exs. 21. VII. '68; 1 ex. 20. VII. '69; 1 ex. 25. VII. '71)

ノリウツギの花上にて得られるも少ない。氷の山の記録があるも岡山県側にはまだ報告はない。

33. *Parastrangalis shikokensis* (MATSUSHITA) タテジマハナカミキリ

坂谷 (1 ex. 25. VII. '71)

ノリウツギの花上にて採集。扇山及び岡山県脊梁山地より記録あり，分布は広いが個体数は少ない。

34. *Leptura ochraceofasciata* (MOTSCHULSKY) ヨツスジハナカミキリ

赤西 (7 exs. 21. VII. '68; 2 exs. 18. VIII. '68; 4 exs. 20. VII. '69; 5 exs. 26. VII.

'70; 3 exs. 11. VII. '71; 11 exs. 25. VII. '71; 4 exs. 4. VIII. '71; 1 ex. 8. VIII. '71), 音水 (4 exs. 17. VIII. '69), 坂谷 (11 exs. 26. VII. '70; 2 exs. 16. VIII. '70; 6 exs. 25. VII. '71; 6 exs. 8. VIII. '71)

ノリウツギ, ミヅキ, シシウドの花上にて普通に見られる。

35. *Leptura aethiops* PODA subsp. *dimorpha* BATES ムネアカクロハナカミキリ
赤西 (1 ex. 23. VI. '68), 音水 (1 ex. 26. V. '68), 坂谷 (1 ex. 25. VII. '71)
各谷に見られるも個体数は少ない。

36. *Leptura arcuata* PANZER subsp. *tsumagurohana* OHBAYASHI ツマグロハナカミキリ
音水 (1 ex. 11. VII. '71)
伐木にて採集, 個体数は少ない。氷の山に於て subsp. *mimica* BATES の採集報告を山本氏がされている。

37. *Pedostrangalia femoralis* (MOTSCHULSKT) カタキハナカミキリ
坂谷 (1 ex. 27. VI. '71)
ゴトウヅルの花上にて採集。扇山, 臥牛山の記録あり。

38. *Nakanea vicaria* (BATES) フタスジハナカミキリ
赤西 (2exs. 26. VII. '70; 3 exs. 25. VII. '71)
ノリウツギの花上にて採集。音水 (20. VI. '59) 及び同一山塊西側の谷になる岡山県英田郡大茅 (12. VII. '64) に於て夫々一頭の採集記録あり。

39. *Macroleptura regalis* (BATES) オオヨツスジハナカミキリ
赤西 (1 ex. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71; 1 ex. 8. VIII. '71; 2 exs. 15. VIII. '71), 音水 (3 exs. 17. VIII. '69)
伐木上及び飛翔中のものを採集。

40. *Parnaspia anaspidoides* (BATES) ベニバハナカミキリ
音水に於て高橋氏が 21. VI. '59 一頭採集報告されている。

41. *Strangalia (Idiostrangalia) contracta* BATES ミヤマホソハナカミキリ
赤西 (4 exs. 21. VII. '68; 1 ex. 20. VII. '69; 3 exs. 26. VII. '70; 2 exs. 11. VII. '71; 28 exs. 25. VII. '71)
ノリウツギの花上に普通に見られる。高橋氏は音水 (1 ex. 13. VII. '58) を報告されている。

Eroschemini キヌツヤハナカミキリ族

42. *Corennys sericata* BATES キヌツヤハナカミキリ
赤西 (1 ex. 21. VII. '68)
ノリウツギの花上にて採集。氷の山にも分布するが、岡山県側からはまだ記録がない。

IV. Cerambycinae カミキリ亜科

Molorchini ヒゲナガコバネカミキリ族

43. *Molorchus (Linomius) kobotokensis* OHBAYASHI コボトケヒゲナガコバネカミキリ

畑中氏が音水に於いて昭和45年5月にカエデ、カマツカ花上にて7頭の採集報告をされている。

44. **Molorchus (Linomius) fuscipennis* HAYASHI ウスグロヒゲナガコバネカミキリ
音水 (2 exs. 17. V. '70)

チドリノキの花上にて採集。岡山県からも記録はない。

Pyrestini クスベニカミキリ族

45. *Pyrestes haematicus* PASCOE クスベニカミキリ

赤西 (1 ex. 20. VII. '69; 1 ex. 25. VII. '71), 坂谷 (1 ex. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71)

ノリウツギの花上にて採集。

Compsocerini ルリボンカミキリ族

46. *Rosalia batesi* HAROLD ルリボンカミキリ

赤西 (3 ex. 21. VII. '68; 11 exs. 18. VIII. '68; 2 exs. 26. VII. '70; 2 exs. 16. VIII. '70; 8 exs. 25. VII. '71; 3 exs. 4. VIII. '71; 6 exs. 15. VIII. '71), 音水 (4 exs. 17. VIII. '69; 1 ex. 26. VII. '70), 坂谷 (4 exs. 8. VIII. '71; 2 exs. 15. VIII. '71)

7月中旬より8月中旬にかけ広葉樹伐採木に普通に見られる。氷の山、扇山にも分布、岡山県側では少ない。

Callichromini アオカミキリ族

47. *Leontium viride* THOMSON ミドリカミキリ

赤西 (2 exs. 25. VII. '71)

ノリウツギの花上にて採集。

48. *Chloridolum (Parachloridolum) thaliodes* BATES オオアオカミキリ

赤西 (2 exs. 18. VIII. '68; 1 ex. 15. VIII. '71)

伐採木上にて採集。岡山県よりはまだ報告がない。

Callidiini スギカミキリ族

49. *Palaeocallidium (Callidielum) rufipenne* (MOTSCHULSKY) ヒメスギカミキリ

音水 (4 exs. 17. V. '70; 1 ex. 16. V. '71), 戸倉 (22 exs. 16. V. '71)

スギ伐採木に普通。

50. *Phymatodes (Poecilium) maaki* KRAATZ アカネカミキリ

坂谷 (1 ex. 31. V. '70)

道傍の草の葉上にて採集。

Clytini トラカミキリ族

51. *Xylotrechus emaciatatus* BATES ニイジマトラカミキリ

赤西 (1 ex. 21. VII. '68; 10 exs. 18. VIII. '68; 3 exs. 25. VIII. '68; 7 exs. 11. VII. '71; 4 exs. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71; 1 ex. 15. VIII. '71), 音水 (6 exs. 11. VII. '71); 坂谷 (3 exs. 16. VIII. '70; 1 ex. 4. VIII. '71; 1 ex. 8. VIII. '71; 1 ex. 15. VIII. '71)

伐木上又はノリウツギ花上にて見られ、扇山、氷の山、岡山県瘠梁山地等広範囲に分布する。

52. *Xylotrechus clarinus* BATES ツマキトラカミキリ

赤西 (1 ex. 23. VI. '68; 2 exs. 26. VII. '70), 音水 (1 ex. 27. VI. '71), 坂谷 (6 exs. 26. VII. '70; 1 ex. 16. VIII. '70; 2 exs. 11. VII. '71; 1 ex. 8. VIII. '71; 6 exs. 15. VIII. '71)

6月下旬より8月中旬にかけ伐採木に飛来する。

53. **Xylotrechus grayii* (WHITE) ムネマダラトラカミキリ

赤西にて 11. VII. '71 粗朶に止っているのを目撃した。当日赤西でお会いした平田氏が一頭採集されていた。

54. *Xylotrechus cuneipennis* (KRAATZ) ウスイロトラカミキリ

赤西 (3 exs. 21. VII. '68; 1 ex. 18. VIII. '68; 1 ex. 26. VII. '70; 4 exs. 11. VII. '71; 5 exs. 25. VII. '71; 2 exs. 4. VIII. '71; 4 exs. 15. VIII. '71), 音水 (2 exs. 11. VII. '71), 坂谷 (2 exs. 26. VII. '70; 3 exs. 16. VIII. '70; 1 ex. 11. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71; exs. 8. VIII. '71; 3 exs. 15. VIII. '71)

7月中旬より8月中旬にかけ各谷に普通にみられる。

55. *Xylotrechus rufilius* BATES クビアカトラカミキリ

赤西 (1 ex. 26. VII. '70)

伐採木にて採集、少ない。

56. *Clytus melaenus* BATES シラケトラカミキリ

赤西 (1 ex. 11. VII. '71), 坂谷 (1 ex. 26. VII. '71; 1 ex. 16. VIII. '71),

伐採木に見られ、氷の山、岡山県では各地よりの記録あり。

57. *Cyrtoclytus caproides* (BATES) キスジトラカミキリ

赤西 (2 exs. 21. VII. '68; 1 ex. 25. VII. '71), 音水 (2 exs. 11. VII. '71)

伐採木に産卵の為飛来する。

58. *Chlorophorus japonicus* (CHEVROLAT) エグリトラカミキリ

赤西 (1 ex. 21. VII. '68; 1 ex. 18. VIII. '68; 1 ex. 25. VIII. '68; 5 exs. 26. VII. '70; 4 exs. 11. VII. '71; 6 exs. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71; 1 ex. 8. VIII. '71), 音水 (1 ex. 16. V. '71; 1 ex. 11. VII. '71), 坂谷 (3 exs. 26. VII. '70; 4 exs. 16. VII. '70; 1 ex. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71; 3 exs. 8. VIII. '71) .

伐採木，花上に普通に見られる。

59. *Chlorophorus diadema* (MOTSCHULSKY) subsp. *kurotora* HAYASHI クロトラカミキリ

赤西 (1 ex. 8. VII. '71)

ノリウツギの花上にて採集，少ない。氷の山，岡山県苫田郡の記録あり。(村氏同定)。

60. *Chlorophorus muscosus* (BATES) フタオビミドリトラカミキリ

赤西 (2 exs. 21. VII. '68; 6 exs. 18. VIII. '68; 4 exs. 26. VII. '70; 3 exs. 11. VII. '71; 15 exs. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71)

伐採木，ノリウツギ花上に普通に見られる。氷の山，音水，神戸市等の記録あり。同一山塊の東・北・南側の谷に稀ならず見られるのに西側の岡山県側では未だ採集記録がない。

61. *Chlorophorus xeniscus* (BATES) ホソトラカミキリ

赤西 (2 exs. 31. V. '70; 1 ex. 26. VII. '70; 1 ex. 11. VII. '71; 29 exs. 25. VII. '71)

ノリウツギの花上に見られる。沖の山にて 14. VIII. '71 二頭採集して居り，氷の山，英田郡大茅の報告より広く分布している模様である。

62. *Chlorophorus diminutus* (BATES) ヒメクロトラカミキリ

音水 (1 ex. 17. V. '70)

チドリノキの花上にて採集。

63. *Demonax transilis* BATES トゲヒゲトラカミキリ

赤西 (3 exs. 25. VII. '71)

ノリウツギの花上にて採集。

64. *Grammographus notabilis* (PASCOE) キイロトラカミキリ

赤西 (2 exs. 27. VI. '71; 4 exs. 11. VII. '71; 1 ex. 25. VII. '71)

粗朶にて採集。氷の山，音水にも分布する。

65. *Anaglyptus matsushitai* HAYASHI マツシタトラカミキリ

赤西 (1 ex. 31. V. '70)，坂谷 (2 ex. 26. VII. '70)

花上にて採集。少ない。氷の山にも分布する。

66. *Paraclytus excultus* BATES シロトラカミキリ

赤西 (1 ex. 31. V. '70; 1 ex. 27. VI. '71)，音水 (5 exs. 17. V. '70; 3 exs. 31. V. '70; 1 ex. 16. V. '71)，坂谷 (2 exs. 20. VI. '71)

伐採木上，ゴトウヅル，チドリノキの花上に見られる。扇山，岡山県脊梁山地に広く分布する。

Cleomenini ホタルカミキリ族

67. *Dere thoracica* WHITE ホタルカミキリ

赤西 (3 exs. 31. V. '71; 1 ex. 25. VII. '71)

分布広く，普通に見かけられる。

68. *Cleomenes takiguchii* OHBAYASHI タキグチモモブトホソカミキリ
 赤西 (1 ex. 26. VII. '70; 8 exs. 25. VII. '71)
 少し木陰になった所のノリウツギの花上に見られる。畑中氏は同じく赤西にて採集 (3 exs. 18. VII. '71) 報告されている。

V. Lamiinae フトカミキリ亜科

Mesosini ゴマフカミキリ族

69. *Falsomesosella gracilior* (BATES) シロオビゴマフカミキリ
 赤西 (2 exs. 27. VI. '71)
 粗朶にて採集。
70. *Mesosa (Aphelocnemia) longipennis* BATES ナガゴマカミキリ
 赤西 (1 ex. 18. VIII. '68; 1 ex. 20. VII. 69; 3 exs. 26. VII. '70; 1 ex. 16. VIII. '70;
 6 exs. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71; 1 ex. 8. VIII. '71; 3 exs. 14. VIII. '71), 坂谷 (1 ex. 16. VIII. '70)
 伐採木に普通。
71. *Mesosa (Perimesosa) hirsuta* BATES カタシロゴマフカミキリ
 赤西 (1 ex. 8. VIII. '71)
 伐採木にて採集。

Apomecynini シラホシサビカミキリ族

72. *Asaperda rufipes* BATES キクスイモドキカミキリ
 赤西 (1 ex. 31. V. '70), 音水 (1 ex. 31. V. '70; 1 ex. 16. V. '71; 1 ex. 11. VIII. '71), 坂谷 (1 ex. 27. VI. '71)
 粗朶にて採集。

Hippopsini ドウボソカミキリ族

73. *Pseudocalamobius japonicus* (BATES) ドウボソカミキリ
 赤西 (1 ex. 27. VI. '71)
 粗朶にて採集。氷の山, 岡山脊梁山地と広く分布する。

Pteropliini サビカミキリ族

74. *Pterolophia (Pterolophia) caudata* (BATES) トガリシロオビサビカミキリ
 赤西 (1 ex. 4. VIII. '71)
 粗朶にて採集。
75. *Pterolophia (Pterolophia) leiopodina* (BATES) ヒメナガサビカミキリ
 赤西 (1 ex. 26. VII. '70; 6 exs. 27. VI. '71; 1 ex. 25. VII. '71), 音水 (1 ex. 27. VI. '71), 坂谷 (1 ex. 26. VII. '70)
 粗朶にて採集。

76. *Pterolophia (Pterolophia) zonata* (BATES) アトジロサビカミキリ
赤西 (1 ex. 18. VIII. '68; 1 ex. 27. VI. '71; 4 exs. 25. VII. '71)
粗朶にて採集.
77. *Pterolophia (Pterolophia) rigida* (BATES) アトモンサビカミキリ
赤西 (12 exs. 31. V. '70; 9 exs. 27. VI. '71; 3 exs. 11. VII. '71; 1 ex. 25. VII. '71;
3 exs. 14. VIII. '71; 1 ex. 15. VIII. '71), 音水 (1 ex. 31. V. '70), 坂谷 (1 ex. 8. VIII.
'71)
粗朶にて採集. 個体数多し.
78. *Mesosella simiola* BATES クワサビカミキリ
赤西 (2 exs. 25. VII. '68), 音水 (1 ex. 26. V. '68)
以上五種は同様の環境に棲息し, 何れも氷の山, 英田郡大茅と広く分布する.

Phrissomini ヒゲナガコブヤハズカミキリ族

79. *Parechthistatus gibber* (BATES) ヒメコブヤハズカミキリ
赤西 (1 ex. 15. VIII. '71), 音水 (1 ex. 11. VII. '71)
土場近くの地面にて採集. 個体数は少ない.

Agniini ヒゲナガカミキリ族

80. *Psacotheta hilaris* (PASCOE) キボシカミキリ
坂谷 (1 ex. 11. VII. '71)
扇山, 氷の山にも分布, 平地から山地にかけて分布範囲は広い.
81. *Xenicotela pardalina* (BATES) チャボヒゲナガカミキリ
赤西 (1 ex. 25. VII. '71)
粗朶より採集. 扇山, 岡山脊梁山地に分布する.
82. *Monochamus subfasciatus* (BATES) subsp. *subfasciatus* (BATES) ヒメヒゲナガ
カミキリ
赤西 (1 ex. 21. VII. '68; 2 exs. 18. VIII. '68; 1 ex. 25. VIII. '68; 1 ex. 27. VI. '71;
3 exs. 25. VII. '71; 2 exs. 4. VIII. '71; 1 ex. 8. VIII. '71; 3 exs. 15. VIII. '71), 音水 (1
ex. 27. VI. '71; 3 exs. 11. VII. '71), 坂谷 (1 ex. 16. VIII. '70; 1 ex. 27. VI. '71; 1 ex.
15. VIII. '71).
伐採木, 粗朶に普通. 扇山, 氷の山, 英田郡と広範囲に分布する.
83. *Acalolepta luxuriosa* (BATES) センノカミキリ
赤西 (2 exs. 4. VIII. '71), 坂谷 (1 ex. 16. VIII. '70)
伐採木にて採集. 扇山にも分布する.
84. *Acalolepta fraudatorix* (BATES) ビロウドカミキリ
赤西 (1 ex. 18. VIII. '68; 1 ex. 25. VIII. '68; 3 exs. 25. VII. '71; 1 ex. 15. VIII. '71),
音水 (1 ex. 27. VI. '71)
伐採木にて採集. 扇山, 氷の山にも分布する.

85. **Acalolepta olivacea* (BREUNING) ウグイスビロウドカミキリ
坂谷 (1 ex. 16. VIII. '70)
伐採木にて採集。(林氏同定).

Ancylontini ヒゲナガゴマフカミキリ族

86. *Palimna liturata* (BATES) ヒゲナガゴマフカミキリ
赤西 (6 exs. 25. VIII. '68; 4 exs. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71), 坂谷 (3 exs. 26. VII. '70; 4 exs. 16. VIII. '70; 2 exs. 4. VIII. '71; 2 exs. 8. VIII. '71; 11 exs. 15. VIII. '71)
7月下旬より8月下旬にかけて伐採木に普通に見られる。扇山, 英田郡後山にも分布する。

Rhodopinini コブヒゲカミキリ族

87. *Rhopaloscelis unifasciatus* BLESSIG ヒトオビアラゲカミキリ
赤西 (2 exs. 31. V. '70), 坂谷 (1 ex. 27. VI. '71)
粗朶にて採集。扇山, 英田郡大茅の記録あり, この山塊に広く分布している模様。
88. *Miccolamia (Miccolamia) cleroides* BATES カッコウカミキリ
音水 (1 ex. 17. V. '70)
チドリノキの花上にて採集。
89. *Sybrodiboma subfasciata* (BATES) シロオビチビカミキリ
赤西 (1 ex. 27. VI. '71; 1 ex. 25. VII. '71), 音水 (1 ex. 17. VIII. '69; 1 ex. 11. VII. '71), 坂谷 (1 ex. 27. VI. '71)
粗朶にて得られる。扇山にも分布する。

Acanthocinini モモブトカミキリ族

90. *Eryssamena saperdina* BATES トゲバカミキリ
赤西 (1 ex. 8. VIII. '71; 1 ex. 15. VIII. '71), 坂谷 (1 ex. 11. VII. '71; 2 exs. 15. VIII. '71)
粗朶にて採集。高橋氏は音水 (1 ex. 13. VII. '58) の採集を報告されている。
91. *Leiopus stillatus* (BATES) ゴマダラモモブトカミキリ
坂谷 (1 ex. 26. VII. '70)
粗朶にて採集, 少ない。扇山にも分布する。
92. *Exocentrus (Exocentrus) galloisi* MATSUSHITA ガロアケンカミキリ
坂谷 (2 exs. 11. VII. '71)
粗朶にて採集。氷の山, 英田郡にも分布する。

Saperdini トホシカミキリ族

93. *Saperda tetrastigma* BATES ムネモンヤツボシカミキリ
音水 (1 ex. 31. V. '70)

伐採木にて採集，少ない。氷の山にも分布する。

94. *Menesia sulphurata* (GEBLER) キモンカミキリ
赤西 (3 exs. 20. VII. '69)
叩網にて採集，氷の山，岡山脊梁山地に分布する。
95. **Menesia flavotecta* HEYDEN オニグルミノキモンカミキリ
赤西 (1 ex. 18. VIII. '68)
溪流の石の上に止っていたのを採集。
96. *Pareutetrappa simulans* (BATES) ニセンラホンカミキリ
坂谷 (1 ex. 4. VIII. '71)
伐採木にて採集，扇山，氷の山，岡山県脊梁山地に広く分布する。
97. **Paramenesia kasugensis* (SEKI et KOBAYASHI) カスガキモンカミキリ
赤西 (1 ex. 25. VII. '71)，音水 (1 ex. 17. VIII. '69)
伐採木より採集。
98. *Paraglenea fortunei* SAUNDERS ラミーカミキリ
赤西 (1 ex. 25. VIII. '68; 2 exs. 15. VIII. '71)
飛翔中及び草上にて採集。
99. *Eutetrappa chrysochloris* BATES ハンノアオカミキリ
赤西 (1 ex. 23. VI. '68; 6 exs. 18. VIII. '68; 2 exs. VII. '70; 1 ex. 15. VIII. '71)，音水 (1 ex. 11. VII. '71)
伐採木にて採集，扇山，氷の山，岡山脊梁山地にかけ広く分布する。
100. *Glenea (Glenea) relictata* PASCOE シラホンカミキリ
赤西 (1 ex. 26. VII. '70; 1 ex. 11. VII. '71; 1 ex. 25. VII. '71; 2 exs. 4. VIII. '71; 1 ex. 15. VIII. '71)，音水 (4 exs. 27. VI. '71; 1 ex. 11. VII. '71)，坂谷 (1 ex. 26. VII. '70; 1 ex. 27. VI. '71)
伐採木に普通に見られる。扇山，氷の山，主として岡山県北に広く分布する。
101. *Nupserha marginella* (BATES) ヘリグロリンゴカミキリ
赤西 (1 ex. 18. VIII. '68; 1 ex. 11. VIII. '71; 1 ex. 25. VII. '71; 1 ex. 4. VIII. '71; 4 exs. 8. VIII. '71)
下草のある樹間をよく飛翔して居り，扇山，氷の山，音水等広く分布する。
102. *Oberea nigriventris* BATES ホソツツリンゴカミキリ
坂西 (1 ex. 11. VII. '71)
ノリウツギ花上を雨の中で飛翔中のを採集。扇山，氷の山，英田郡後山と広く分布するも個体数は少ない。
103. *Oberea hebescens* BATES ヒメリンゴカミキリ
高橋氏が音水に於て採集 (1 ex. 21. V. '59)，報告されている。扇山，氷の山，岡山県脊梁山地等広く分布する。

104. *Oberea inclusa* PASCOE subsp. *infranigrescens* BREUNING ホソキリンゴカミ
キリ
赤西 (1 ex. 11. VII. '71)
飛翔中を採集. 扇山, 氷の山, 岡山県各地に広く分布する.
105. *Epiglenea comes* BATES ヨツキボンカミキリ
赤西 (8 exs. 27. VI. '71; 1 ex. 25. VII. '71), 音水 (2 exs. 31. V. '70)
伐採木に普通. 氷の山, 岡山県 (主として北部) に広く分布する.
106. *Eumecocera trivittata* (BREUNING) セミスジニセリンゴカミキリ
坂谷 (1 ex. 4. VIII. '71)
伐採木にて小野氏採集. 扇山, 岡山県天銀山の記録あり. (林氏同定).

結 語

過去4年間5月より8月にかけて寒霞溪2回, 赤西16回, 音水8回, 坂谷11回の採集により得られたカミキリムシ102種に文献より4種を加えて報告した. それ等は扇山, 氷の山, 岡山脊梁山地に分布するものと殆んど共通している事は云うまでもない. しかし兵庫, 岡山県産カミキリムシの約半数の種類がこの狭い地域に見られ, その中に兵庫県未記録7種, 岡山県より記録のないもの9種, 両県に共通して報告のないもの4種, しかも本州未記録種を1種含んでいる事は天牛相の豊富性と特異性を物語るものである. 従って該国有林が急速な開発の途上にあるとはいえ, 未だ多くの可能性を秘めて居り今後の研究成果が待たれるのである.

主要参考文献

- 1) 青野孝昭・宇野弘之・重井 博・脇本 浩 (1970), 岡山県のカミキリムシ. ずずむし. 19 (1, 2): 1~42.
- 2) 紅谷進二編 (1966), 兵庫の自然. 六月社刊 209pp.
- 3) 畑中 熙 (1971), 兵庫県音水にてコボトケヒゲナガカミキリ採集. 昆虫と自然. 6 (3): 7~8.
- 4) 畑中 熙 (1871), タキグチモモブトホソカミキリの兵庫県での採集例. むし. No. 8 : 35.
- 5) 岩田久二雄・奥谷禎一・永富 昭・中根猛彦 (1953), 氷の山の昆虫. 兵庫生物. 2 (3): 121~125.
- 6) 小島圭三・林 匡夫 (1969), 原色日本昆虫生態図鑑 I カミキリ編 295pp.
- 7) 奥谷禎一 (1955), 但馬 (兵庫県北部) の好採集地. 新昆虫. 8 (5): 16~20.
- 8) 多田泊二・辻 啓介 扇の山のカミキリムシについて. 兵庫農科大学生物研究部々誌. (1960), No. 1: 23~27, (1961) No. 2: 56~61.
- 9) 高橋寿郎 兵庫県のカミキリ類 (第1報). 兵庫生物. (1961) 2 (4): 88~96; 同 (第

- 2報). 兵庫生物, (1964) 4(5): 248~254.
 10) 高橋寿郎(1966) 氷の山の甲虫相・兵庫生物, 5(2): 161~164.
 11) 辻 啓介(1968) 兵庫県における甲虫の分布(第1報). 兵庫生物, 5(5): 402~404,
 401.
 12) 辻 啓介(1971), 兵庫県氷の山のカミキリ, むし, No. 8: 36.

オキナワシリアゲコバチを県下で記録

近 藤 光 宏

(倉敷市中央2丁目16-14)

筆者は, 1970, 9, 27 岡山県川上郡備中町の磐窟溪で, 道端の草花に飛来していた本種 *Leucospis okinawensis* MATSUMURA オキナワシリアゲコバチ 1♀を採集することができた。

本邦からは, Leucospidae シリアゲコバチ科としては, 2種類産するのみである。

そのうち *L. japonica* WALKER シリアゲコバチについては, すでにいくつかの記録があり, 本誌上にも報告されているが, 本種についての記録は見あたらない。

両種とも, 科名のとおり極めて特異な形態をしているが, 本種の場合産卵管は短かくて胸に達せず, また翅端に暗帯があり, さらに腹節の黄色の斑紋も異っているので, 同定は比較的容易であり, 本種にまちがいないと思われる。

なお, 寄主については, (以下日本昆虫記より引用) *L. japonica* が, オオハキリバチ, バラハキリバチ, ツノハキリバチ, シロオビツツハナバチなどである。一方本種は, キリギリス狩りのコクロアナバチに寄生することが知られている。しかし県下での観察記録はない。



Leucospis okinawensis MATSUMURA
 オキナワシリアゲコバチ ♀

参 考 文 献

- 近藤 光宏: ずすむし, Vol. 11, No. 1.
 竹内 吉蔵: 原色日本昆虫図鑑下.
 安松 京三・朝日奈正二郎・石原 保: 原色昆虫大図鑑第3巻.
 山本大二郎: 日本昆虫記Ⅲ. p. 76~78.

岡山県のカミキリムシ (追録)

平 田 信 夫

岡山市清水20-1 (701-31)

岡山県のカミキリムシの分布状況は青野孝昭・宇野弘之・重井 博・脇本 浩の四氏によって本誌第19巻・1, 2号に“岡山県のカミキリムシ”(以下初報と言う)の標題で発表されていることはご承知のとおりです。本県は生物学的にはとりあげて特色のある地域とも思われませんが、その中で200種を越える記録をされたことは目録としてはほとんど完璧と思われれます。卓抜した採集技術のうえに細心の注意をもって資料を集め、報告をまとめあげられた四氏の努力には心から敬服するとともに、その業績に対しては最高の讃辞をおくる次第です。私も微力ながらカミキリムシの採集を続けていますが今まで発表を控えていたのは何も慎重を期し完璧をねらっていたからではありません。たったひとりの、限られた時期、限られた地域での採集結果から県全体の分布を論ずることがいかに無暴であるかをよく承知していたからであり、ほとんど県南地域だけの資料から県全体の分布を推論することが大きな誤りを起すことを恐れたからです。分布調査という大事業はとても個人の力ではやり遂げられるものではありません。新進気鋭でその道に情熱を傾けた人々が互に協同して行なうということが、どれほど重要な意味をもつものであるかということを示された点でもこの報文の価値は極めて高いものであると考えます。今後この道に進まれる若い人々も多いことと思いますが、この報告を柱にして、大いに努力をはらい、どんどん新しい知見を得てこれにつけ加えてゆき、より一層充実したものを作り上げるために協力されることを切にお願いするものです。まずその手始めとして、私の今までに得た採集資料のうちから、初報に記載されていないものをつけ加えさせていただきたいと思います。このような理由から私の報告の標題も四氏の初報と同じ“岡山県のカミキリムシ”とさせていただきます。青野・宇野・重井・脇本の諸賢には私の意のあるところをお察しください、同じ題名を使ったことをお許しいただきたいと存じます。

本追録の記載にあたって留意した点をつぎに列記しておきます。

- (1) 分類・学名・種名は初報と同じ小島圭三・林匡夫著原色日本昆虫生態図鑑Ⅰカミキリ編に拠りました。
- (2) 採集地名も初報と同じ基準で郡市単位にしました。
- (3) 整理番号は、亜科は初報と同じ番号を用い、種は初報で211種の記載がありますのでこれに引き続く212番からとしました。

[すずむし, 第108号, 79~85頁, 1972年6月]

岡山県産カミキリムシ目録 (追録)

III *Lepturinae* ハナカミキリ亜科*Lepturini* ハナカミキリ族

- 212 *Parastrangalis lesnei* PIC ニヨウホウハナカミキリ
英田郡一西粟倉村・永昌山 (July 28, '69, 1♂ ノリウツギ花上)
- 213 *Mimostrangalia dulcis* BATES ジャコウホソハナカミキリ
阿哲郡一神郷町・新在家 (May 17, '64, 1♂ カマツカ花上 f. *kinoshitai* KANO に該当する)

Eroschemini キヌツヤハナカミキリ族

- 214 *Corennys sericata* BATES キヌツヤハナカミキリ
苫田郡一奥津町 (July 6, '69, 1♂ シヨウマ?花上)

VI *Cerambycinae* カミキリ亜科*Molorchini* ヒゲナガコバネカミキリ族

- 215 *Molorchus (Linomius) kobotokensis* OHBAYASHI コボトケヒゲナガコバネカミキリ
高梁市一玉川 (Apr. 30, '62, 1♂; Apr. 29, '67, 1♀ カエデ花上); 新見市一シラゲ畑 (May 6, '62, 3♂ 2♀ カエデ花上); 阿哲郡一神郷町・釜谷 (May 3, '68, 1♀ コクサギ花上); 川上郡一備中町・西油野 (Apr. 26, '70, 3♀ ナシ花上) 以上いずれも林匡夫博士同定
- 216 *Molorchus (Linomius) fuscipennis* HAYASHI ウスグロヒゲナガコバネカミキリ
新見市一シラゲ畑 (May 6, '62, 1♂ カエデ花上); 高梁市一臥牛山 (May 5, '66, 1♂ カエデ花上); 川上郡一備中町・西油野 (Apr. 26, '70 1♂ 1♀ ナシ花上) 以上いずれも林匡夫博士同定

VII *Lamiinae* フトカミキリ亜科*Apomecynini* シラホシサビカミキリ族

- 217 *Asaperda agapanthina* BATES シナノクロフカミキリ
苫田郡一加茂町・倉見 (June 30, '68, 1♂ ホウノキ枯枝) 奥津町 (July 6, '69, 1♀); 英田郡一西粟倉村・若杉峠 (July 28, '69, 1♂ 枯枝より落下)
- 218 *Xylariopsis mimica* BATES クビシロカミキリ
高梁市一臥牛山 (June 17, '56, 2♂ ツルウメモドキ新芽後食); 川上郡一成羽町・上光谷 (June 30, '57, 1♀ フジ新芽後食); 吉備郡一昭和町・高滝山 (June 2, '63, 1♂ クズ枯蔓上)

Hippopsini ドウボソカミキリ族

- 219 *Aulaconotus pachypezoides* THOMSON タテジマカミキリ

苫田郡一上斎原村・三が上山 (July 12, '54, 3♂ コシアブラ後食)

Pteropliini サビカミキリ族

- 220 *Pterolophia castaneivora* OHBAYASHI et HAYASHI クリサビカミキリ
真庭郡一中和村・植杉 (July 24, '55, 1♂ 1♀ 枯枝), 八束村・上蒜山 (July 25, '55, 1♂ 粗朶); 苫田郡一阿波村 (July 14, '68, 1♀ ミズナラ伐枯枝) いずれも林匡夫博士同定

Agniini ヒゲナガカミキリ族

- 221 *Acalolepta olivacea* BREUNING ウグイスビロウドカミキリ
吉備郡一昭和町・高滝山 (May 31, '64, 1♂ 枯枝) 林匡夫博士同定

Rhodopinini コブヒゲカミキリ族

- 222 *Rhodopina integripennis* BATES マルバネコブヒゲカミキリ
勝田郡一奈義町・那岐山 (July 28, '71, 1♂ ミズナラ立枯木)
- 223 *Clytosemia pulchra* BATES ジュウジクロカミキリ
新見市一法曹 (June 23, '63, 1♂ 枯枝)
- 224 *Sophronica obrioides* BATES イボタサビカミキリ
高梁市一臥牛山 (June 22, '69, 1♂ 種名不詳の草葉上)

Pogonocherini ネジロカミキリ族

- 225 *Pogonocherus fasciculatus* DE GEER ヒメシラオビカミキリ
川上郡一備中町・平川 (Apr. 18, '71, 1♀ 枯枝)

Acanthocinini モモブトカミキリ族

- 226 *Eryssamena sapporensis* MATSUSHITA ホソモモブトカミキリ
高梁市一広瀬 (July 2, '61, 2♀ ホウノキ枯枝 林匡夫博士同定); 苫田郡一阿波村 (July 14, '68, 1♀ ホウノキ枯枝)
- 227 *Miaenia fujiyamai* MATSUMURA et MATSUSHITA フジヤマチビカミキリ
真庭郡一八束村・上蒜山 (July 25, '55, 1♂ 粗朶); 岡山市一門田 (June 6, 16, 30, July 6, '62, 合計 4♂ 3♀; July 5, '63, 1♂ いずれもイヌビワ枯枝)

Saperdini トホシカミキリ族

- 228 *Nipponostenostola pterocaryai* HAYASHI コジマベニスジカミキリ
苫田郡一奥津町・羽出 (June 7, '70, 1♀ アヅキナン花上) 前胸背板の赤褐色斑紋はやや淡色で *N. nipponensis* PIC チチブニセリンゴカミキリの一型と考えられる点もあるが、上翅側縁と会合線には黄褐色軟毛による斑紋が明りょうに認められるため一応上記の種にした。しかし更に再検討を必要とする。

以上17種を加えて現在のところ岡山県のカミキリムシは228種ということになります。

さらに初報で記録されている種のうち、資料が少くて分布の状況がはっきりしないもの及び一応分布範囲は推定されているがその範囲を再考した方がよいと思われるものについて

て、私の採集資料を提供して参考にしたいと思います。後者については初報で示されている範囲からはずれているものだけをあげ、範囲内に含まれるものは省略しました。種の番号は初報と同番号を使い、記載のし方も大体初報と同じにしましたが冗長をさけて採集地は町村名にとどめ、採集頭数・性別は省きました。

岡山県産カミキリムシ目録 (分布資料追加)

I *Prioninae* ノコギリカミキリ亜科

3. *Prionus sejunctus* HAYASHI ニセノコギリカミキリ
 苫田郡一加茂町 (Aug. 9, '57); 勝田郡一勝北町 (Aug. 18, '68); 奈義町 (Aug. 31, '69); 英田郡一西粟倉村 (Aug. 25, '68 夜間灯火に飛来)

III *Lepturinae* ハナカミキリ亜科

6. *Encyclops olivacea* BATES テツイロハナカミキリ
 苫田郡一加茂町 (June 5, '65, カエデ花上), 鏡野町 (June 6, '65, オオカマツカ花上), 奥津町 (June 7, '70, アヅキナシ花上); 勝田郡一奈義町 (June 21, '70, サワフタギ花上)
9. *Evodinus (s. str.) bifasciatus subsp. japonicus* MATSUSHITA フタスジカタビロハナカミキリ
 真庭郡一新庄村・毛無山 (May 21 '68)
13. *Lemula rufithorax* PIC の *ab. nigroguttata* HAYASHI ビックニセハムシハナカミキリ
 阿哲郡一神郷町 (May 14, '67; May. 10, '70); 真庭郡一新庄村 (May 13, '68), 湯原町 (May 4, '69); 苫田郡一奥津町 (May 18, '69)
16. *Pidonia (s. str.) yamato* HAYASHI et MIZUNO ヤマトヒメハナカミキリ
 阿哲郡一神郷町 (May 3, '64 守屋雅之採集); 川上郡一備中町 (May 30, '71)
34. *Judolia (s. str.) japonica* TAMANUKI ヤマトキモンハナカミキリ
 苫田郡一上斎原村 (July 12, '54; July 7, '68), 加茂町 (June 30, '68), 阿波村 (July 14, '68)
35. *Judolia (Pachytodes) cometes* BATES マルガタハナカミキリ
 川上郡一成羽町 (June 30, '57); 新見市一天銀山 (July 10, '66)
ab. multimaculata TAMANUKI
 英田郡一西粟倉村 (July 28, '69)
37. *Eustrangalis distenoides* BATES クロスジハナカミキリ
 苫田郡一鏡野町・越畑 (May 23, '65), 奥津町・羽出 (May 18, '69); 真庭郡一湯原町 (May 4 '69)
40. *Parastrangalis shikokensis* MATSUSHITA タテジマハナカミキリ
 川上郡一成羽町 (June 30, '57); 苫田郡一上斎原村 (July 7, '68), 英田郡一西粟倉

村 (July 28, '69)

46. *Nakanea vicaria* BATES フタスジハナカミキリ
真庭郡一中和村 (July 22, '55 リョウブ花上)
50. *Strangalia (Leptostrangalia) hosohana* OHBAYASHI ホソハナカミキリ
阿哲郡一神郷町 (May 17, '64); 勝田郡一奈義町 (June 21, '70); 川上郡一備中町
(May 30, '71)

V *Aseminae* マルクビカミキリ亜科

54. *Arhopalus rusticus* LINNE ムナクボカミキリ
真庭郡一八束村 (June 24, '55 夜間アカマツ伐木上)
55. *Cephalallus unicolor* GAHAN ツシマムナクボカミキリ
苦田郡一上齋原村 (Aug. 9, '70) 人形峠 レストハウスのテラス上で多数の走光性の
昆虫類の中から採集, 恐らく前夜から当日日出前までに灯火に飛来したものと思う。

VI *Cerambycinae* カミキリ亜科

66. *Stenomalus takaosanus* OHBAYASHI タカオメダカカミキリ
苦田郡一鏡野町 (May 13, '62 カエデ花上)
70. *Molorchus (Linomius) gracilis* HAYASHI オダヒゲナガゴバナカミキリ
岡山市 (吉備郡)一足守町・黒谷 (Apr. 24, '66 カエデ花上)
81. *Phymatodes (Poecilium) maaki* KRAATZ アカネカミキリ
川上郡一成羽町 (May 26, '57); 苦田郡一奥津町 (May 31, '70)
84. *Xylotrechus lautus* MATSUSHITA ズマルトラカミキリ
英田郡一美作町 (May 21, '67 クリ枯枝上)
87. *Xylotrechus grayii* WHITE ムネマダラトラカミキリ
吉備郡一昭和町 (June 2, '63); 苦田郡一加茂町 (June 5, '65; June 30, '68)
89. *Xylotrechus rufilius* BATES クビアカトラカミキリ
苦田郡一加茂町 (June 30, '68), 奥津町 (July 7, '68), 新見市一法曹 (July 19,
'70)
90. *Xylotrechus pyrrhoderus* BATES ブドウトラカミキリ
勝田郡一勝北町 (Aug. 18, '68), 奈義町 (Sept. 15, '70)
103. *Chlorophorus quinquefasciatus* CASTELNAU et GORY ヨツスジトラカミキリ
岡山市一後楽園 (Aug. 2, 5, '49), 門田 (July 15, '55), 国富 (July 16, '64 黒田正
規採集); 勝田郡一奈義町 (Aug. 6, '55)
106. *Anaglyptus bellus* MATSUMURA et MATSUSHITA アカジマトラカミキリ
川上郡一川上町・穴門山神社 (Sept. 7, '69); 勝田郡一奈義町 (Sept. 15, '70)

VII *Lamiinae* フトカミキリ亜科

121. *Microlera ptinoides* BATES ヒシカミキリ
御津郡一加茂川町 (May 25, '58); 岡山市一滝の口山 (May 28, '67); 英田郡一英

田町 (June 2, '68)

123. *Atimura japonica* BATES コブスジサビカミキリ
久米郡一旭町 (May 10, '53); 御津郡一加茂川町 (May 30, '65); 勝田郡一奈義町
(June 24, '62)
128. *Cleptometopus bimaculatus* BATES ハスオビヒゲナガカミキリ
真庭郡一中和村 (July 22, '55 伐木枯枝)
129. *Niphona furcata* BATES ハイイロヤハズカミキリ
苫田郡一鏡野町 (May 12, '62 粗朶)
133. *Pterolophia japonica* BREUNING エゾサビカミキリ
吉備郡一昭和町 (June 2, '63)
140. *Parechthistatus gibber* BATES ヒメコブヤハズカミキリ
川上郡一成羽町 (June 30, '57); 赤磐郡一吉井町 (June 12, '55)
145. *Xenicotela pardalina* BATES チャボヒゲナガカミキリ
高梁市一広瀬 (July 2, '61); 吉備郡一昭和町 (June 2, 9, '63)
150. *Dolichoprosopus yokoyamai* GRESSITT ヨコヤマヒゲナガカミキリ
苫田郡一奥津町・羽出 (Aug. 3, '69 プナ伐木に飛来)
153. *Acalolepta sejuncta* BATES ニセビロウドカミキリ
児島郡一灘崎町 (June 26, '55); 真庭郡一中和村 (July 22, '55); 新見市一法曹 (Jun
30, '63; July 19, '70); 英田郡一西粟倉村 (Aug. 25, '68); 苫田郡一奥津町 (Aug.
9, '69); 勝田郡一奈義町 (July 23, '70; Sept. 15, '70)
156. *Palimna liturata* BATES ヒゲナガゴマフカミキリ
川上郡一川上町 (Sept. 6, '70)
165. *Doius divaricatus* BATES ドイカミキリ
御津郡一加茂川町 (June 10, '56; May 30, '65)
167. *Rhopaloscelis bifasciatus* KRAATZ フタオビアラゲカミキリ
川上郡一成羽町 (June 30, '57); 吉備郡一昭和町 (June 9, '63; June 12, '66); 高
梁市一臥牛山 (July 3, '66)
168. *Rhopaloscelis maculatus* BATES フタモンアラゲカミキリ
御津郡一加茂川町 (July 3, '55)
189. *Pareutetrappa eximia* BATES フチグロヤツボシカミキリ
苫田郡一奥津町 (July 7, '68 ダンコウバイ葉上; July 6, '69 ホウノキ葉上)
191. *Paramenesia kasugensis* SEKI et KOBAYASHI カスガキモンカミキリ
真庭郡一中和村 (July 24, '55); 勝田郡一奈義町 (Aug. 7, '55)
201. *Oberea sobosana* OHBAYASHI ソボリンゴカミキリ
高梁市一臥牛山 (June 9, '70)
205. *Eumecocera trivittata* BREUNING セミスジニセリンゴカミキリ
苫田郡一上斎原村 (July 11, '54); 勝田郡一奈義町 (June 24, '62), 阿哲郡一神郷町
(May 3, '68 ミツデカエデ花上)

206. *Eumecocera unicolor* KANO クロニセリンゴカミキリ
勝田郡一奈義町 (June 21, '70 ヤブデマリ花上)
207. *Eumecocera anomala* BATES シラホシキクスイカミキリ
苦田郡一加茂町 (June 13, '69 交尾中のものでは原型, ♀は *f. ohbayashii* BREUNING)

以上初報に記載されている種のうちの41種について私の採集資料をつけ加えさせていただきました。分布範囲は初報とあわせ考えて読者諸賢でご推察いただければ幸いです。

(1971年11月)

那須敏氏採集による福島県湯の花および 南アルプスの Symphyta 広腰亜目

近 藤 光 宏

(倉敷市中央2丁目16-14)

このほど、本会の若手のホープ那須敏氏より、標記二地点で記録された広腰亜目 Symphyta をそっくり提供していただいたので整理してみた。

本科のものは、よほど注意して採集しないと得られないものが多い。しかし、いつもかなりの成果を上げておられ、中には、しばしば稀なものも含まれており、平素の活躍には敬意を表する次第である。

SIRICIDAE キバチ科

1. *Urocerus antennatus* (MARLATT, 1898) ヒゲジロキバチ
1♀, 19. VI. 1971, 福島県湯の花; 2♀, 27. VII. 1971, 南アルプス二軒小屋.
2. *Urocerus japonicus* (SMITH, 1874) ニホンキバチ
1♀, 29. VII. 1971, 南アルプス保利沢小屋.

XIPHYDRIIDAE クビナガキバチ科

1. *Xiphydria camelus* LINNAEUS クビナガキバチ
2♂, 20. VI. 1971, 福島県湯の花; 1♀, 21. VI. 1971, 福島県湯の花, 頭頂部の白紋に変化; 1♀, 22. VI. 1971, 福島県湯の花; 3♀, 23. VI. 1971, 福島県湯の花, チップ工場ブナ材にて; 4♀, 1♂, 26. VI. 1971, 福島県湯の花
2. *Xiphydria palaeanarctica* SEMENOV, 1921 ヒゲジロクビナガキバチ
2♀, 20. VI. 1971, 福島県湯の花.
3. *Euxiphydria ruficeps* MOCSÁRY アカズクビナガキバチ
1♀, 27. VI. 1971, 福島県湯の花.

TENTHREDINIDAE ハバチ科

1. *Dolerus ephippiatus* SMITH, 1874 オオムネアカハバチ

- 1♀, 19. VI. 1971, 福島県湯の花.
2. *Corymbas nipponica* TAKEUCHI, 1936 フトコンジロハバチ
1♀, 27. VII. 1971, 南アルプス二軒小屋.
3. *Siobla metallica* TAKEUCHI ルリコンシアカハバチ
1♂, 26. VI. 1971, 福島県湯の花.
4. *Siobla ferox* (SMITH, 1874) オオコンシアカハバチ
1♀, 24. VI. 1971, 福島県湯の花.
5. *Aglaostigma occipitosa* MALAISE ハラアカアシナガハバチ
2♀, 20. VI. 1971, 福島県湯の花.
6. *Aglaostigma neburosa* ANDRÉ ウンモンアシナガハバチ
1♀, 22. VI. 1971, 福島県湯の花.
7. *Tenthredo analis* (ANDRÉ, 1881) マエグロコンボソハバチ
1♀, 19. VI. 1971, 福島県湯の花; 1♀, 20. VI. 1971, 福島県湯の花.
8. *Tenthredo versuta* MOCSÁRY ハコネハバチ
1♀, 27. VII. 1971, 南アルプス 二軒小屋.

CIMBICIDAE コンボウハバチ科

1. *Orientabia japonica* (CAMERON, 1886) ルリコンボウハバチ
1♀, 20. VI. 1971, 福島県湯の花.

以上のようにキバチ科2種, クビナガキバチ科3種, ハバチ科8種, コンボウハバチ科1種, 計14種で他にハバチ亜科の1種? とみられるもの2種を認め得た.

なお, これらの標本は, 現在筆者が所持しているが, 展翅したうえで, 倉敷昆虫館へ移し所蔵する予定である.

—おとしぶみ—

オオムラサキとゴマダラチョウの自然交雑例

1971年8月1日, 那須, 山地の両君と臥牛山へ出掛けた際に, オオムラサキ♂とゴマダラチョウ♀との交尾を目撃した. 場所は山頂の路上で, とっさの事に処置を考えるうちに目の前の地面を2度, 3度跳ねて, 別々に飛びたった. 幸い, オオムラサキ♂は那須君がネットし, 筆者が現在保管しています. 自然状態では非常に珍しい例だと思われるので, 3名の目撃の証拠をそえて報告します. (横田正義)

臥牛山でヒゲナガモモブトカミキリを採集

1971年8月1日, 臥牛山山頂付近のモミの樹幹に飛来した本種1個体を採集しました. すずむし, Vol. 19, No. 1, 2「岡山県のカミキリムシ」によると, 臥牛山での記録はないので一応報告しておきます. (横田正義)

岡山県のカミキリ新記録・新分布地

三宅宗夫

(倉敷市連島町西之浦5820)

岡山県のカミキリムシは、既に青野孝昭・宇野弘之・重井博・脇本浩、各氏による懇切なる御努力により分布整理が行われ、岡山県のカミキリムシの分布の既要が判明してきましたが、既に筆者は1965年から1971年にかけて採集したカミキリムシの中に、岡山県のカミキリムシの分布に参考になればと思うものを採集してますので、ここに報告しておきたいと思います。

なお、同定、御教示下さった青野先生をはじめ同好会の方々に御礼申し上げます。
新記録については、学名の前に*を付した。

目 録

- 1) *Encyclops olivacea* BATES テツイロハナカミキリ
1 ex., 14. VI. 1961, 西粟倉村若杉峠
- 2) *Gaurotes (Carilia) atripennis* MATSUSHITA クビアカドウガネカミキリ
1 ex., 24. IV. 1965, 倉敷市柳井原, モミジ花上より
- 3) *Pyrrhona laelicolor* BATES ヘリウスハナカミキリ
1 ex., 8. VI. 1969, 新庄村田浪; 1 ex., 14. VI. 1971, 西粟倉村若杉峠
- 4) *Anoplodera (Kanekoa) azumensis* (MATSUSHITA et TAMANUKI) ミヤマルリハナカミキリ
1 ex., 14. V. 1970, 神郷町下神代
- 5) *Plagionotus christophi* (KRAATZ) クリストフコトラカミキリ
14. exs., 15. V. 1969, 新見市長屋; 3 exs., 18. V. 1969, 新見市長屋; 1 ex., 16. VI. 1969, 新庄村土用; 1 ex., 13. VI. 1969, 新見市長屋; 新見市長屋では貯木場で採集する。
- 6) *Epiclytus yokoyamai* (KANO) ヨコヤマトラカミキリ
1 ex., 18. V. 1969, 新庄村田浪 カエデ花上より
- 7) *Monochamus saltuarius* (GEBLER) カラフトヒゲナガカミキリ
1 ex., 25. V. 1969, 新見市長屋
貯木場のアカマツ上より採集する。
- 8) *Glenea (Glenea) centroguttata* FARMAIRE イツシキモンカミキリ
1 ex., 6. VII. 1969, 新見市長屋 貯木場にて採集する。
- 9) *Saperda tetrastigma* BATES ムネモンヤツボシカミキリ
1 ex., 16. VI. 1968, 新見市花見; 1 ex., 23. VI. 1968, 新庄村土用。
- 10) **Pogonocherus fasciculatus* DEGEER ヒメシラオビカミキリ
1 ex., 6. I. 1965, 倉敷市連島町弁才天; 1 ex., 20. I. 1965, 倉敷市連島町矢柄。

- 11) **Asaperda agapanthina* BATES シナノクロフカミキリ
1 ex., 8. VI. 1969, 新庄村毛無山 たたき網にて
- 12) *Eumecocera anomala* BATES シラホシキクスイカミキリ
1 ex., 16. VI. 1969, 新庄村土用; 1 ex., 28. VI. 1969, 新庄村土用.
- 13) *Eumecocera trivittata* BREUNING セミスジニセリソゴカミキリ
1 ex., 16. VI. 1969. 新見市長屋
- 14) **Eumecocera argyrosticta* BATES ヒゲナガシラホシカミキリ
1 ex., 9. VII. 1971, 西粟倉村若杉峠
- 15) *Eumecocera unicolor* KANO クロニセリソゴカミキリ
6 exs., 8. VI. 1971, 新庄村毛無山
- 16) *Xylotrechus grayii* WHLTE ムネマダラトラカミキリ
1 ex., 30. VI. 1968, 新見市天銀山
- 17) *Xystrocera globosa* OLIVIER アオスジカミキリ
1 ex., 30. VI. 1968, 新見市天銀山

参 考 文 献

- 1) 青野孝昭・宇野弘之・重井 博・脇本 浩 (1970), 岡山県のカミキリムシ (すずむし, 19 (1・2): 1~42)
- 2) 原色昆虫大図鑑 (第2巻) (北隆館: 1957).

岡山県未記録のカミキリムシ数種

山 地 治

岡山県のカミキリムシが青野・宇野・重井・脇本の4氏によってまとめられましたが、筆者はそれに記載されていない次の種を採集していますので追加種として報告しておきます。

1. *Necydalis odai* HAYASHI ヒゲシロホソコバネカミキリ
1♀, July 15, 1971, 那岐山
2. *Ceresium holophaeum* BATES ヨコヤマヒメカミキリ
2 exs., Aug. 2, 1970, 臥牛山
3. *Phymatodes quadrimaculatus* GRESSITT ヨツボシヒラタカミキリ
5 exs., May 17, 1970, 上斎原村三ヶ上
4. *Mesosa poecila* BATES マダラゴマフカミキリ
1♂1♀, May 30, 1971, 臥牛山
5. *Sybra kuri* OHBAYASHI et HAYASHI クリチビカミキリ
4 exs., June 27, 1971, 上斎原村三ヶ上
6. *Pterolophia castaneivora* OHBAYASHI et HAYASHI クリサビカミキリ
1 ex., June 27, 1971, 上斎原村三ヶ上

倉敷昆虫同好会顧問

深谷昌次先生
石原保先生
小泉憲治先生
安江安宣先生
佐藤清明先生
杉山章平先生
白井隆先生
重井博先生

医療法人

重井病院

倉敷市幸町 TEL (22) 3655

すずむし No. 108, June 15, 1972

倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町 (倉敷昆虫館内)
振替口座 岡山6927

本部 (倉敷市中央2丁目20の1 岡山大学太原農業生物研究所内)